

平成27年度 第3回向日市ふるさと創生計画委員会 議事要点録

日 時：平成28年1月7日（木）午前10時から12時まで

場 所：向日市民会館 第1会議室

出席者：（委員）

中村委員長、大塚副委員長、高橋委員、藤澤委員、東委員、森田委員、山舗委員
池田委員、松井委員

（事務局）

今西市長公室長、鈴木総務部次長、酒井市民生活部長、植田健康福祉部長
大野建設産業部長、栃下上下水道部長、奥村教育部学校教育課担当課長
小賀野市長公室次長、長谷川企画調整課長、内海主任

（傍聴）12人

内 容：以下のとおり

1 開会

2 議題

○ふるさと向日市創生計画（案）について

－事務局から資料説明－

- ・ 向日市人口ビジョン（案）について、本市は桂川・洛西口新市街地の開発が進む今後数年間は人口増加が予想され、他自治体と状況は異なることを踏まえつつ長期的視点で人口を展望すること、また、京都・大阪の大都市圏の間に位置し、悠久の歴史を有する本市の利便性と魅力に一層磨きをかけ、PRすることで人の流れをつくり産業の活性化を図ること、また、安心して生活を営み子どもを産み育てられる環境づくりに取り組んでいくことが重要である旨を説明。
- ・ 向日市まちづくり市民アンケートにおける年代別集計結果及び転入転出アンケートの集計結果について説明。
- ・ ふるさと向日市創生計画（案）について、構成及び施策の3つの柱の概要について説明。
- ・ 向日市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について、人口減少対策及び地域活性化の観点からふるさと向日市創生計画の施策を抽出、再構成して作成していることを説明。

（委員長）

- ・ 人口ビジョンの推計は国から出ているものに桂川・洛西口新市街地を加味した推計が行われている。全国的な話として、2020年には団塊の世代の方が後期高齢者になること、また、亡くなれる方が増えることが予想され、傾向として人口が減ることが言われており、向日市においても人口減少が予想されるどころ。
- ・ 「③社人研＋北部＋出生率向上」では出生率向上も見込んでいるが、それでも人口は減るだろうとなっている。
- ・ 市民アンケートについて、2頁にあるように、回答者の年齢層が実際の年齢構成より全体として高くなっている。そのため、年代別の分析も行っている。
- ・ 転入・転出者アンケートでは、実施期間が9～10月であり、通年でみるとまた異なる結果になるかもしれない。例えば3～4月の移動が多い学生はあまりサンプルに入っていないだろう。9月は転勤時期でもあり、そうした層の回答が多いであろうことに留意が必要。

- ・ 3 頁で、回答者のうち、例えば結婚相手が向日市にもともと住んでおり、そこに相手が転入してきた場合は、回答としては一人なのか、夫婦なのか。

(事務局)

- ・ 転入後の世帯形態なので、その場合は夫婦になる。

(委員)

- ・ 若い人の転入・転出が多い。この時期にワンルームや社宅などに会社の転勤により異動したのではないか。居住年が短い人が多く、このまちを生活の基盤とする人はあまり多くは見えない。

(事務局)

- ・ 通年ではなく、一定の期間での調査であり、その期間の特徴と考えられる。

(委員長)

- ・ 転勤者が年間に比べて多いであろうことを想定した上での判断が必要。

(委員)

- ・ 「歴史を活かし、活力と魅力あるまちづくり」だが、PRのことを考えると、「長岡京」といった方がよいのか、それとも「長岡宮」というのか。「長岡宮」は少し説明が必要になる。どちらがより効果的か。「平城京→長岡京→平安京」という遷都の歴史が一般的であり、長岡宮と言うと、それはどこなのかとなる。どのように説明し、どのように広く知ってもらうかが観光にもつながる。

(事務局)

- ・ 「長岡京」という表現は長岡京市と思われやすく、「長岡宮」では宮の意味が理解されにくい。わかりやすい方法はまだ手さぐりであり、もっと認知していただけるような方法について、まちの魅力の戦略的な発信の施策を通じて探っていきたい。

(委員長)

- ・ 計画内ではどのように書いているのか。

(事務局)

- ・ 「史跡長岡宮跡」と表現している。本市にしかない特徴的なものである。

(委員)

- ・ 長岡京の中心地が向日市にあったことはその通りだが、来訪者への説明や旅行会社のパンフレットなどにおいて、本当のことを言っているだけでは後手に回る。長岡京も長岡宮も両方書いてもよいかもしれない。

(委員長)

- ・ 長岡京の中心が長岡宮。何かわかりやすい表現があるとよいが。

(委員)

- ・ それを早く決めることが今後のPRの課題になる。

(事務局)

- ・ 長岡京の中心は向日市だということをまずは発信したいと考えている。

(委員)

- ・ ロマンあふれるイメージはあるが、それほどロマンを感じない人もいる。観光なら「巡り」を考えなければ、長岡京のピンポイントでは難しい。
- ・ 京都市は歩けるまちを打ち出している。高齢者の歩きや子どもの教育のためには、竹の径や真経寺、向日神社などを歩いて巡回できるようなまちにしていくべき。大極殿などは建物がなく、発掘してもまた埋めてしまうことになる。
- ・ 向日市文化資料館への来訪者をもっと増やすように考えてはどうか。

(委員長)

- ・ 近代につながる色々な歴史、お城などもあり、もっといろいろ取り上げるべきものもある

のではないか。

(委員)

- ・ 京都市にはあちこち回れる資源がある。メインが長岡宮でも、ほかにこんなものもあるよと言った方がよい。
- ・ 地元の人には長岡宮に親しみを感じていると思うが、初めての人を連れて行くと、「地味なところだね」と言われた。もっとロマンを感じさせる仕組みが必要。無理に飾りたてるということではなく、淋しいと思われぬような何らかの工夫ができればよい。行った人が良かったと思えば口コミで広がる。そう思われなければ、次につながらない。

(委員長)

- ・ コンテンツの充実も必要だろう。

(事務局)

- ・ 今年と来年で観光振興プランを策定することとしている。

(委員長)

- ・ 策定にあたって、今のような意見をフィードバックしてもらえるとよい。
- ・ 資源は多いがまだみんなに気づかれていない。タクシーの運転手さんに聞くと、京都市内を何回もまわったような方、マニアはここに来ているという。これからの展開が期待できる。

(委員)

- ・ 向日市はいわゆる観光地というところではないように思う。なぜ観光をクローズアップするかというと、住んでいる人にその魅力を感じてもらい、発信してもらうことで、自分たちのまちに誇りをもってもらうという要素が大きいのではないか。その結果として市外からも来てもらえるようになることが望ましい。
- ・ 素人受けするものではないが、一つ一つの資源が本物。時代ごとにみると、乙訓古墳群が正式に史跡指定を受ける予定。朝堂院や大極殿という長岡京の中心があり、向日神社などで年中行事を今もきちんと引き継いでいる。通の人には興味深い催しも多く、一定、きっちり説明できるようにすることは必要。説明などソフト面での充実、そして時代ごとに区切ったストーリー展開などによる魅力の向上を図ればすごく良くなる。また、住民もまちの魅力を再認識できる。

(委員長)

- ・ 人口が減少するなかでどうするか、交流人口の増加も一つの視点としてある。
- ・ 知名度を高める観光振興か、働く場をつくる観光産業振興まで踏み込むのか、このあたりも考えていく必要がある。

(委員)

- ・ 商工会の現状をお話すると、新たに会員になる人とやめる人がほぼ同数で、やめる人の多くが廃業である。もともとの中央商店街も実態としては住宅街になっており、事業をやめて更地になると住宅が建ってしまい、商店街の活性化は難しい。
- ・ 昭和 41 年から向日市に住んでいるが、当時は操車場よりも遠くから買い物に来ていた。今も中規模スーパーはあるが、東向日のイオンが閉店し、移手段を持たない人が日常の買い物に困っている。
- ・ なぜ廃業する商工業者が多いのかというと、小さな商店では後継者不足で、子どもは会社勤めというケース。4 年前からプレミアム商品券にも取り組んでいるが、顧客をつなぎ止めるまでには至っていない。

(委員長)

- ・ 大型小売店に引っ張られるという問題は全国どこでも共通の問題としてある。東向日については、新たに店舗が設置され、市役所の窓口も設置されると聞いたが。

(事務局)

- ・ イオン向日町店跡地にマンションができ、1・2階にイオン系列のスーパーが設置され、3・4階に市役所機能の一部移転を予定している。

(委員)

- ・ 商工業の活性化は雇用につながる。
- ・ 従来どおりの商店街振興は難しい。成功事例として向日市激辛商店街がある。最初は京都府の補助金で始めて、その後大きく発展した。あのような発想の転換が必要。向日市にはその土壌があるということであり、悲観することはない。
- ・ 今後は「商店街」という物理的な対面販売だけで考えるのではなく、インターネットをはじめ、いろいろなあり方を考える必要がある。

(委員長)

- ・ インターネットやIT関係の記述があまりない。工業においても中小企業はこれまでのように大手企業に売るのではなくなっている。関東のある企業は5~6万円する携帯ケースをつくって、インターネットで販売している。従来のように商店街で売るのではなく、個別の小さな製造業がインターネットで売れる時代。そこを面白いと思う人が店舗も訪れる。
- ・ 農業の活性化も可能性がある。直売市の計画はあるが、もっと観光と関連して外向けの考えを持ってよいのではないか。

(委員)

- ・ 向日市のふるさと納税では、農産物などのプレゼントはあるのか。

(事務局)

- ・ 5万円以上の寄付者を対象にタケノコを用意している。

(委員)

- ・ ほかにはない向日市の特徴なので、よいことだと思う。
- ・ 散歩していると、何もしていない農地がある。農家には、あまり儲からないとか経費の関係などで、自分で食べる分だけしか作らないというところもあり、もったいない。現実的ではないかもしれないが、農地を住宅地にして人を増やした方がよいという考え方もあるのではないか。

(委員長)

- ・ 地方に行くと、耕作放棄地の集約やオーナー制度、新規就農などの方法もある。しかし大都市周辺では住宅にすればすぐ売れるということもあり、なかなかそういったことは進まない。ただ、今後、農業における税制等が変わった時を若手農業者は心配している。
- ・ 既にJAを介さない販売なども出てきており、若手農業後継者の行動は「商業」に近づいている。そうした活動をうまく支援できるとよいのだが。

(委員)

- ・ 農業も商工業と同様、後継者が問題。新しい芽は芽吹いており、農業と商工業のマッチングを行政にも進めてもらっている。それを押し進めることが大事である。激辛との関係で、市内の若手農家がハバネロを生産・販売するという取組も出てきている。
- ・ インターネットへの対応は難しい。しかしひとつの方法であることは間違いなく、やり方によっては無料で全世界に発信できるので、チャンスを活かせる場合もある。
- ・ 観光の目標では、来訪者が増える分だけ消費額が増えるという計算になっているが、一人当たりの消費金額は計算すると同じになっている。消費額を増やさないといけない。

(事務局)

- ・ 観光客は現在の1.5倍程度を目指している。一人当たりの消費額は、そこまで踏み込めるかどうかというところ。特産品の開発とかバス駐車場などの客を呼び込む取組をまず進めるが、一人当たり消費額は現状維持程度にしている。

(委員)

- ・ 「観る、食べる、買う」のうち、歴史資源などの「観る」はある、しかし「食べる、買う」の策がないと、お金を落としてもらえない。
- ・ お金を落としてもらおう仕組みと向日市での働く場の創出を併せて、雇用の創出や生活を豊かにしながら人口問題の解決に向かうための策がほしい。

(委員長)

- ・ 一人当たりの消費額を増やすための検討は必要。観るところが増えると滞在時間が伸び、飲んだり食べたりして消費も増える。

(事務局)

- ・ 5年間の固定した計画ではなく、毎年、進行管理し、見直しを図る。来年度になると思うが、柔軟に施策のスクラップ&ビルドに取り組みたい。

(委員)

- ・ 森本～寺戸の南北の道ができたが、車も増えた。信号はどうすれば設置してもらえるのか。森本と寺戸の中間で今までなら東西に行き来ができたのに、車が待ってくれず、中々通れないことが増えた。点滅信号でもできれば安心して歩けるようになるのだが。

(事務局)

- ・ 梅ノ木の交差点へのご指摘と思う。信号機の設置は警察が行うもので、市としては地元自治会とともに信号を設置してもらえるよう相談してきたが、京都府警としては見通しも良く東西の進入も一旦停止で対応できるという判断だった。

(委員長)

- ・ 粘り強く要求しなければいけない。
- ・ 信号機の設置も含め、市だけでできないことも多い。市民アンケートでもまちは便利な一方、道路が狭い、市内移動が大変だという意見があった。

(委員)

- ・ バスが走れるとか、向日神社の周辺の駐車しやすさといった環境整備も必要。

(事務局)

- ・ 観光バス駐車場は設置を目指している。道路事情もあるので、道路整備が終わった場所から取り組みたい。

(委員長)

- ・ アシスト機能付自転車も普及し、今、自転車を都市交通のひとつとして位置づけることが必要になっているのではないか。通行レーンの整備は書いているが、交通ネットワークとして取り上げてほしい。他都市ではレンタサイクルの導入を進めているところもある。

(委員)

- ・ アンケートで高齢者の方から医療・福祉に対する不安があった。住むことへの満足度は高いので、病院への意見かと思う。市がやることではないのかもしれないが、大規模病院は京都市あるいは長岡京市に行く必要がある。

(事務局)

- ・ 京都府に保健医療計画があり、京都市・乙訓郡がひとつの医療圏として設定されている。圏域内で病床数や連携体制等が定められており、医療圏内には大規模病院があることから新たな病院の誘致は考えていない。
- ・ 子育てについては、産院が一つ向日市にもできる予定である。

(委員長)

- ・ 医療への不安は、事務局でも何らかの対応を検討してもらいたい。

(委員)

- ・ 健康づくりでは目標が検診となっているが、それだけでよいのか。これまでからも、積極的・能動的な施策が実施されていると思うので、それを盛り込んでどうか。健康関連企業

の本社もあり、連携なども考えられる。

(事務局)

- ・ ご指摘のように、市内には製薬メーカーや健康器具メーカーの本社があり、京都府立医科大学を含めた産学公による協定を結び、地道に市民のため健康づくりの事業を展開している。
- ・ 本計画では拡充・新設する施策を中心に記載するものとなっており既に始めている事業なので割愛しているところ。市民の要望に応えられるよう工夫したい。

(委員)

- ・ 北部のマンションでは保育所がなくて困っているという声を聞く。外から人を呼び込むことも重要であるが、やっぱり自ら増やすということが重要で、人口問題も含め地域の活性化のためには少子化対策・子育て支援の強化をしっかりやってもらいたい。

(委員長)

- ・ これまで地方部で行われていた施策が大阪や京都など大都市圏でも実施され、人を取り合う競争が起こっている。少子化対策・子育て支援は重要である。

(委員)

- ・ アンケートでは 20 歳代で働く場所がないという意見があった。これから子どもを産み育てていこうという世代では、子どもを保育所に預けて、近所で働きたいというニーズもある。片方の収入だけでは大変だという声は多い。いろいろなことがこの少子化対策にはつながってくる。
- ・ 女性が子どもを預けて、短時間だけでも働ける場づくりをみんなで考えたい。

(委員長)

- ・ 愛知県豊田市では男性が多く、男性 100 に対し女性 70、80 ぐらい。景気はよいが結婚できないという状況があり、女性の雇用に力を入れようとしている。参考になるのでは。

(委員)

- ・ J R 向日町駅の東口を開設する予定はあるのか。できれば雰囲気が変わると思う。
- ・ J R の操車場があるが、敷地がフル稼働していないように思う。市に売却してもらえそうな空いた場所はないのか。

(事務局)

- ・ 東口については、地元まちづくり協議会や周辺事業所と協働し、取り組んでいく予定にしている。
- ・ 操車場については J R との話し合いをしており、市としても有効活用を図るよう申し入れているが、今のところ空いている施設はないとのこと。今後も J R 西日本との協議を継続していきたい。

(委員)

- ・ 交通ネットワーク整備について、コミュニティバス等との記載があるが、道幅や費用対効果、高齢化を考えると、例えばある年齢以上の方へのタクシー補助券の配布はどうか。

(事務局)

- ・ 高齢者の市内移動については地域公共交通会議で検討している。
- ・ 福祉サイドでは、地域包括ケアにおいて、どんな仕組みが良いか、検討しているところである。タクシーの利用も含め、検討していきたい。

(委員長)

- ・ コミュニティバスは実施している各自治体でかなり大きな負担になっている。うまくいっているところは商業施設などのスポンサーをつけ、子育て世帯の利用や病院とも連携しているケースが多い。

(委員)

- ・ 「健やかな身体の育成と体力の向上」のところで体力テストの結果が全国平均を上回ると

しているが、表の数値を見ると向日市の子どもは全国を下回っている。

(事務局)

- ・ 表は平成 26 年の現状数値であり、全国より低い。目標として全国を上回りたいとしている。

(委員)

- ・ 向日市の魅力を住民に知ってもらう上で生涯学習は大切に有意義。学習機会充実の次の段階としてふるさとガイドの養成等ができるといいのではないか。そういう人がいれば、より魅力も高まる。

(事務局)

- ・ 既にボランティアガイドという形で、文化資料館にいる。講座等の学習機会が活性化してこうした人が増えて、ガイドになってくれると有り難い。

(委員)

- ・ 学校支援地域本部事業に関わっている。学校が地域本部に要望して、地域本部が外部の人と連絡をとって地域の人たちと事業に関わることをしたりというところだが、例えばどこかに見学に行くとか、逆に外部から説明に来られるとか、そういったことを簡単に進められるようになればと思う。より柔軟な仕組みにしてもらいたい。

(事務局)

- ・ 学校支援地域本部事業は地域本部がコーディネーターとなって、特色ある学校づくりに地域とのつながり役をしてもらうことが基本で、市としては本事業以外にも外部の先生を活用できるよう資金面の支援を行っている。お手伝いできる場所があれば、させていただきたい。

(委員)

- ・ 「重大ないじめの発生件数」となっているが、重大ないじめとは。

(事務局)

- ・ 文部科学省による定義で、身体・生命に被害が及ぶようなものや、いじめを主たる要因としてとして年間 30 日以上欠席してしまうような案件である。

(委員長)

- ・ 一般の方がわかりにくい用語については説明をつける等工夫が必要。

(委員)

- ・ 向日台団地の老朽化が進んでおり改修するというニュースがあった。府のものだとは思いますが、もっと多くの人が住めるようなものにできないのか。
- ・ JR 桂川周辺のマンションについて、入居者に対する自治会加入の促進はどうするのか。市としてのアプローチは。

(事務局)

- ・ 向日台団地については、市長が京都府に対し、早期に建て替えることを要請している。

(事務局)

- ・ 自治会については、寺戸町自治連合会と協力し、入会を要請している。
- ・ 全国と同じく、市全体で自治会加入率が低下しており、その改善に向けて広報啓発を実施しているところである。

(委員)

- ・ 数値目標がないところがあるが、やはり設定が難しいということか。

(事務局)

- ・ 検討したが数値化できていないところは設定が難しい。

(委員長)

- ・ 皆様の意見を聞いていると、それぞれの課題が関連し合っており、そのことを意識して施策

の実現に向かう必要がある。例えば観光・商工業・農業にしても、男女共同参画やワークライフバランス、雇用等がからむ。

- ・ これまでの意見を踏まえ、策定を進めていただきたい。

3 その他

(事務局)

- ・ 本日のご意見等を踏まえて計画内容を調整し、2月にパブリックコメントを実施する。パブリックコメント終了後、年度内に計画を策定する予定にしている。
- ・ 今年度の委員会は本日で終了となる。来年度以降、この計画の進捗管理及び見直し等、委員の皆様には引き続き協力をお願いしたいと考えている。

4 閉会

平成27年度 第3回 向日市ふるさと創生計画委員会

日 時：平成28年1月7日(木)

午前10時から

場 所：向日市民会館 第1会議室

次 第

1 開 会

2 議題

ふるさと向日市創生計画（案）について

3 その他

4 閉 会

ふるさと向日市創生計画 (案)

向日市

1 序論

(1) 計画策定の目的

わが国の人口は、平成20年以降、減少に転じ、本格的な少子高齢化時代を迎えています。今後、人口減少は特に地方で急激に進むと予想され、地域活力の低下が危惧されています。

本市では、平成17年の55,041人（国勢調査）をピークに、初めて人口が減少に転じ、少子高齢化が進展している中、桂川・洛西口新市街地に大型商業施設や企業が進出するとともに、住宅の立地が進み、今後数年間は人口増加が予想され、他のまちとは異なる状況となっております。

しかし、長期的には、本市も、国と同様、人口減少の傾向となることが予想される中、地域を維持し、活性化するためには、地域の実情に応じて、「これから先向日市はどうあるべきか」「どうすべきか」そして「どのようなまちにしたいか」ということを自らでしっかり考え、今やらないとまらないまちづくりにスピード感を持って、しっかり取り組んでいくことが重要です。

こうしたことから、すべての市民の皆様に向日市が「ふるさと」であると思っただけのよう、そして「向日市を良くしたい」という思いが行動につながるよう、まちづくりに取り組むとともに、歴史を活かした「ふるさと向日市」の創生を図るため、「ふるさと向日市創生計画」を策定します。

(2) 計画の位置付け

この計画は、第5次向日市総合計画基本構想を踏まえつつ、後期基本計画に代わる新たな計画として、今後、本市が目指すべき方向性を示したまちづくりの最上位計画と位置付けます。

(3) 施策の柱

市民の皆様が誇りを持てるまちづくりを進めていくため、史跡長岡宮跡等歴史あふれるまちの魅力を広く発信する取組や、より一層の地域資源の活用、誰もが安心して暮らせる地域づくりを行っていくため、「歴史を活かし、活力と魅力あるまちづくり」「人と暮らしに明るくやさしいまちづくり」「信頼と協働で市民の声が届くまちづくり」の3つを本計画における施策の柱とします。

なお、本計画を推進するため、施策の柱には、関連する施策分野、具体的な施策及び取組を設定します。

① 歴史を活かし、活力と魅力あるまちづくり

面積7.72㎢という西日本一コンパクトな市内には、古墳群や向日神社、史跡長岡宮跡、西国街道など連綿と続く歴史・文化資源が豊富に存在しています。

こうした歴史・文化資源は本市固有の貴重な資源であることから、「向日市歴史的風致維持向上計画」（歴まち計画）の認定を契機として、歴史の事実と魅力を国内外に発信し、まちの賑わいと活力を維持・創出することで、子どもから高齢者まで、全ての市民の皆様に向日市を「ふるさと」として愛着と誇りを感じられるまちづくり、そして観光・交流などを通じて訪れた人が「訪れてよかった」「また訪れたい」と感じ、「いつかは住みたい」と思われるまちづくりを進めます。

【施策分野】

歴史あふれるまちづくりの推進

産業の活性化

② 人と暮らしに明るくやさしいまちづくり

少子高齢化時代を迎え、人口減少と少子高齢化に立ち向かうため、結婚から妊娠、出産、子育てに至る切れ目ない母子支援や健康づくり、福祉・医療の充実に地域ぐるみで取り組むとともに、まちのコンパクトさや鉄道の利便性を活かし、市内公共交通の利便性向上や防災・防犯・交通安全への取組など、老若男女を問わず、誰もが安心・安全・健康に暮らすことのできる環境づくりを推進します。

【施策分野】

少子化対策・子育て支援
健康づくりの推進
高齢者が安心して暮らせる体制の充実
障がい者福祉の充実
地域福祉の充実
環境・資源循環の推進
生活の安心・安全の確保
消防・救急体制の強化
ライフラインの強化
学校教育の充実
生涯学習の推進
生涯スポーツの振興

③ 信頼と協働で市民の声が届くまちづくり

地域の実情にあったまちづくりを進めていくには、市民の皆様の信頼と協働が不可欠であり、そうした信頼関係を築いていくため、行政情報の適切な公開や市長と市民が対話をできる仕組みづくり、市民参画の機会や場の創設など、市民の皆様の「自分たちで向日市を良くしたい」という思いが行動につながり、市民の皆様の声が行政に届くまちを築きます。同時に、多様性を認め合い、尊重し合う社会を実現するため、人権・平和や男女共同参画の積極的な取組を推進するとともに、本市が将来にわたって安定・自立した行財政運営ができるよう、効率的で健全な行財政運営を推進します。

【施策分野】

市民協働の推進
人権・平和・男女共同参画の推進
行財政運営力の向上

(4) 計画期間

「ふるさと向日市創生計画」は、まちづくり課題への迅速な対応、そして次代の発展への礎を築いていくため、重点・優先して取り組む施策を明らかにし、平成27年度から平成31年度までの5か年を計画期間とします。

なお、急激に変化する時代や環境の変化にスピード感を持って、しなやかに対応していくため、計画期間内においても毎年、見直しを行うものとします。

柱 1

歴史を活かし、活力と魅力のあるまちづくり

＜施策分野 1＞歴史あふれるまちづくりの推進

施策 1 歴史・文化資源の整備と活用

施策 2 観光振興の推進

施策 3 まちの魅力の戦略的発信

＜施策分野 2＞産業の活性化

施策 1 商工業の活性化

施策 2 農業の活性化

＜施策分野 3＞都市基盤の整備

施策 1 道路整備の推進

施策 2 快適で安全便利なまちづくり

施策 3 鉄道関連事業の推進

施策 4 公園緑地の整備と緑の保全

＜施策分野1＞歴史あふれるまちづくりの推進

施策1 歴史・文化資源の整備と活用

■基本方向

- 史跡長岡宮跡や古墳群等市内に所在する文化財の保護及び積極的な整備・活用に努め、歴史・文化資源を活かしたまちづくりを推進し、未来に継承します。
- 市内外の人々が集い交流できる歴史文化拠点を整備します。

■取組

取組
歴史文化拠点の整備
史跡長岡宮跡や古墳群の整備の推進

■施策が目指す姿・目標

- 史跡長岡宮跡や古墳群等の魅力あふれる全国に知られたまち
 - ・文化資料館入館者数 【H26：11,508人 → H31：17,000人】
 - ・朝堂院公園来訪者数 【H26：6,645人 → H31：10,000人】

施策2 観光振興の推進

■基本方向

- 本市が誇るべき歴史・文化資源を活かし、地域経済の活性化を図り、また、国内外から積極的に観光客を誘致するため、ハード・ソフト両面での総合的、多角的な観光施策を推進します。

■取組

取組
観光振興プランの策定
土産等特産品の開発及び飲食店、特産品販売所の開設支援
観光バスも利用できる駐車場の整備
ホテル等の複合型宿泊施設の誘致

■施策が目指す姿・目標

- 「観る・食べる・買う」ことができ、まちぐるみで来訪者を温かく迎えることができるまち
- 自動車や観光バスで訪れることができるまち
 - ・観光入込客数 【H26：260,000人 → H31：390,000人】
 - ・観光消費額 【H26：87,000千円 → H31：130,500千円】
 - ・観光振興プラン 【H28：策定】
 - ・特産品開発件数 【H26：－ → H31：3件】

施策3 まちの魅力の戦略的発信

■基本方向

○ふるさと向日市に対する理解と愛着を深められるよう、歴史の事実とまちの魅力を市内外に戦略的に発信します。

■取組

取組
ふるさと向日市のPRの推進
向日市検定の実施

■施策が目指す姿・目標

- 「古都のむこう、魅力のふるさと」と思っただけのまち
- ・「かぐやの夕べ」「向日市まつり」などの
市内外への広報活動による来場者数 【H27実績比10%増】
 - ・本市に対する市民の定住意向の割合 【H27：73.8% → H31：80%以上】
 - ・向日市検定受検者 【延べ5,000人（5年間で）】

＜施策分野2＞産業の活性化

施策1 商工業の活性化

■基本方向

○歴史を活かしたまちづくりの施策と連携しながら、商工業者の育成や誘致を支援する取組を推進し、市内商工業の振興、活性化を図ります。

■取組

取組
大型商業施設との差別化を図った魅力的な店づくりへの支援
事業所の要望・相談等及び進出する事業所に対応する窓口体制の整備
金融支援方策の充実の検討
商工業振興センターの整備

■施策が目指す姿・目標

○市外からも買い物客が訪れる活気にあふれる商店があるまち

○事業所が意欲をもって経営ができるまち

- ・経営指導数 【H26：900件 → H26実績比10%増】
- ・市内の創業件数 【20件（5年間で）】

施策2 農業の活性化

■基本方向

○新鮮で安心・安全な農産物を提供するために地産地消を推進するとともに、新たなブランド農産品の開発の支援や農業資源を活用した農商工の連携により、やりがいのある農業経営を支援します。

■取組

取組
地産地消の拡大
耕作放棄地の防止施策や放置竹林対策の実施
特産品の育成・開発への支援
農商工の連携による市内産業の活性化

■施策が目指す姿・目標

○意欲ある生産者や新たな担い手がいきいきと農業経営ができるまち

- ・愛菜楽市出品農家数 【H26：－ → H31：30件】
- ・特産品開発件数 【H26：－ → H31：3件】
- ・市内で生産された農産物や
商工特産品の常設販売所 【1か所設置（H31）】

＜施策分野3＞都市基盤の整備

施策1 道路整備の推進

■基本方向

- 都市計画道路や幹線市道の整備を推進することで幹線道路のネットワークを構築し、活力と魅力あるまちを目指します。
- 市民生活に密着した生活道路・細街路の整備を推進することで、安全で快適な住環境づくりを目指します。

■取組

取組
都市計画道路及び幹線市道の整備
生活道路・細街路の整備
交通安全対策の一層の推進

■施策が目指す姿・目標

- ・整備完了路線 【都市計画道路桂寺戸線、向日市道第2013号線、第3031号線、第2087号線、寺戸幹線1号、寺戸森本幹線2号、寺戸幹線6号 (H31)】
※図「平成31年度整備完了路線」参照
- ・生活道路・細街路の整備 【10路線整備完了 (H31)】
- ・通学路の整備 【10箇所整備完了 (H31)】
- ・バリアフリーに配慮した歩道の整備 【10箇所整備完了 (H31)】
- ・自転車通行レーンの整備 【3路線整備完了 (H31)】
- ・ゾーン30区域の拡大 【1箇所22ha → 2箇所30ha】

施策2 快適で安全便利なまちづくり

■基本方向

○アクセス拠点の整備等、市民の利便性の向上と産業・観光の振興を図るとともに、都市計画制度を活用した快適で安全便利なまちづくりを推進します。

■取組

取組
市役所機能の一部を東向日周辺に移転
名神高速道路スマートインターチェンジ開設事業の推進
土地利用の転換による事業所の誘致事業の推進
木造住宅の耐震化促進
景観計画の策定に向けての調査
都市計画マスタープランの改訂

■施策が目指す姿・目標

- より便利で、より身近と感じられる安心・安全なまち
 - ・(仮称)桂川向日スマートインターチェンジを開設
 - ・都市計画制度(地区計画等)を活用し、企業・事業所の誘致計画の策定
 - ・木造住宅耐震化率 【H25:75% → H31:95%】
 - ・歴史的風致維持向上計画と整合した景観計画の策定

施策3 鉄道関連事業の推進

■基本方向

- JR向日町駅東口を整備し、駅への利便性や安全性を向上させることで、市内東部地域をはじめ市全体の活性化を図ります。
- 阪急東向日駅及び西向日駅について、「古都のむこう、魅力のふるさと」にふさわしい整備を行い、歴史・文化資源への誘導を図ります。

■取組

取組
JR向日町駅東口地域の整備
阪急東向日駅及び西向日駅周辺整備
安全な踏切道の整備
阪急京都線連続立体交差事業の調査の推進

■施策が目指す姿・目標

- ・地元まちづくり協議会や周辺事業所と協働でJR向日町駅東口及び関連する都市計画道路(牛ヶ瀬勝龍寺線等)の整備
- ・阪急東向日駅周辺整備
- ・阪急西向日駅の改築及び周辺道路、桜の径の整備
- ・市道第2013号線阪急変電所前踏切の整備完了
- ・阪急京都線連続立体交差事業の事業概要計画の策定

施策4 公園緑地の整備と緑の保全

■基本方向

○市民や来訪者が憩い、やすらぐことができる場として、歴史・文化・景観資源を最大限活かした夢のある公園整備を推進します。

■取組

取組
歴史的風致維持向上計画に整合した公園整備
古墳等歴史資産を活用した公園緑地整備
竹を材料とした「竹の公園」の整備

■施策が目指す姿・目標

- 歴史・文化・景観資源を活用した公園のあるまち
- ・市民ふれあい広場や大極殿公園等の整備
 - ・はり湖池周辺緑地や勝山公園緑地等の公園緑地整備
 - ・向日市産の竹材を用いた公園整備完了

柱2

人と暮らしに明るくやさしいまちづくり

《施策分野1》少子化対策・子育て支援

- 施策1 安心して産み育てる体制づくり
- 施策2 子育てを支援する保育環境づくり

《施策分野2》健康づくりの推進

- 施策1 生活習慣病予防による健康生活への支援

《施策分野3》高齢者が安心して暮らせる体制の充実

- 施策1 地域包括ケアシステムの推進
- 施策2 認知症施策の推進

《施策分野4》障がい者福祉の充実

- 施策1 安心して暮らし続けられる共生社会の実現

《施策分野5》地域福祉の充実

- 施策1 福祉のまちづくりの推進

《施策分野6》環境・資源循環の推進

- 施策1 ごみ減量化の推進
- 施策2 地球温暖化防止対策の推進

《施策分野7》生活の安心・安全の確保

- 施策1 交通ネットワークの整備
- 施策2 災害時対応の充実
- 施策3 防災力・防犯力の強化

《施策分野 8》消防・救急体制の強化

- 施策 1 地域消防・救急力の強化
- 施策 2 火災予防意識の徹底

《施策分野 9》ライフラインの強化

- 施策 1 上下水道事業の安定経営
- 施策 2 水道水の安定供給

《施策分野 10》学校教育の充実

- 施策 1 学力の向上と個性を伸ばす教育の推進
- 施策 2 豊かな人間性をはぐくむ心の教育の推進
- 施策 3 健やかな身体の育成と体力の向上
- 施策 4 家庭・地域社会との連携による特色ある学校づくり
- 施策 5 教職員の資質能力の向上
- 施策 6 安心・安全な教育環境の充実

《施策分野 11》生涯学習の推進

- 施策 1 生涯学習環境の充実
- 施策 2 家庭・地域社会の教育力の向上
- 施策 3 市民文化の振興

《施策分野 12》生涯スポーツの振興

- 施策 1 スポーツの振興

＜施策分野1＞少子化対策・子育て支援

施策1 安心して産み育てる体制づくり

■基本方向

- 安心して子どもを産み、健やかに育てることができるよう、妊娠期から継続的に支援できる環境を整備します。また、育児支援や親子の交流促進を図るなど地域ぐるみで子育てを応援します。
- すべての子どもの成長・発達に応じた専門的な支援をするため、母子保健対策を充実します。

■取組

取組
妊娠から子育てまでの切れ目ない支援体制の充実
配慮を必要とする子どもたちの成長・発達の支援
子ども虐待の未然防止対策の推進

■施策が目指す姿・目標

- 安心して産み育てることができるまち
 - ・年間出生数 【H26：411人 → H31：500人】
 - ・子育てコンシェルジュによる妊婦の面接 【H26：－ → H28：100%】

施策2 子育てを支援する保育環境づくり

■基本方向

- 子育て支援のための施設の計画的な整備を図るとともに、時間延長等多様な保育サービスの充実に努めます。

■取組

取組
年間を通じた待機児童の解消
時間延長等保育サービスの充実
留守家庭児童会施設の計画的な整備

■施策が目指す姿・目標

- 働く世代を応援し、子どもたちが伸びやかに育つまち
 - ・年間を通じた待機児童 【H26：13人 → H28：0人】
 - ・保育所定員 【H26：1,050人 → H28：1,199人】

＜施策分野2＞健康づくりの推進

施策1 生活習慣病予防による健康生活への支援

■基本方向

○市民が主体的に健（検）診を受け、生活習慣の改善などの健康づくりに取り組めるよう支援します。

■取組

取組
特定健診等の受診率向上と生活習慣病の重症化予防
がん検診体制の充実

■施策が目指す姿・目標

○生涯を通じて健康で豊かな生活を送ることができるまち

- ・ 特定健診の受診率 【H26：43.9% → H31：50%】
- ・ 特定保健指導の実施率 【H26：26.9% → H31：35%】
- ・ 乳がん検診の受診率 【H26：22.4% → H31：25%】

《施策分野3》高齢者が安心して暮らせる体制の充実

施策1 地域包括ケアシステムの推進

■基本方向

○地域全体で高齢者を支える地域包括ケアシステムの機能強化を図ります。

■取組

取組
地域包括支援センターの機能強化
介護予防施策の充実

■施策が目指す姿・目標

○住み慣れた地域で高齢者がいきいきと安心して暮らせるまち

- ・地域包括支援センターによる

訪問回数 【H26：3,319件 → H31：4,870件】

- ・各種健康・介護予防事業

参加者数 【H26：12,043人 → H31：12,400人】

- ・地区別地域ケア会議の開催

【H26：30回 → H31：45回】

施策2 認知症施策の推進

■基本方向

○認知症に対する市民の理解を深めるとともに、認知症高齢者を早期発見して支援につなげます。

■取組

取組
認知症高齢者を支える体制づくりと早期発見の取組の推進

■施策が目指す姿・目標

○認知症高齢者とその家族を地域で支えるまち

- ・認知症チェックサイトへの

アクセス件数 【H27：9,700件 → H31：12,000件】

- ・徘徊SOSネットワーク

協力事業所数 【H26：166箇所 → H31：220箇所】

◀施策分野4▶障がい者福祉の充実

施策1 安心して暮らし続けられる共生社会の実現

■基本方向

○障がいの有無にかかわらず、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる施策の充実に努めます。

■取組

取組
相談支援体制の強化
地域での生活を支援する福祉サービスの充実

■施策が目指す姿・目標

- 障がいのある人もない人も、いきいきと共に暮らせるぬくもりのあるまち
- ・手話通訳者の配置 【H27：2人 → H31：3人】
 - ・計画相談支援 作成率 【H26：91.2% → H31：100%】

◀施策分野5▶地域福祉の充実

施策1 福祉のまちづくりの推進

■基本方向

○市民一人一人がご近所や地域で助け合い、支え合えるまちづくりを進めます。

■取組

取組
地域全体で見守り、支え合う環境づくりの推進

■施策が目指す姿・目標

○互いの顔が見え、地域で共に支え合えるやさしいまち

・地域の見守りネットワーク

事業協定事業者数

【H26：1事業者 → H31：6事業者】

＜施策分野6＞環境・資源循環の推進

施策1 ごみ減量化の推進

■基本方向

○ごみの減量化や資源再利用の取組を強化し、持続可能な循環型社会を目指します。

■取組

取組
公共施設等における資源ごみ回収場所の拡大
小型家電の回収推進
家庭ごみの発生抑制及び事業系ごみの排出抑制

■施策が目指す姿・目標

○環境への負担が少なく、市民一人一人が優しくすむまち

・ごみ排出量 【H26：560g/日・人 → H31：540g/日・人】

施策2 地球温暖化防止対策の推進

■基本方向

○地球温暖化をはじめとする環境問題に取り組み、地球にやさしいまちを目指します。

■取組

取組
温室効果ガスの排出抑制及び省エネルギーの推進
再生可能エネルギーの利用推進

■施策が目指す姿・目標

○市民一人一人が環境保全活動を実践し、地球の未来を大切にすまち

・温室効果ガスの削減 【H2実績比で23%減（H31）】

《施策分野7》生活の安心・安全の確保

施策1 交通ネットワークの整備

■基本方向

○交通弱者の日常生活の交通手段を確保するため、市の地勢や地形にふさわしい身近な公共交通の導入を図ります。

■取組

取組
コミュニティバス等新たな地域公共交通手段の導入

■施策が目指す姿・目標

○地域公共交通のネットワーク連携により、安全・便利に移動できるまち
・新たな公共交通の導入 【H31：運行開始】

施策2 災害時対応の充実

■基本方向

○避難支援体制の整備や避難所運営体制の充実、情報伝達体制の強化等、災害時の市民の安心・安全を守る取組を推進します。

■取組

取組
災害時の要配慮者避難における関係機関との連携
南海トラフ地震に対応した災害備蓄物資の配置と通信設備の確保
災害用仮設給水栓の確保
被災者支援システムの導入及び被災者支援等応急対策事業の拡充

■施策が目指す姿・目標

○あらゆる災害に対応した防災体制を整備し、誰もが安心して暮らすことのできるまち
・仮設給水栓の増設 【H26：－ → H31：16地点】
・応急給水用袋の確保 【H26：7, 200袋 → H31：27, 000袋】

施策3 防災力・防犯力の強化

■基本方向

- 想定をこえる大規模災害に対応するため、災害に対する自助意識の醸成と高揚を図るとともに市内外の様々な民間事業者や関係団体との広域的な協力・連携体制を強化します。
- 局地化、激甚化する降雨にも対応するため、雨水幹線整備を進めるとともに、既存小規模排水路の改善等により、更なる浸水安全度の向上に努めます。
- 防犯カメラを設置し、犯罪の未然防止等を図ります。

■取組

取組
地域自主防災組織の育成支援
改正水防法に対応した防災マップの定期的な見直し
あらゆる事態に対応するための防災協定締結
浸水対策下水道和井川1号幹線整備の推進
浸水対策下水道小規模排水路の改善
雨水タンクの助成制度創設と推進
防犯カメラの設置促進

■施策が目指す姿・目標

- 自助・共助・公助の連携により災害や犯罪に対する備えが強化され、市民が安心できるまち
 - ・防災マップの全戸配布
 - ・和井川1号幹線ルート決定及び事業計画の策定（H28）
 - ・雨水タンクの設置 【H26：－→H31：100基】
 - ・鉄道3駅周辺及び通学路に防犯カメラを設置

◀施策分野8▶消防・救急体制の強化

施策1 地域消防・救急力の強化

■基本方向

○市民一人一人の救急救命に関する知識を深めるとともに、技術の向上に努めることで、複雑・多様化する災害への対応能力の向上を図ります。

■取組

取組
消防団員の確保と消防団活性化の推進
市民の救急対応の向上推進

■施策が目指す姿・目標

- 災害時に市民の安心・安全が確保されたまち
- ・消防団員数150人体制の維持
 - ・救急救命講習の受講者数 【H26：398人 → H31：450人】

施策2 火災予防意識の徹底

■基本方向

○火災予防意識の徹底を図るとともに、自主防災組織を育成することで、安全な地域づくりを推進します。

■取組

取組
住宅用火災警報器の設置促進及び既設警報器の維持管理強化
自主防災組織や自治会・町内会などの初期消火体制の確立

■施策が目指す姿・目標

- 市民と共につくる火災のないまち
- ・火災発生件数0件
 - ・住宅用火災警報器数設置率 【H26：79.8% → H31：85%】

◀施策分野9▶ ライフラインの強化

施策1 上下水道事業の安定経営

■基本方向

- 水道施設の計画的な整備や財源の確保、更なる経営改善に努め、運営基盤を強化します。
- 下水道施設の長寿命化を図るため、予防保全型の維持管理を行います。

■取組

取組
遊休地の活用による市観光駐車場の整備
下水道施設の長寿命化の推進

■施策が目指す姿・目標

- ・観光駐車場の整備による水道事業収入の確保
- ・マンホール等管路施設の内部点検及び修繕 【100% (H29)】
- ・下水管長寿命化率 【H26：80% → H29：100%】

施策2 水道水の安定供給

■基本方向

- 水道施設を強化し、災害時や緊急時でも安全で良質な水を安定供給します。

■取組

取組
物集女西浄水場及び配水池の耐震化
水道管路の耐震化

■施策が目指す姿・目標

- ・物集女西浄水場及び配水池の耐震化 (H29)、長寿命化 (H31)
- ・主要な管路 (基幹管路) の耐震化率 【H26：18% → H31：32%】

《施策分野 10》学校教育の充実

施策1 学力の向上と個性を伸ばす教育の推進

■基本方向

- 「質の高い学力」を育成するため、指導方法・指導体制を工夫・改善し、個に応じた指導の充実に努めるとともに、個性や能力を最大限に伸ばす教育を推進します。

■取組

取組
校種間連携の視点を踏まえた指導方法の工夫・改善
I C Tを効果的に活用した授業の実施
児童生徒一人一人を大切にした特別支援教育の充実
グローバル化等、社会の変化に対応した教育の充実
読書活動を通じた創造力・表現力等の育成

■施策が目指す姿・目標

- 生涯にわたって意欲的に学び、自己実現を目指し、これからの時代をたくましく生きる児童生徒が育つまち
 - ・学校の授業時間以外の勉強時間が平日1日当たり30分に満たない子どもの割合
【H27：小学4年生（18.3%）、中学2年生（27.7%） → 10%以下】
 - ・国語や算数・数学、英語の勉強が「好き」な子どもの割合
【H27：小学4年生（国69.0%、算81.8%）
中学2年生（国59.9%、数62.6%、英60.1%） → 増加】

施策2 豊かな人間性をはぐくむ心の教育の推進

■基本方向

- 公共の精神、伝統や文化の尊重などを踏まえ、伝統や文化に関する教育や道徳教育、体験活動を充実させるとともに、人間として、また社会の一員として主体的に生きるための基本となる資質や能力である豊かな人間性や社会性の育成に努めます。

■取組

取組
道徳教育の推進
あらゆる人権問題の解決に向けて、自ら考え行動できる児童生徒の育成
芸術・伝統文化に触れる機会の充実

■施策が目指す姿・目標

- 一人一人を大切にし、人を思いやり、尊重する心など人間性豊かな児童生徒が育つまち
 - ・人が困っているときは進んで助けようとする子どもの割合
【H27：小学4年生（86.8%）、中学2年生（82.4%） → 増加】
 - ・将来の夢や目標をもっている子どもの割合の増加
【H27：小学4年生（89.8%）、中学2年生（76.5%） → 増加】

施策3 健やかな身体の育成と体力の向上

■基本方向

- 生涯を通じて体育・スポーツ活動に親しむ能力と体力の向上を図ります。
- 知育・徳育・体育の基礎となる食育の推進とともに、現代的な健康課題への理解を深めるなど、健やかな身体の育成を図ります。

■取組

取組
児童生徒の体力・運動能力の向上
食に関する授業の充実等による食育の推進

■施策が目指す姿・目標

- 生涯にわたって体育・スポーツ活動に親しみ、健康で生きがいのある生活を営む児童生徒が育つまち
 - ・新体力テストにおける握力・シャトルラン等において、全国の平均を上回る

H26	握力（筋力）〔kg〕				シャトルラン（全身持久力）〔回〕			
	小学6年		中学3年		小学6年		中学3年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
全国	20.04	19.74	35.70	25.48	62.62	48.95	96.84	62.43
向日市	19.44	19.11	30.27	25.33	66.89	46.39	95.53	68.53

施策4 家庭・地域社会との連携による特色ある学校づくり

■基本方向

- 保護者や地域社会との連携を促進し、家庭・地域社会と一体となった教育活動の充実を図り、特色ある学校づくりを推進します。

■取組

取組
家庭・地域社会への積極的な情報発信と地域人材等の活用
ふるさと向日市への愛着と誇りをはぐくむ「ふるさと学習」の充実

■施策が目指す姿・目標

- 地域社会全体で子どもを包み込み、はぐくもうとする環境の中で、伝統や文化に触れ、ふるさと向日市に愛着と誇りを持つ児童生徒が育つまち
 - ・今住んでいる地域の自然や歴史について関心がある子どもの割合

【H27：小学4年生（71.4%）、中学2年生（33.6%） → 増加】

施策5 教職員の資質能力の向上

■基本方向

○教職員一人一人が、研修等により自己の資質能力の向上を図るとともに、培った実践力を教育活動に積極的に活かし、組織としての学校の教育力を高め、計画的・継続的な教育実践に取り組みます。

■取組

取組
多様な教職員研修の充実

■施策が目指す姿・目標

○強い使命感と高い専門性を持つ教員の育成を図り、児童生徒が、明るくいきいきと学ぶ魅力ある学校づくり

施策6 安心・安全な教育環境の充実

■基本方向

- 児童生徒が安心して通え、楽しく過ごすことができる居場所としての学校づくりに取り組みます。
- 児童生徒の心身ともに健全な発達を促すとともに、安心・安全な教育環境の充実を図ります。

■取組

取組
いじめ・不登校の未然防止・早期解消を図る指導の充実
自然災害や事故等、あらゆる危機に対応する力をはぐくむ安全教育の充実
中学校給食の実施
老朽化等に対応するための学校施設長寿命化の検討
トイレ改修の計画的な推進

■施策が目指す姿・目標

- 安心・安全で快適な教育環境のもと、心身ともに健全な児童生徒が育つまち
- ・重大ないじめの発生件数 【H26：重大ないじめの発生件数 0件 → 0件】
 - ・不登校の児童生徒の割合 【H26：小学校（0.70%）、
中学校（3.25%） → 減少】

《施策分野 11》生涯学習の推進

施策 1 生涯学習環境の充実

■基本方向

○市民が生涯にわたり、多様な学習活動を行うことができるよう、自主的、自発的な学習活動を支援するとともに、学習の成果を活かす場や学習機会の充実に努めます。

■取組

取組
ふるさと向日市の歴史を活かした講座など多様な学習機会の提供
社会教育施設の特徴を活かした学習機会の充実

■施策が目指す姿・目標

○誰もが、いつでもどこでも、生涯にわたって学ぶことができ、その成果を活かすことのできるまち

・社会教育施設の講座等参加者数

【H26：13,438人（中央公民館・地区公民館、図書館、文化資料館、天文館）

→ 増加】

施策 2 家庭・地域社会の教育力の向上

■基本方向

○家庭教育はすべての教育の出発点であり、その担い手である保護者自身が学ぶための学習機会の充実に努めます。

○学校・家庭・地域社会が連携して、様々な活動を通して地域の絆を強め、地域全体で子どもたちをはぐくむ環境づくりを推進します。

■取組

取組
就学前からの子どもの発達に応じた家庭教育に関する学習機会の提供
地域ぐるみで子どもを育てる体制づくり

■施策が目指す姿・目標

○地域社会全体で子どもを包み込みはぐくむまち

・学校支援地域本部事業を

全市立小中学校（9校）で実施 【H27：6校 → H31：9校】

施策3 市民文化の振興

■基本方向

- 市民の自主的な芸術や文化活動に対する支援を行うとともに、文化事業の充実を図るなど、優れた芸術文化に触れる機会の提供に努めます。

■取組

取組
文化創造プランの見直し

■施策が目指す姿・目標

- 文化活動を通じて、生きがいと誇りを持つことができるまち
- 貴重な歴史・文化資源を受け継ぎ、大切に守り育て、未来に継承するまち

《施策分野 12》生涯スポーツの振興

施策1 スポーツの振興

■基本方向

○市民が健康で心豊かに暮らせるよう、市民一人一人のライフステージに応じたスポーツ活動の推進とスポーツに親しめる環境の充実に努めます。

■取組

取組
公益財団法人向日市スポーツ文化協会等との連携によるライフステージに応じたスポーツ活動の推進
防災拠点としての機能を備えた多目的グラウンドの整備検討

■施策が目指す姿・目標

○自らの意欲や健康状態に応じて、誰もが気軽にスポーツに取り組めるまち

- ・成人の週1回以上のスポーツ実施率 【H26：40.8% → H31：50%】

柱3

信頼と協働で市民の声が届くまちづくり

＜施策分野1＞市民協働の推進

施策1 市民のまちづくり参加の仕組みの構築

施策2 市民交流の推進

＜施策分野2＞人権・平和・男女共同参画の推進

施策1 多様性を認め合う社会の実現

施策2 男女共同参画社会の実現

＜施策分野3＞行財政運営力の向上

施策1 健全で持続可能な行財政運営

＜施策分野1＞市民協働の推進

施策1 市民のまちづくり参加の仕組みの構築

■基本方向

○まちづくりの取組及び事業計画の企画・立案段階から市民の意見や意向を把握し、参画できる仕組みを構築します。

■取組

取組
誰もがわかりやすく、利用しやすいホームページの作成や広報紙の充実
市民に対する情報発信体制の充実
市民モニター制度の創設など広聴体制の充実
地域コミュニティの活性化
市民協働の拠点施設の見直し

■施策が目指す姿・目標

- 市民と行政が協働し、知恵と力を結集してまちづくりを進めることができるまち
- ・ホームページや広報紙における「市民発信型情報」の掲載
 - ・市民モニター制度の創設による電子メールやFAX等を利用したモニターの実施
【モニター人数 H26：－ → H31：500人】
 - ・「市民と行政における協働のまちづくり」に対する満足度の向上
【アンケート調査における満足度数値：H27：2.86 → H31：3.00】

施策2 市民交流の推進

■基本方向

○観光等における市民を主体とした体験型の交流を進めます。

■取組

取組
都市間交流の推進
国際交流事業の推進

■施策が目指す姿・目標

- 市民が市民交流に意欲を持ち、市民同士が自ら交流事業を行えるまち
- 友好交流を通じた「ふるさと向日市」の再発見につながる事業の展開

◀施策分野2▶人権・平和・男女共同参画の推進

施策1 多様性を認め合う社会の実現

■基本方向

○市民一人一人が人権について、学び、考え、実践していくことにより、人権という普遍的文化が構築できるよう、人権教育・啓発事業に取り組むとともに、世界平和都市宣言の理念の実現に向け、平和施策を推進します。

■取組

取組
人権教育・啓発推進計画の見直し及び推進
広域行政による人権教育・啓発の推進
平和行動計画に基づいた事業の展開

■施策が目指す姿・目標

○お互いの人権を尊重し合い、共に生きることができるまち

施策2 男女共同参画社会の実現

■基本方向

○男女の人権が等しく尊重され、あらゆる場において性別にかかわらず誰もがいきいきと暮らすことができる男女共同参画社会の実現を目指します。

■取組

取組
男女共同参画拠点（女性センター）の整備
女性のための相談事業の拡充
ワーク・ライフ・バランスの普及・推進

■施策が目指す姿・目標

○男女が共に活躍できるまち

◀施策分野3▶行財政運営力の向上

施策1 健全で持続可能な行財政運営

■基本方向

○将来に渡って安定した行政サービスを行えるよう、変化する社会情勢や多様な市民ニーズに対応できる効果的・効率的な行財政運営を進めます。

■取組

取組
行政手続きの電子化による効率的な行財政運営の推進
公共施設等総合管理計画の策定と推進
健全財政の維持

■施策が目指す姿・目標

- 市民が満足できる行政サービスが提供できるまち
- ・住民票や印鑑登録証明などのコンビニ交付開始（H29）
 - ・健全な財政指標の維持

向日市人口ビジョン（案）

向日市

目次

1	はじめに	1
2	数字でみる向日市	2
	(1)人口の推移	2
	(2)年齢3区分別人口の推移	3
	(3)転入・転出数の推移	4
	(4)出生・死亡数の推移	5
	(5)年齢階級別人口移動の推移	6
	(6)流入・流出人口（15歳以上通勤・通学流動）	7
3	向日市の人口の将来推計と考察	8
	(1)向日市の人口シミュレーション	9
	(2)少子高齢化・人口減少社会に対応するために	11

1 はじめに

平成20年に始まった人口減少がわが国の喫緊の課題となっている現在、平成26年にまち・ひと・しごと創生法が制定され、国及び地方自治体においては、人口の現状と将来の見通しを踏まえた施策の展開が求められています。

本市においては、桂川・洛西口新市街地に大型商業施設や企業が進出するとともに住宅の立地が進み、今後数年間は人口増加が予想され、他のまちとは異なる状況となっておりますが、これまでの人口の推移を分析し、長期的視点でこれからの人口を展望するため、向日市人口ビジョンを策定するものです。

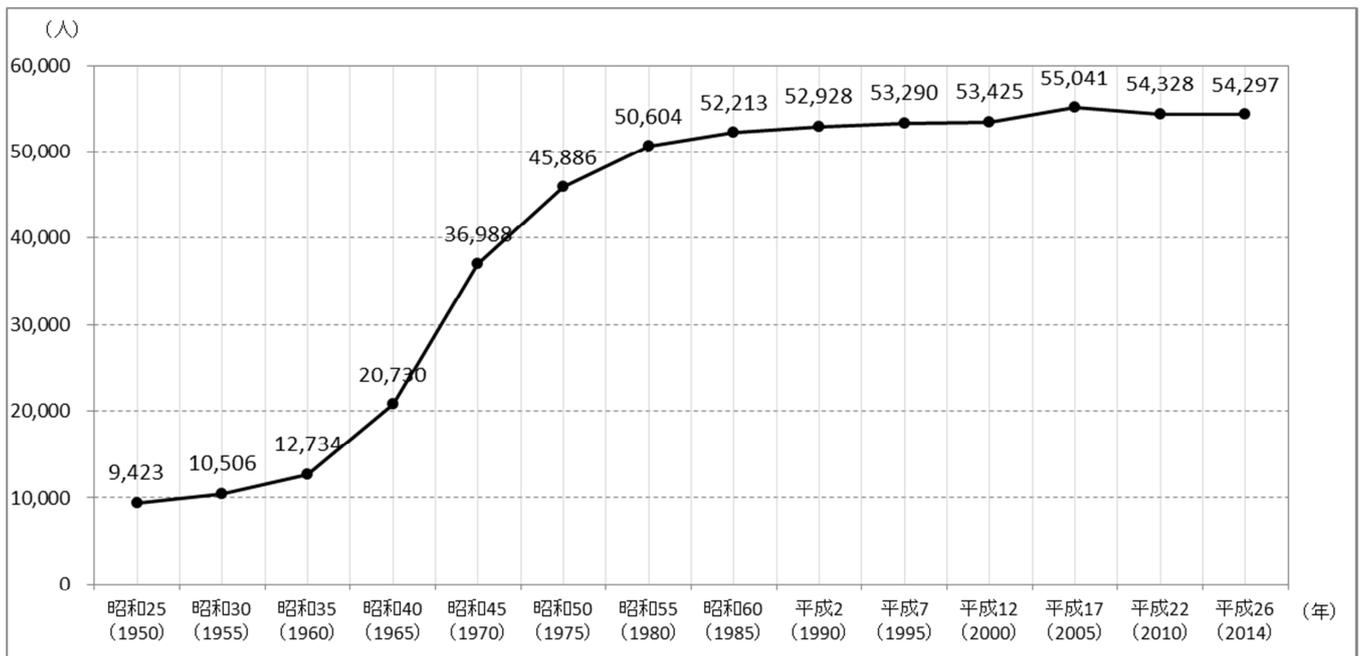
2 数字でみる向日市

(1)人口の推移

向日市の人口は、平成 22（2010）年 10 月に行われた国勢調査では 54,328 人で、平成 17（2005）年の 55,041 人をピークに初めて減少に転じました。

平成 26（2014）年 10 月 1 日現在の人口は 54,297 人で、わずかながら、人口減少が進んでいます。なお、今後数年間は、市域北部で整備が進む桂川・洛西口新市街地への入居が開始され、人口が一時的に増加することが予想されます。

向日市の人口推移



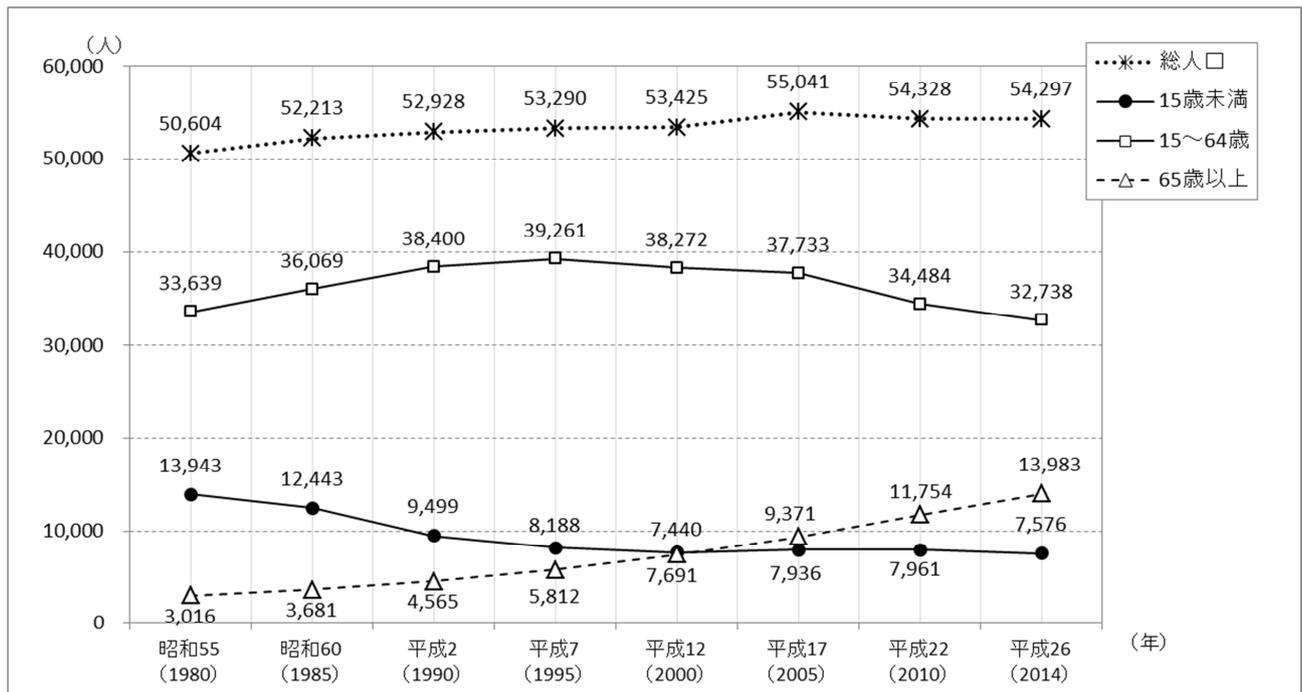
資料：昭和 25（1950）年～平成 22（2010）年は国勢調査、平成 26（2014）年は住民基本台帳（向日市統計書）。

(2)年齢3区分別人口の推移

向日市の年齢3区分別の人口をみると、生産年齢人口（15～64歳）は平成7（1995）年以降、減少傾向にあります。また、平成17（2005）年に老年人口（65歳以上）と年少人口（0～14歳）の逆転が始まっています。高齢化の進展により、老年人口比率も平成26（2014）年には25.8%と市民の1/4を超えています。

昭和55（1980）年には生産年齢人口約11.2人で1人の老年人口を支えていましたが、平成26（2014）年には2.3人で1人の老年を人口支えていることになります。

向日市の年齢3区分別人口の推移



資料：平成22（2010）年までは国勢調査、平成26（2014）年は住民基本台帳（向日市統計書）。

年齢3区分別人口割合の推移

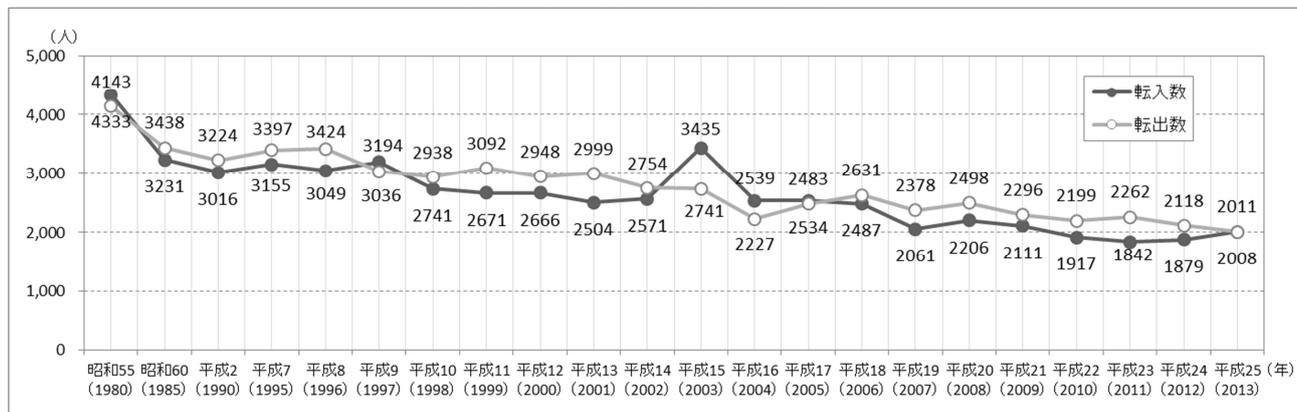


資料：昭和55年、平成22年は国勢調査、平成26（2014）年は住民基本台帳（向日市統計書）。

(3) 転入・転出数の推移

向日市の転入・転出の動きをみると、昭和 60（1985）年以降は平成 15（2003）年など数力年で転入超過の年がみられるものの、多くの年で転出数が転入数を上回る転出超過となっています。また、転入数、転出数とも穏やかな減少が続いており、人口移動の縮小という都市としての成熟が進んでいることを示しています。

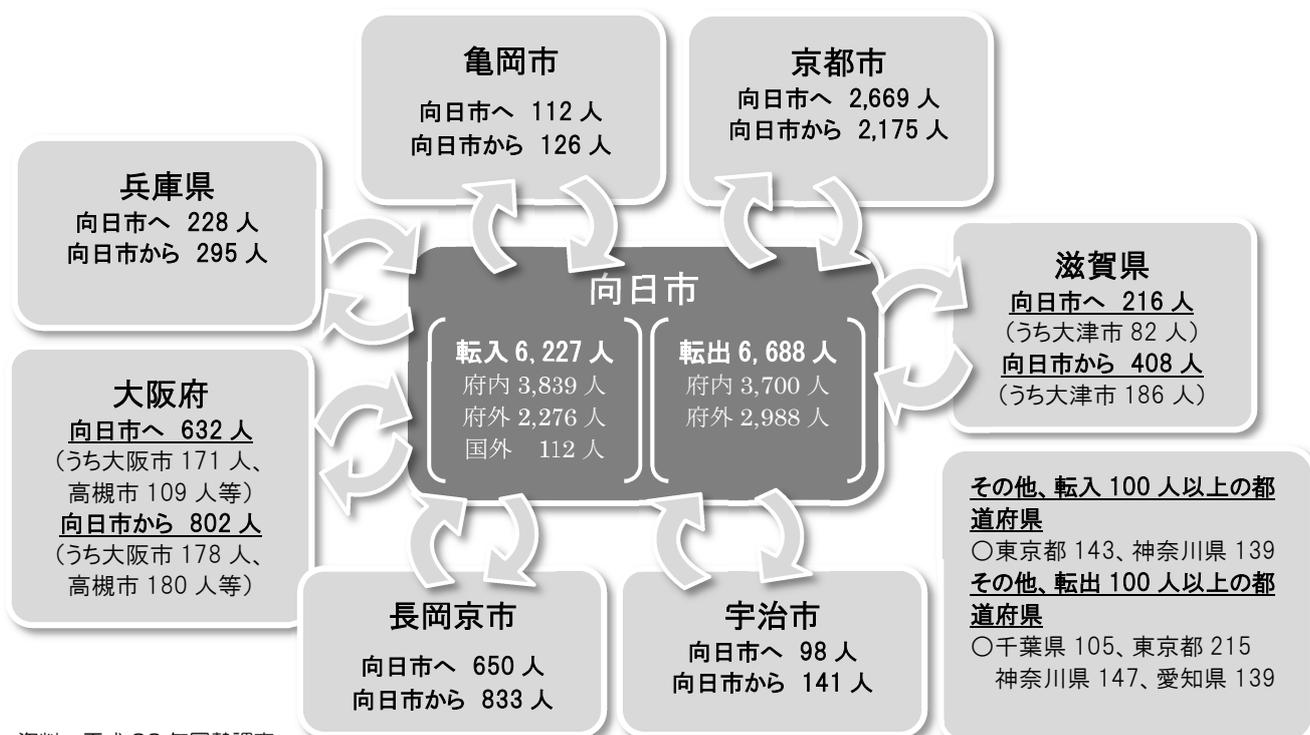
向日市の転入・転出の推移



資料：住民基本台帳（各年 1 月 1 日～12 月 31 日の転出入）

次に 5 年前の常住地からみた向日市への転出入をみると、転入元・転出先とも京都市との移動が多く、また、京都市との関係でのみ、向日市の流入超過になっています。その他に移動の大きな自治体との関係では、ほぼ向日市からの流出超過になっています。また、転出入とも近畿圏内での移動が 80%程度を占め、転出入先はそれほど遠方でないケースが多いと考えられます。

5 年前の常住地からみた向日市への転入元、向日市からの転出先（主な自治体）

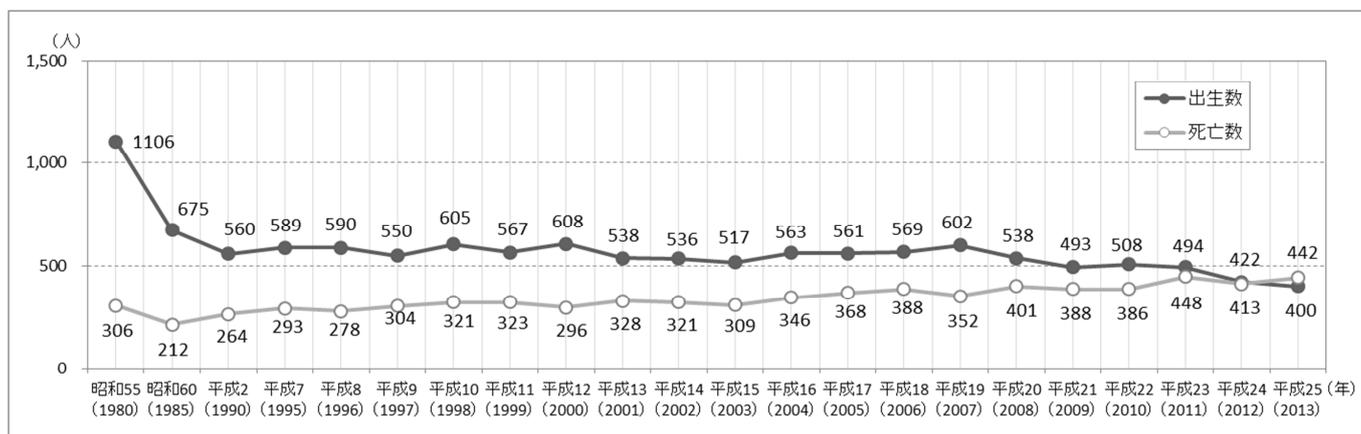


資料：平成 22 年国勢調査

(4) 出生・死亡数の推移

向日市の出生・死亡数の推移をみると、昭和55（1980）年では出生数1,106人に対し死亡数306人、800人の「自然増」で、その後も出生数が死亡数を上回る「自然増」が継続してきました。しかし、出生数は長期的に微減、一方で死亡数の増加が進み、平成25（2013）年では出生・死亡数が初めて逆転しました。自然減と社会減が同時に起こると人口減少が加速するといわれています。

向日市の出生・死亡数の推移



資料：住民基本台帳

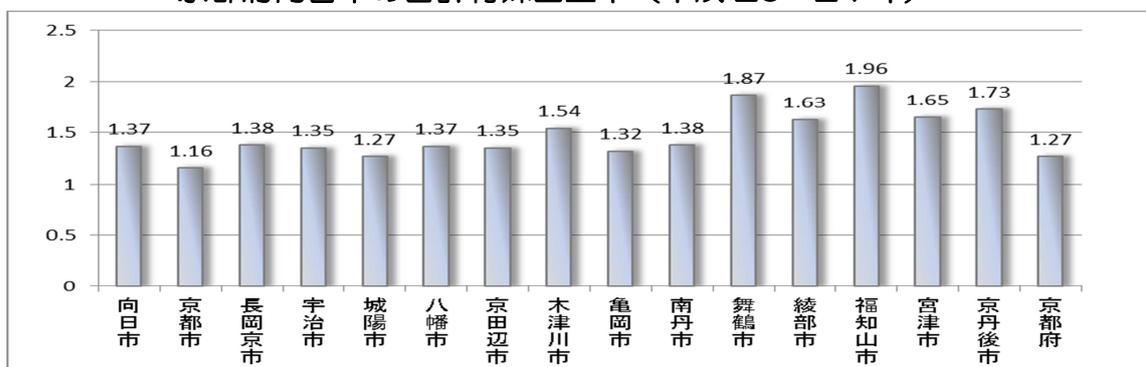
■ 合計特殊出生率

向日市の合計特殊出生率（平成20～24年）を京都府内の他都市と比較してみると、府内15市のなかで9位（1.37）、近隣都市では京都市（1.16）や城陽市（1.27）よりはやや高く、長岡京市（1.38）や八幡市（1.37）、宇治市（1.35）等とほぼ同様となっています。

京都府内で合計特殊出生率が高い自治体は、概ね北部に集中しており、向日市の合計特殊出生率は、京都府平均（1.27）を上回っていますが、全国（1.38）はわずかに下回ります。

また、向日市の合計特殊出生率は、平成15～19年まで低下が続いてきましたが、平成20～24年では上昇しています。

京都府内各市の合計特殊出生率（平成20～24年）



	昭和58～62年	昭和63～平成4年	平成5～9年	平成10～14年	平成15～19年	平成20～24年
向日市の合計特殊出生率	1.85	1.57	1.42	1.33	1.31	1.37

資料：厚生労働省 人口動態保健所・市区町村別統計

(5) 年齢階級別人口移動の推移

平成 17 (2005) 年と平成 22 (2010) 年の国勢調査を比較し、年齢 (5 歳階級)・男女別の人口変動 (0~4 歳の層が 5~9 歳になる 5 年後、実際には何人くらいになっているか) をみると、10~14 歳女性を除く全ての年齢階層で減少を示しています。

死亡による減少が現れる高齢者層を除いて、特に人口変化率の減少が顕著な 10 歳代後半や 20 歳代前半は、進学や就職を契機とした市外への転出が要因になっていると考えられます。

向日市の人口変化率

(単位：人、%)

年齢	平成17年				平成22年				変化率		
	総数	男	女	構成比	総数	男	女	構成比	総数	男	女
総数	55,041	26,564	28,477	100	54,328	26,159	28,169	100			
0~4歳	2,816	1,441	1,375	5.12	2,575	1,363	1,212	4.74	0.968	0.965	0.971
5~9歳	2,728	1,385	1,343	4.96	2,726	1,391	1,335	5.02	0.975	0.975	0.975
10~14歳	2,392	1,183	1,209	4.35	2,660	1,350	1,310	4.90	1.006	0.997	1.015
15~19歳	2,570	1,347	1,223	4.67	2,406	1,179	1,227	4.43	0.918	0.914	0.923
20~24歳	3,032	1,513	1,519	5.51	2,360	1,231	1,129	4.34	0.899	0.857	0.941
25~29歳	3,840	1,892	1,948	6.98	2,726	1,296	1,430	5.02	0.979	0.995	0.963
30~34歳	5,175	2,498	2,677	9.40	3,759	1,883	1,876	6.92	0.961	0.955	0.968
35~39歳	4,280	2,200	2,080	7.78	4,975	2,385	2,590	9.16	0.956	0.944	0.969
40~44歳	3,364	1,682	1,682	6.11	4,091	2,076	2,015	7.53	0.965	0.956	0.974
45~49歳	2,997	1,477	1,520	5.45	3,246	1,608	1,638	5.97	0.973	0.965	0.982
50~54歳	3,447	1,627	1,820	6.26	2,917	1,425	1,492	5.37	0.967	0.957	0.976
55~59歳	4,825	2,246	2,579	8.77	3,333	1,557	1,776	6.13	0.968	0.965	0.971
60~64歳	4,203	2,028	2,175	7.64	4,671	2,167	2,504	8.60	0.950	0.937	0.962
65~69歳	3,188	1,534	1,654	5.79	3,994	1,901	2,093	7.35	0.934	0.910	0.956
70~74歳	2,397	1,122	1,275	4.35	2,978	1,396	1,582	5.48	0.894	0.864	0.920
75~79歳	1,703	758	945	3.09	2,142	969	1,173	3.94	0.817	0.757	0.866
80~84歳	1,134	418	716	2.06	1,392	574	818	2.56	0.707	0.560	0.793
85~89歳	567	151	416	1.03	802	234	568	1.48	0.578	0.523	0.599
90~94歳	306	61	245	0.56	328	79	249	0.60	0.346	0.180	0.388
95~99歳	69	0	69	0.13	106	11	95	0.20	0.174	-	0.174
100歳以上	7	0	7	0.01	12	0	12	0.02			
年齢不詳	1	1	0	0.00	129	84	45	0.24			
15歳未満	7,936	4,009	3,927	14.42	7,961	4,104	3,857	14.65			
15~64歳	37,733	18,510	19,223	68.55	34,484	16,807	17,677	63.47			
65歳以上	9,371	4,044	5,327	17.03	11,754	5,164	6,590	21.64			

資料：国勢調査

※変化率は、年齢(5 歳階級)別の人口の 5 年後の変化率を示している。

例えば、平成 17 年に 15~19 歳の総数は 2,570 人であるが、5 年後の平成 22 年に 20~24 歳の総数は 2,360 人となり、変化率は $2,360 / 2,570 \approx 0.918$ となる。

また、平成 17 年に 20~24 歳の総数は 3,032 人であるが、5 年後の平成 22 年には 25~29 歳の総数は 2,726 人となるため、変化率は $2,726 / 3,032 \approx 0.900$ となる。

(6) 流入・流出人口（15歳以上通勤・通学流動）

流入・流出人口（通勤・通学者の動向）をみると、平成22（2010）年の国勢調査において、市内に常住する従業・通学者28,087人のうち、向日市内で従業・通学する人は6,940人とどまっており、約4分の3が市外に流出しています。

一方、向日市内で従業・通学する人は16,499人おり、そのうち市内に常住している人は6,940人（42.1%）で、過半数が市外からの流入となっています。

通勤・通学の流入に比べて流出が大きく、居住都市としての性格を表しています。

流入・流出のいずれにおいても、隣接する京都市との流入・流出が中心で、その他では乙訓（長岡京市、大山崎町）、京都南部（宇治市、久御山町等）、大阪府（大阪市、高槻市、茨木市等）との日常的な通勤・通学による往来が多くみられます。

向日市における通勤・通学による流入・流出(15歳以上)人口

平成22年10月1日現在

単位：人

	流出			流入		
	総数	就業者数	通学者数	総数	就業者数	通学者数
市内に常住する従業・通学者	28,087	25,312	2,775			
当地(市内)で従業・通学する者				16,499	14,862	1,637
自市	6,940	6,300	640	6,940	6,300	640
京都府	15,499	14,065	1,434	7,079	6,383	696
京都市	12,132	10,906	1,226	4,623	4,136	487
宇治市	258	229	29	208	198	10
城陽市	60	56	4	109	106	3
亀岡市	220	209	11	273	254	19
長岡京市	2,097	1,980	117	1,421	1,277	144
大山崎町	232	232	0	197	177	20
久御山町	182	175	7	26	26	0
滋賀県	594	475	119	365	347	18
大津市	243	197	46	187	180	7
草津市	162	115	47	47	43	4
大阪府	3,523	3,187	336	910	793	117
大阪市	1,966	1,885	81	78	74	4
吹田市	246	180	66	46	45	1
高槻市	393	360	33	334	268	66
枚方市	106	85	21	84	80	4
茨木市	246	209	37	128	97	31
兵庫県	312	247	65	85	81	4
その他	1,219	1,038	181	1,120	958	162

資料：国勢調査

3 向日市の人口の将来推計と考察

(1)向日市の人口シミュレーション

以下のグラフは、それぞれ次のような人口推計の結果を示したものです。

①国立社会保障・人口問題研究所（社人研）推計

合計特殊出生率は現状の 1.37 程度が継続とする一方、年代ごとに算出する社会移動による人口増減が平成 27（2015）～32（2020）年までに 0.5 倍程度に低下する（転出・転入による人口移動が半分になる）と仮定した場合の推計。

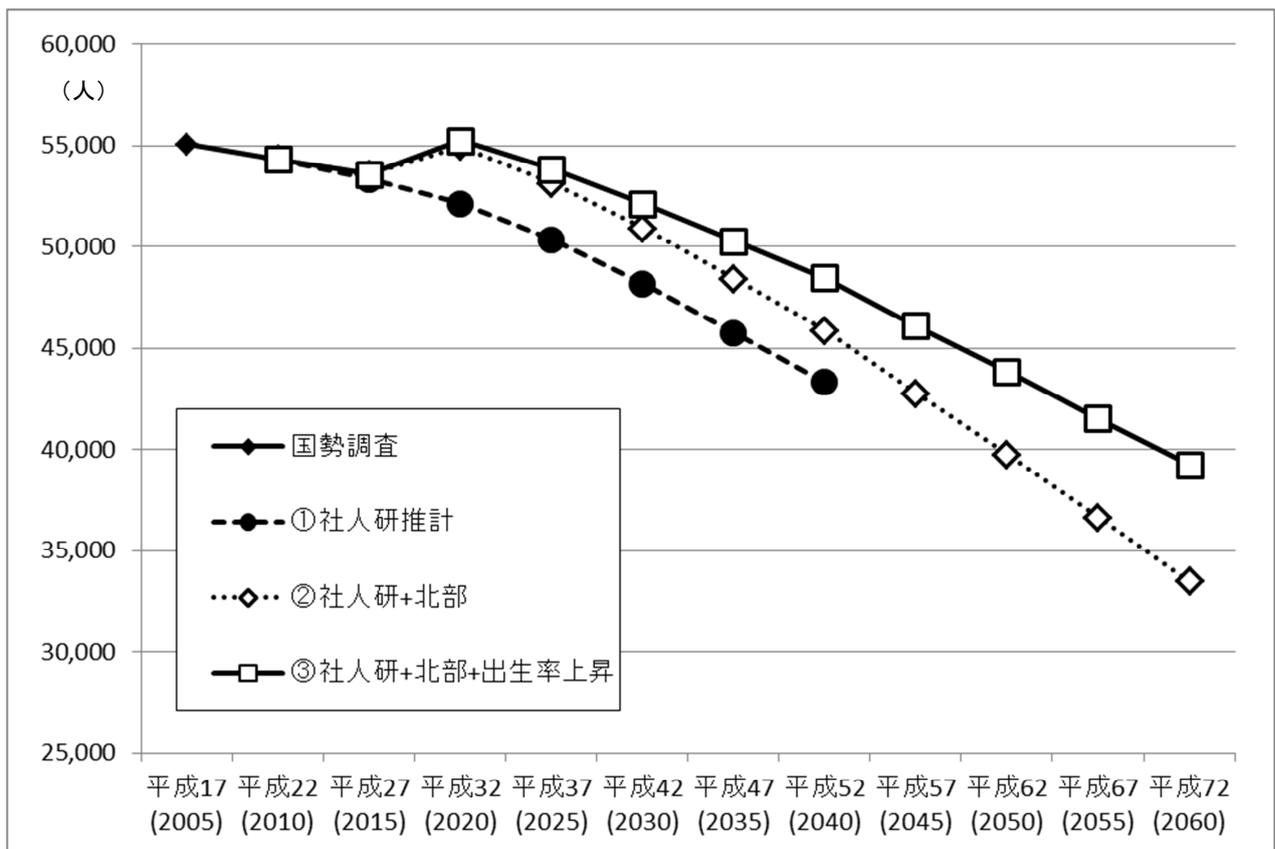
②社人研推計+桂川・洛西口新市街地（以下「北部」という。）

合計特殊出生率及び社会移動による人口の想定は①と同様とした上、北部での人口増を想定した推計。

③社人研推計+北部+出生率上昇

合計特殊出生率が現状の 1.37 から平成 52（2040）年までに人口置換水準（2.07）まで上昇し、かつ社会移動による人口増減は 0.5 倍程度に低下するとした上、北部での人口増を想定した推計。

向日市の人口シミュレーション



「①社人研推計」では、社会移動（転入転出）の転出超過が半分（0.5）程度に縮小していくと設定されていますが、それでも転出は超過が続き、同時に出生・死亡による自然動態もマイナス傾向の状態にあることから、平成 52（2040）年に 43,300 人程度と、平成 27 年から 10,000 人程度減少する推計になっています。ただし、この推計には北部への人口増は想定されていません。

その他の2つのケースでは、本市の特色でもある北部への人口増（2,800 人程度）を想定しており、「①社人研推計」よりも、さらに地域実態に即した推計となります。

社会移動のマイナスが縮小するとした「①社人研推計」に北部への人口増を加えた「②社人研＋北部」では、平成 52（2040）年で 45,800 人程度、平成 72（2060）年でも 33,400 人程度を維持する推計となっています。

さらに、「②社人研＋北部」をベースに、合計特殊出生率が、現状の 1.37 程度の出生率が平成 52（2040）年までに人口置換水準である 2.07 まで高まるとした「③社人研＋北部＋出生率（上昇）」では、平成 52（2040）年で 48,400 人程度を、平成 72（2060）年で 39,200 人程度を維持する推計となりました。

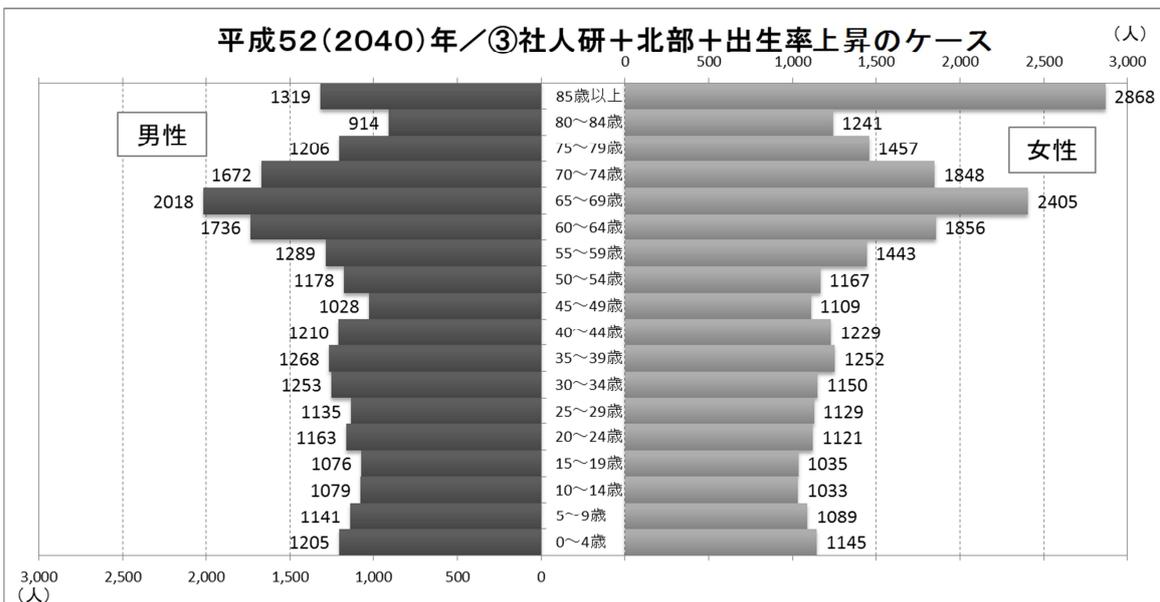
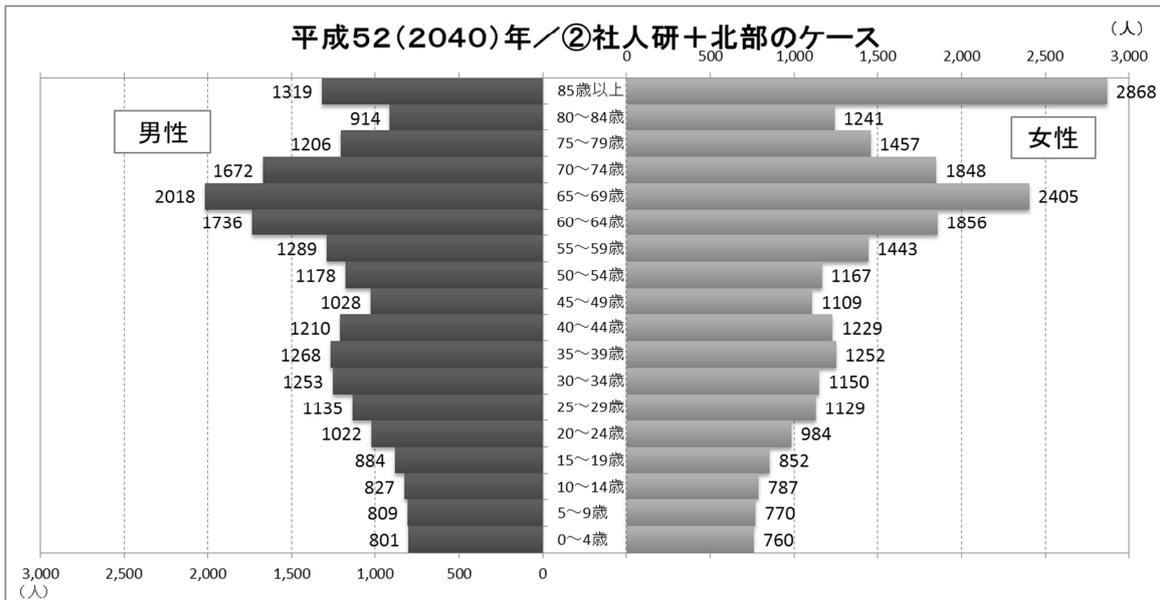
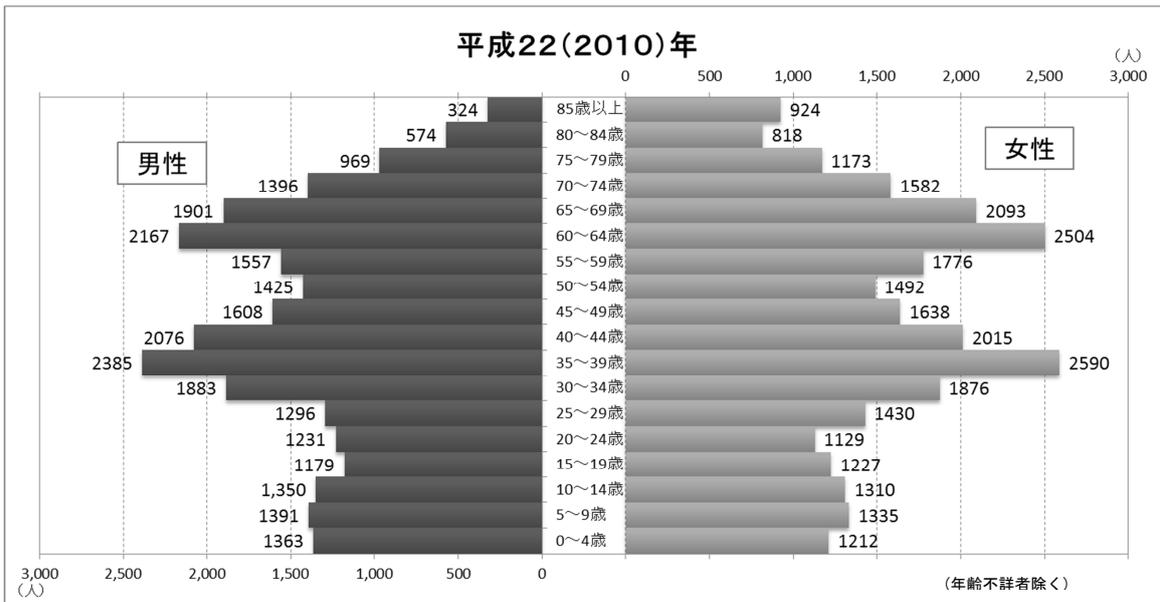
社人研推計、出生率上昇時推計

	平成 22 年 (2010)	平成 27 年 (2015)	平成 32 年 (2020)	平成 37 年 (2025)	平成 42 年 (2030)	平成 47 年 (2035)	平成 52 年 (2040)	平成 57 年 (2045)	平成 62 年 (2050)	平成 67 年 (2055)	平成 72 年 (2060)
国勢調査	54,328										
①社人研推計		53,349	52,135	50,345	48,174	45,762	43,315	—	—	—	—
②社人研＋北部		53,595	54,956	53,148	50,926	48,437	45,876	42,768	39,775	36,639	33,477
③社人研＋北部＋出生率上昇		53,595	55,253	53,834	52,113	50,269	48,467	46,092	43,847	41,519	39,248

（参考：向日市人口シミュレーションパターン表）

	自然動態 出生・死亡	社会動態 転出・転入	平成 52 年 (2040 年)	平成 72 年 (2060 年)
①社人研推計	現行の状況が続く	移動が半分になる (転出超過が縮小)	43,315	—
②社人研推計＋北部	現行の状況が続く	移動が半分になる 北部への流入見込む	45,876	33,477
③社人研推計＋北部＋出生率上昇	出生率が改善 平成 52 年 2.07	移動が半分になる 北部への流入見込む	48,467	39,248

推計における人口ピラミッドの変化



人口ピラミッドの推移をみると、平成 22 年では 14 歳以下の人口の割合が低く、団塊及び団塊ジュニア世代のふたつのふくらみを有するひょうたん型となっています。

人口シミュレーションのうち、本市の実態に合わせて北部で人口増を加えた「②社人研+北部」においては、年少人口の減少と高齢人口の増加により、その形状は「つぼ型」に変化しています。

この間、80 歳以上の人口は、男女合わせて平成 22（2010）年の 2,600 人程度から平成 52（2040）年でおおよそ 2 倍の 6,300 人となり、特に高齢女性の増加が顕著となります。

また、10 代、20 代女性の人口は、平成 22（2010）年の 5,100 人程度から約 26.5%減少し、平成 52 年では 3,700 人となります。

一方、このケースと「③社人研+北部+出生率上昇」を比較すると、80 歳以上の人口は同じですが、10 代、20 代女性の人口における平成 22（2010）年から 52（2040）年にかけての減少率は 15.4%にとどまり、平成 52 年では 4,300 人程度となります。結果として、同じつぼ型でも②に比べて年少人口や若者層のボリュームが大きい人口ピラミッドとなっています。

いずれのケースにおいても、全体の人口ボリュームの減少（ピラミッドが細くなる）及び年少人口・生産年齢人口（15～64 歳以下）比率の低下、老年人口比率の拡大は避けられませんが、「③社人研+北部+出生率上昇」においては、これらの課題が一定程度、緩和されることとなります。

(2) 少子高齢化・人口減少社会に対応するために

国勢調査によると、本市の人口は平成 17（2005）年をピークとして減少に転じました。また、同年に 65 歳以上人口が 15 歳未満人口を上回ってその差が次第に拡大しつつあるなど、少子高齢化・人口減少が進行しており、今後もその傾向が続くことが予想されます。

向日市の人口将来推計を踏まえ、「③社人研+北部+出生率上昇」を目指し少子高齢化・人口減少社会に対応するためには、将来にわたりまちの活力を維持していくための取組が必要です。

京都・大阪の大都市圏の間に位置し、かつてわが国の都が置かれた悠久の歴史を有する本市の利便性と魅力に一層磨きをかけ、積極的に PR することで、人の流れをつくり、産業の活性化を図ること、また、安心して生活を営み、子どもを産み育てられる環境づくりに取り組んでいくことが重要です。

向日市まちづくり市民アンケート 結果報告

向日市

目次

■ 調査の概要

調査の概要	1
-------	---

■ あなた（回答者）ご自身について

問1 性別	2
問2 年齢	2
問3 居住地	3
問4 居住歴	3
問5 居住地を向日市に決めた理由	4

■ まちの住みごこちや、まちの施策について

問6 向日市の住み心地	5
問7 良いと思う点	7
問8 良くないと思う点	9
問9 定住意向	11
問10 雇用・経済の活発化	13
問11 少子化対策	15
問12 安心・安全	17
問13 よくみる広報媒体	19
問14 広報紙の改善	21
問15 まちの将来	22

■ 施策の満足度・重要度について

問16 満足度	25
重要度	27

■ 自由意見

自由意見	31
------	----

向日市まちづくり市民アンケート 結果報告

■ 調査の概要

1 調査目的

市民の皆様にとって向日市を“ふるさと”と思ってもらえるよう、平成 27 年度から平成 31 年度までを計画期間とする市の最上位計画「ふるさと向日市創生計画」の策定に取り組むにあたり、市政について、市民の皆様が日頃どのように感じておられるかを把握し、計画づくりに反映するために実施しました。

2 調査方法

調査名称	向日市まちづくり市民アンケート
調査地域	向日市全域
対象者	18 歳以上の市民
対象抽出方法	無作為抽出
抽出数	2,000 件
実施期間	平成 27 年 9 月 17 日から 9 月 30 日まで
調査方法	郵送により配布・回収

3 調査票の回収状況

調査票の有効回収数は 963 件、有効回収率 48.2%の結果を得ました。

4 分析についての注意点

- ・比率は全て百分率（%）で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しているため、合計値が 100%にならない場合があります。
- ・「2 つ以上を選択回答」の設問については、百分率の合計が 100%を超える場合があります。
- ・図中で「n」は回答者数を示しています。

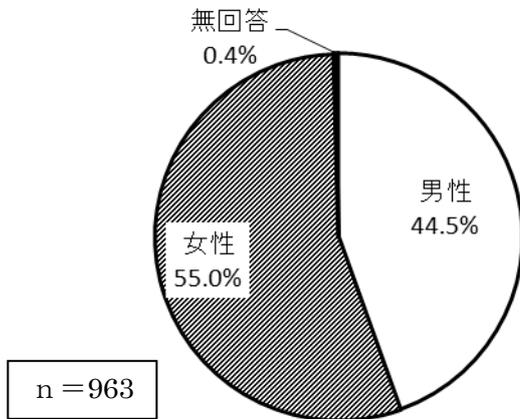
5 調査項目

回答者属性	性別、年齢、居住地、居住暦、向日市選択理由
住み心地やまちづくりの取組について	住み心地や定住意向について ○向日市の住み心地、良い点、良くない点 ○定住意向
	まちづくり課題について ○雇用や経済の活性化について ○少子化対策について ○地域の安全・安心について ○広報媒体、広報紙の充実について
	まちの将来について ○まちの将来について
	施策の重要度・満足度について ○文化やコミュニティに関すること。 ○健康や福祉に関すること。 ○にぎわいや活力に関すること。 ○快適な生活環境に関すること。 ○道路の整備に関すること。 ○安心・安全に関すること。 ○土地利用や都市整備に関すること。 ○情報発信全般に関すること。 ○まちづくり全般に関すること。
自由意見	自由記述

■ あなた（回答者）ご自身について

問1 あなたの性別は。あてはまる番号を1つ、右欄にご記入ください。

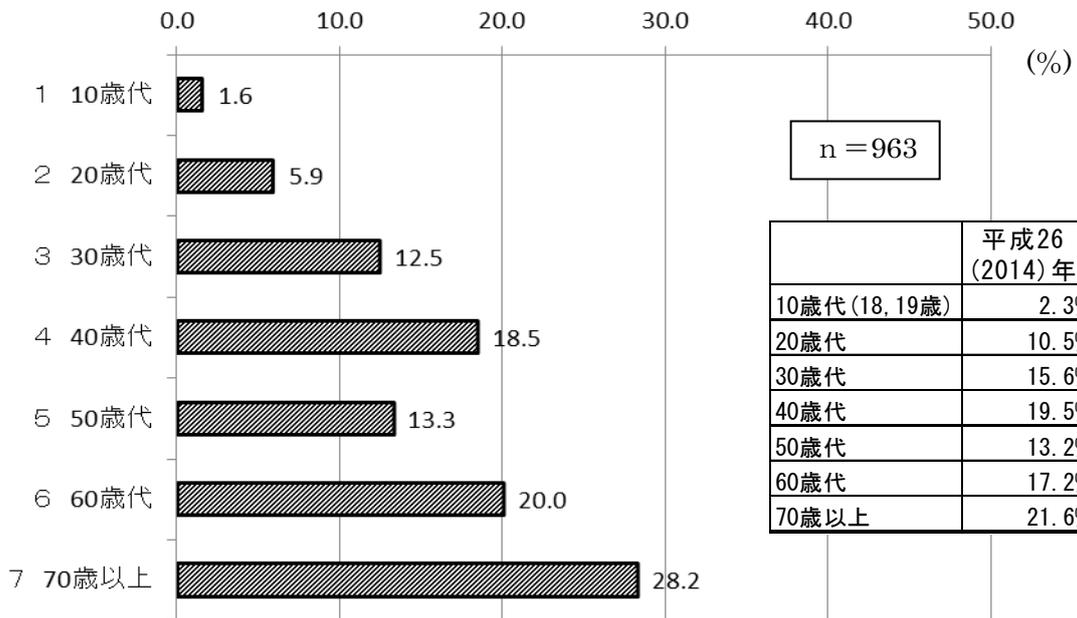
1 男性	2 女性	
------	------	--



【女性からの回答がやや多い】
 ○回答者の男女比率は、女性がやや多くなっていますが、差はわずかで、ほぼ半数ずつになっています。
 ※向日市現状(H26)は男 48.9%、女 51.9%。

問2 あなたの年齢は。あてはまる番号を1つ、右欄にご記入ください。（平成27年9月1日現在でお答えください）

1 10歳代	4 40歳代	7 70歳以上
2 20歳代	5 50歳代	
3 30歳代	6 60歳代	

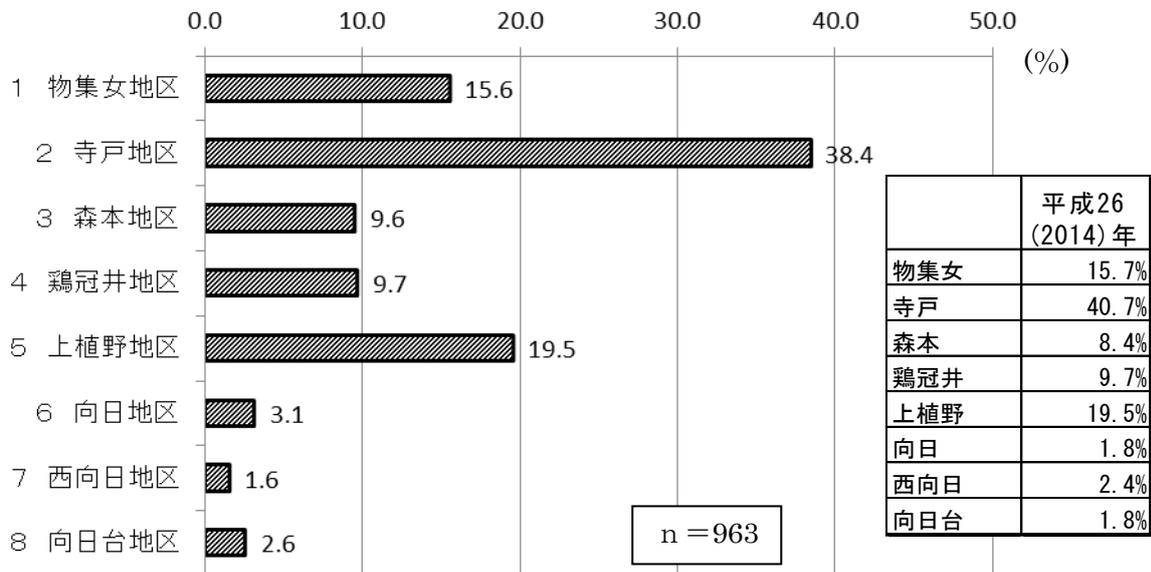


	平成26 (2014)年
10歳代(18,19歳)	2.3%
20歳代	10.5%
30歳代	15.6%
40歳代	19.5%
50歳代	13.2%
60歳代	17.2%
70歳以上	21.6%

【60歳以上で約半数を占める】
 ○年代別にみると、70歳以上が28.2%と最も高い比率を占め、60歳代(20.0%)を加えると48.2%とほぼ半数の回答を占めています。
 ○向日市現状(H26)の年齢層と比べて回答者の年齢層は高くなっています。

問3 あなたのお住まいは。あてはまる番号を1つ、右欄にご記入ください。

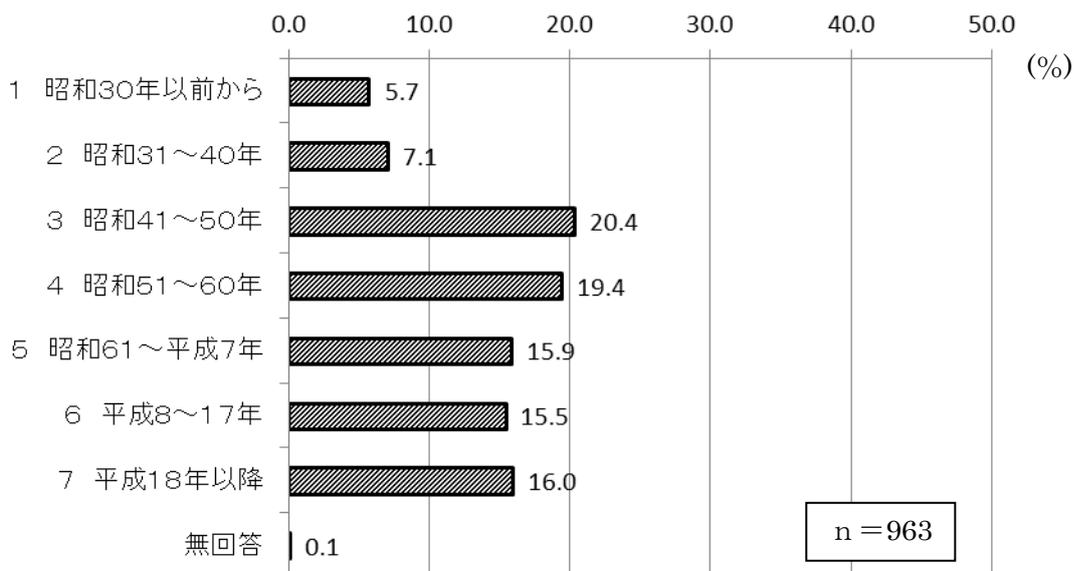
- | | | |
|---------|---------|---------|
| 1 物集女地区 | 4 鶏冠井地区 | 7 西向日地区 |
| 2 寺戸地区 | 5 上植野地区 | 8 向日台地区 |
| 3 森本地区 | 6 向日地区 | |



【現状の地区別の人口構成に近似した回答】
 ○回答者を地区別にみると、各地区において、向日市現状（H26）に近い回答が得られています。

問4 あなたはいつ頃から向日市にお住まいですか。あてはまる番号を1つ、右欄にご記入ください。

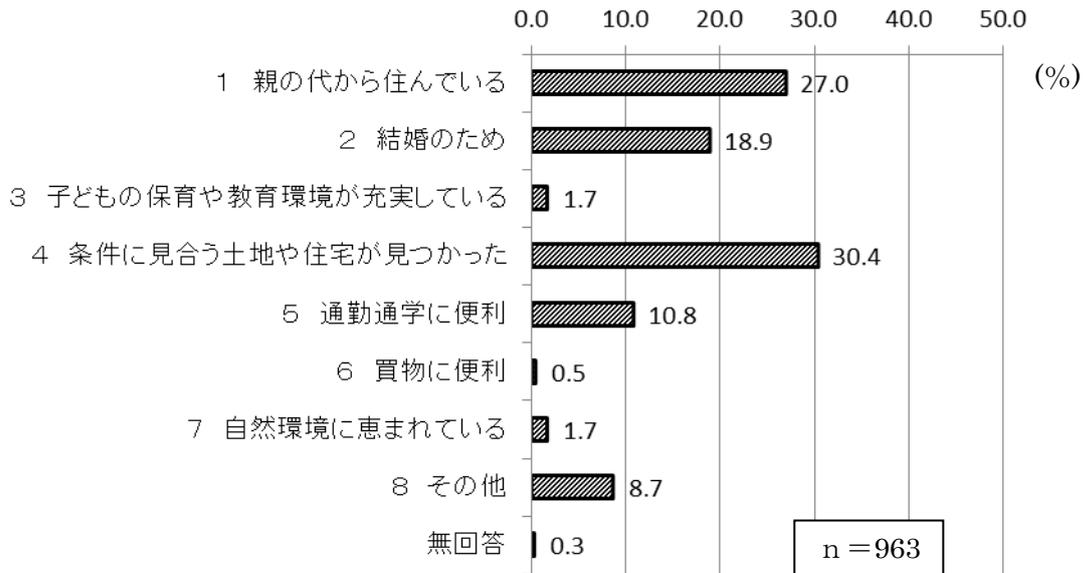
- | | |
|-------------|-------------|
| 1 昭和30年以前から | 5 昭和61～平成7年 |
| 2 昭和31～40年 | 6 平成8～17年 |
| 3 昭和41～50年 | 7 平成18年以降 |
| 4 昭和51～60年 | |



【30年以上居住する回答者が半数】
 ○昭和60年以前（30年以前）から居住する回答者が52.6%と過半数を占めています。居住歴10年未満（平成18年以降）からの回答も16.0%得られています。

問5 お住まいを向日市に決めたのはなぜですか。あてはまる番号を1つ選んで、右欄にご記入ください。

1 親の代から住んでいる 2 結婚のため 3 子どもの保育や教育環境が充実している 4 条件に見合う土地や住宅が見つかった 5 通勤通学に便利 6 買物に便利 7 自然環境に恵まれている 8 その他（具体的に)	<input style="width: 100%; height: 100%;" type="text"/>
---	---

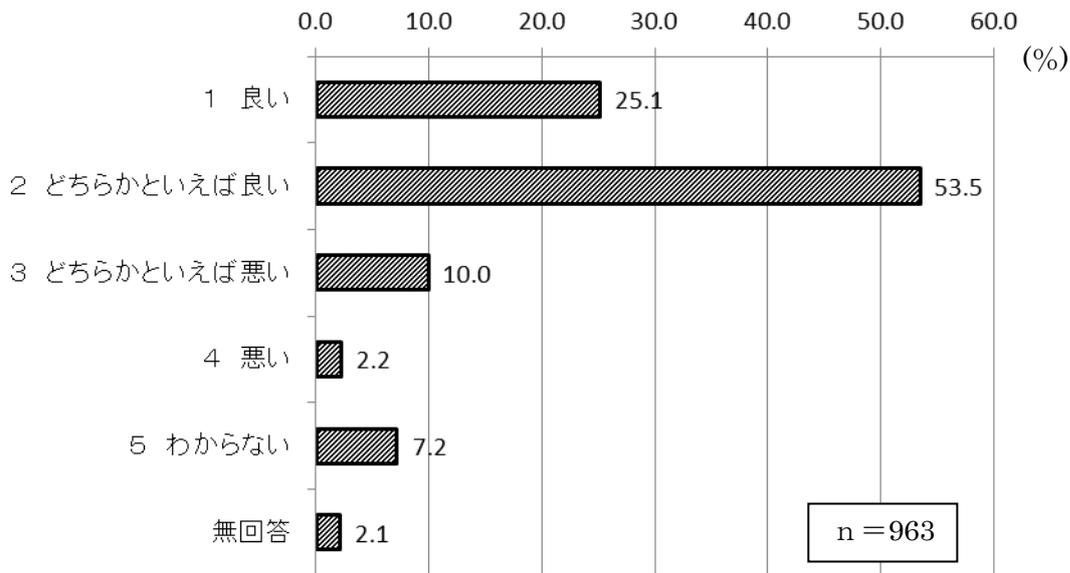


【住宅・用地の確保、結婚などが居住の契機に】
 ○居住地を向日市に決めた理由としては、「条件に見合う土地や住宅が見つかった」が30.4%と多く、以下、「親の代から住んでいる」「結婚のため」「通勤通学に便利」が続いています。

■ まちの住みごこちや、まちの施策について

問6 あなたは向日市の住み心地について、どう思いますか。あてはまる番号を1つ、右欄にご記入ください。

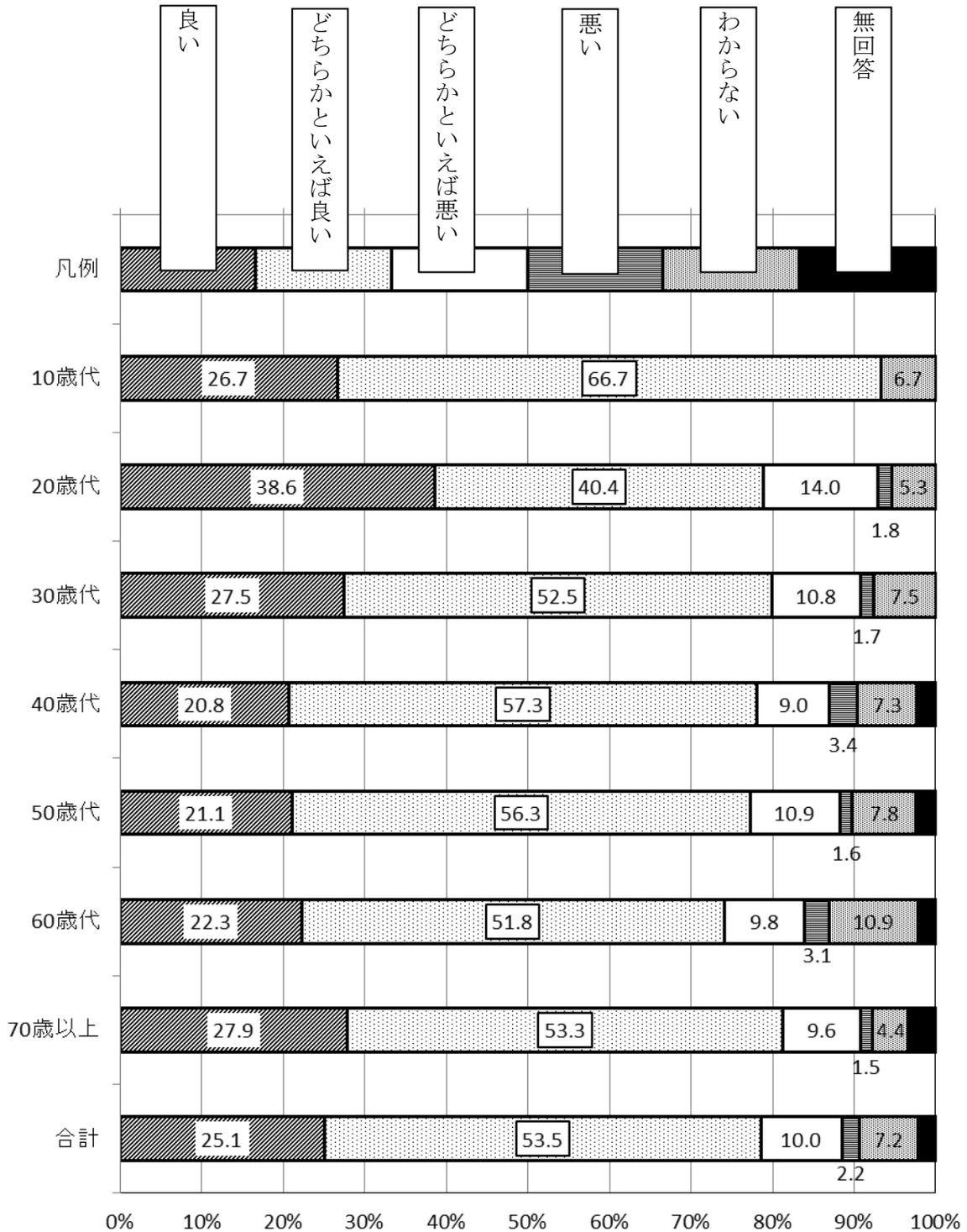
- | | |
|--------------|---------|
| 1 良い | 4 悪い |
| 2 どちらかといえば良い | 5 わからない |
| 3 どちらかといえば悪い | |



【住みよいと評価する意見が8割程度】

- 向日市の住み心地については、「良い」が25.1%、「どちらかといえば良い」が53.5%で、合わせて78.6%の市民が向日市を住み心地の良いまちだと評価しています。
- 「悪い」と評価する意見は2.2%、「どちらかといえば悪い」も10.0%にとどまっています。

【年代別集計】

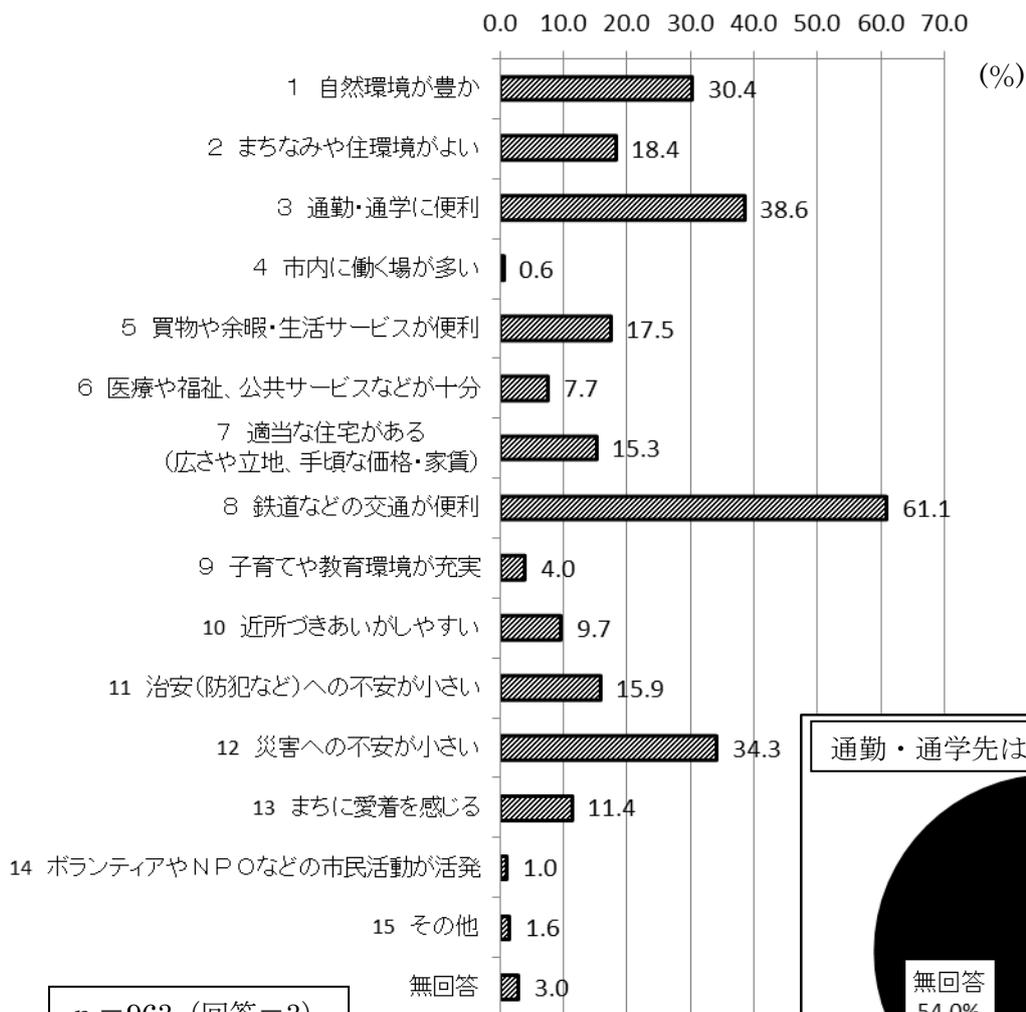


【住みよいと評価する意見が8割程度】

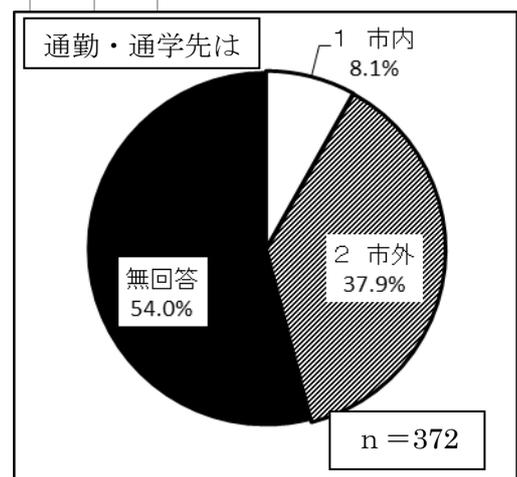
○年代別にみると、「良い」と評価する意見は20歳代で38.6%と最も多くなっています。
 ○「良い」「どちらかといえば良い」を合わせると、各年代とも8割程度が向日市の住み心地を良いと評価しています。

問7 向日市に住んでいて、良いと思う点は何ですか。次のなかから3つまで選んで、右欄にご記入ください。

- | | |
|-------------------------------|---|
| 1 自然環境が豊か | |
| 2 まちなみや住環境がよい | |
| 3 通勤・通学に便利（通勤・通学先は 1 市内 2 市外） | |
| 4 市内に働く場が多い | |
| 5 買物や余暇・生活サービスが便利 | |
| 6 医療や福祉、公共サービスなどが十分 | |
| 7 適当な住宅がある（広さや立地、手頃な価格・家賃） | |
| 8 鉄道などの交通が便利 | |
| 9 子育てや教育環境が充実 | |
| 10 近所づきあいがしやすい | |
| 11 治安（防犯など）への不安が小さい | |
| 12 災害への不安が小さい | |
| 13 まちに愛着を感じる | |
| 14 ボランティアやNPOなどの市民活動が活発 | |
| 15 その他（具体的に |) |



n = 963 (回答 = 3)



【良い点は利便性】

- 住んでいて良い点としては、「鉄道などの交通が便利」が61.1%と突出して多く選択され、「通勤・通学に便利」が38.6%で続くなど、利便性を評価する意見が上位となっています。
- 以下、「災害への不安が小さい」(34.3%)、「自然環境が豊か」(30.4%)がそれぞれ3割以上の意見を集めています。

【年代別集計】

	第1位	第2位	第3位
10歳代	鉄道などの交通が便利 66.7%	通勤・通学に便利 53.3%	自然環境が豊か 40.0%

	第1位	第2位	第3位
20歳代	鉄道などの交通が便利 64.9%	通勤・通学に便利 50.9%	災害への不安が小さい 29.8%

	第1位	第2位	第3位
30歳代	鉄道などの交通が便利 65.8%	通勤・通学に便利 59.2%	自然環境が豊か 25.8%

	第1位	第2位	第3位
40歳代	鉄道などの交通が便利 53.4%	通勤・通学に便利 40.4%	自然環境が豊か 29.8%

	第1位	第2位	第3位
50歳代	鉄道などの交通が便利 68.8%	通勤・通学に便利 49.2%	災害への不安が小さい 32.8%

	第1位	第2位	第3位
60歳代	鉄道などの交通が便利 62.7%	災害への不安が小さい 41.5%	自然環境が豊か 34.2%

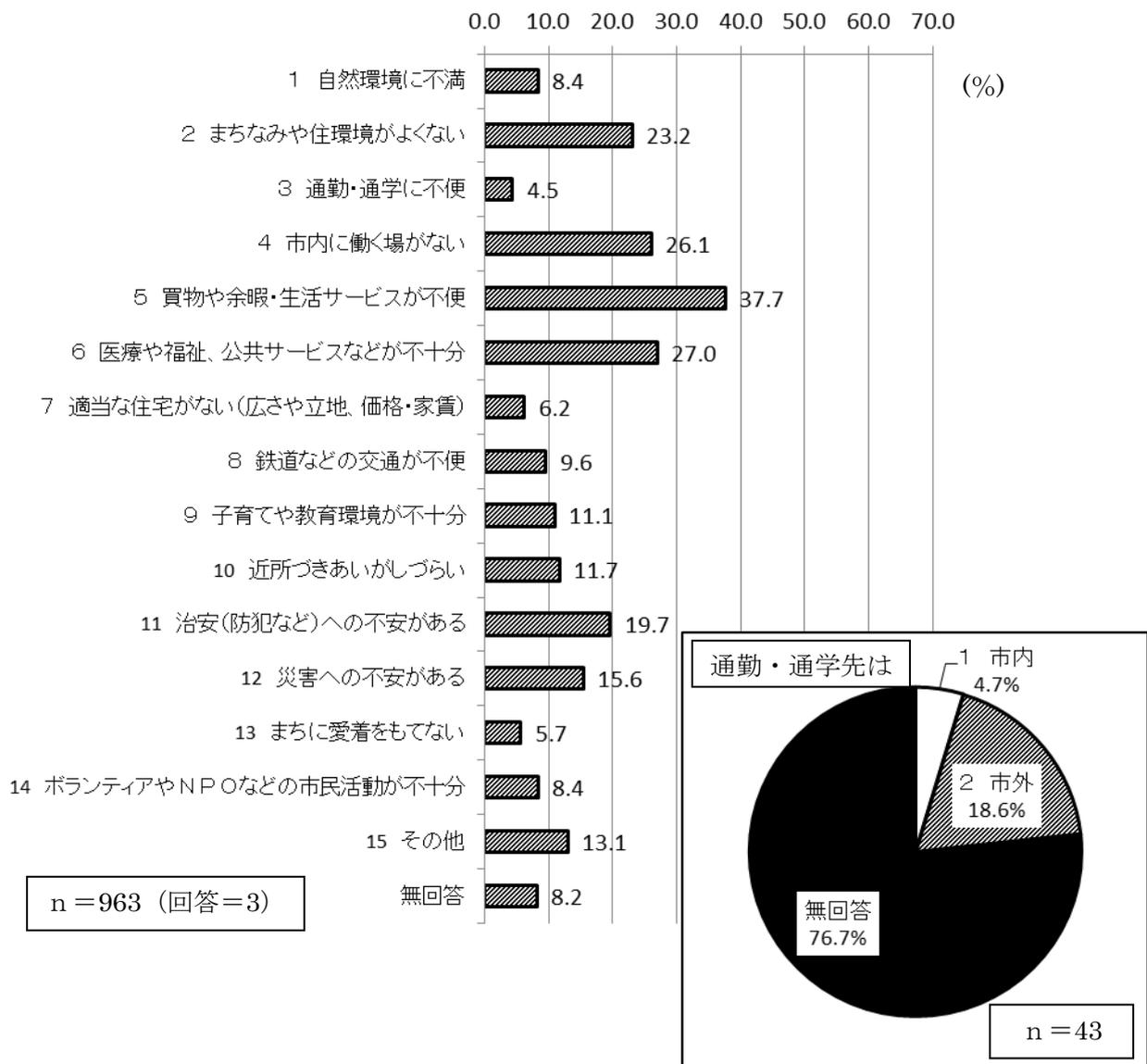
	第1位	第2位	第3位
70歳以上	鉄道などの交通が便利 58.1%	災害への不安が小さい 47.8%	自然環境が豊か 30.1%

【全ての年代で「鉄道などの利便性」が第1位】

- 年代別にみると、「鉄道などの交通が便利」が全ての年代で第1位となっています。
- 10～50歳代で「通勤・通学に便利」が第2位、60～70歳以上では「災害への不安が小さい」が第2位になっているほか、30～40歳代及び60～70歳以上で第3位となっている「自然環境が豊か」を含めた4項目で全ての年代の上位3項目を占めています。

問8 向日市に住んでいて、良くないと思う点は何ですか。次のなかから3つまで選んで、右欄にご記入ください。

1 自然環境に不満	
2 まちなみや住環境がよくない	
3 通勤・通学に不便（通勤・通学先は 1 市内 2 市外）	
4 市内に働く場がない	
5 買物や余暇・生活サービスが不便	
6 医療や福祉、公共サービスなどが不十分	
7 適当な住宅がない（広さや立地、価格・家賃）	
8 鉄道などの交通が不便	
9 子育てや教育環境が不十分	
10 近所づきあいがしづらい	
11 治安（防犯など）への不安がある	
12 災害への不安がある	
13 まちに愛着をもてない	
14 ボランティアやNPOなどの市民活動が不十分	
15 その他（具体的に)



【「買物や余暇サービス」「医療・福祉・公共サービス」「働く場」が上位】

○住んでいて良くない点としては、「買物や余暇・生活サービスが不便」が37.7%と最も多くの意見を集め、以下「医療や福祉、公共サービスなどが不十分」(27.0%)、「市内に働く場がない」(26.1%)などが3割程度となっています。

【年代別集計】

	第1位	第2位	
10歳代	買物や余暇・生活サービスが不便 40.0%	まちなみや住環境がよくない 20.0%	子育てや教育環境が不十分 20.0%

	第1位	第2位	第3位
20歳代	買物や余暇・生活サービスが不便 42.1%	市内に働く場がない 36.8%	医療や福祉、公共サービスなどが不十分 24.6%

	第1位	第2位	第3位
30歳代	買物や余暇・生活サービスが不便 40.0%	治安(防犯など)への不安がある 30.0%	医療や福祉、公共サービスなどが不十分 26.7%

	第1位	第2位	第3位
40歳代	買物や余暇・生活サービスが不便 35.0%	医療や福祉、公共サービスなどが不十分 25.3%	市内に働く場がない 24.2%

	第1位	第2位	
50歳代	買物や余暇・生活サービスが不便 34.3%	まちなみや住環境がよくない 32.0%	医療や福祉、公共サービスなどが不十分 32.0%

	第1位	第2位	第3位
60歳代	買物や余暇・生活サービスが不便 40.4%	医療や福祉、公共サービスなどが不十分 33.7%	まちなみや住環境がよくない 29.0%

	第1位	第2位	第3位
70歳以上	買物や余暇・生活サービスが不便 38.2%	市内に働く場がない 24.6%	医療や福祉、公共サービスなどが不十分 22.8%

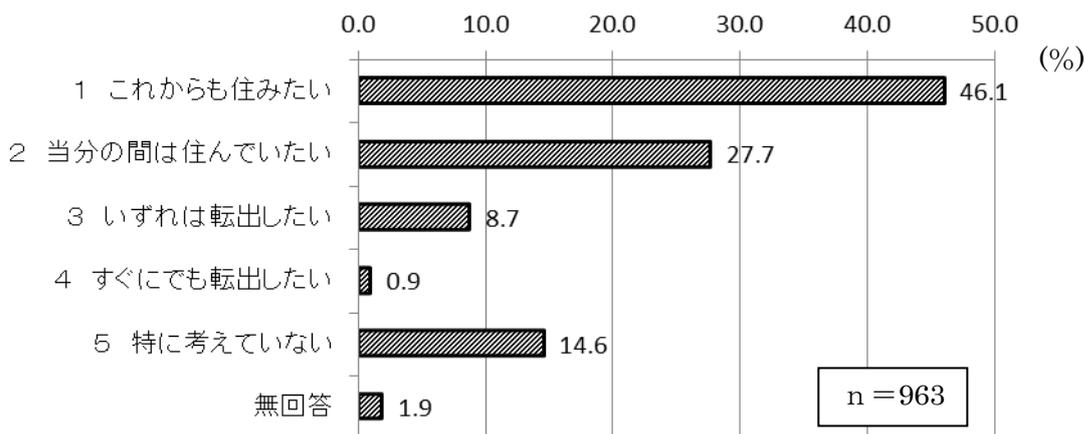
【全ての年代で「買物や余暇・生活サービスが不便」が第1位】

○年代別にみると、「買物や余暇・生活サービスが不便」が全ての年代で第1位となっています。

○その他の項目では各年代とも「まちなみや環境が良くない」「市内に働く場がない」「医療や福祉、公共サービスなどが不十分」の4項目が上位占めています。

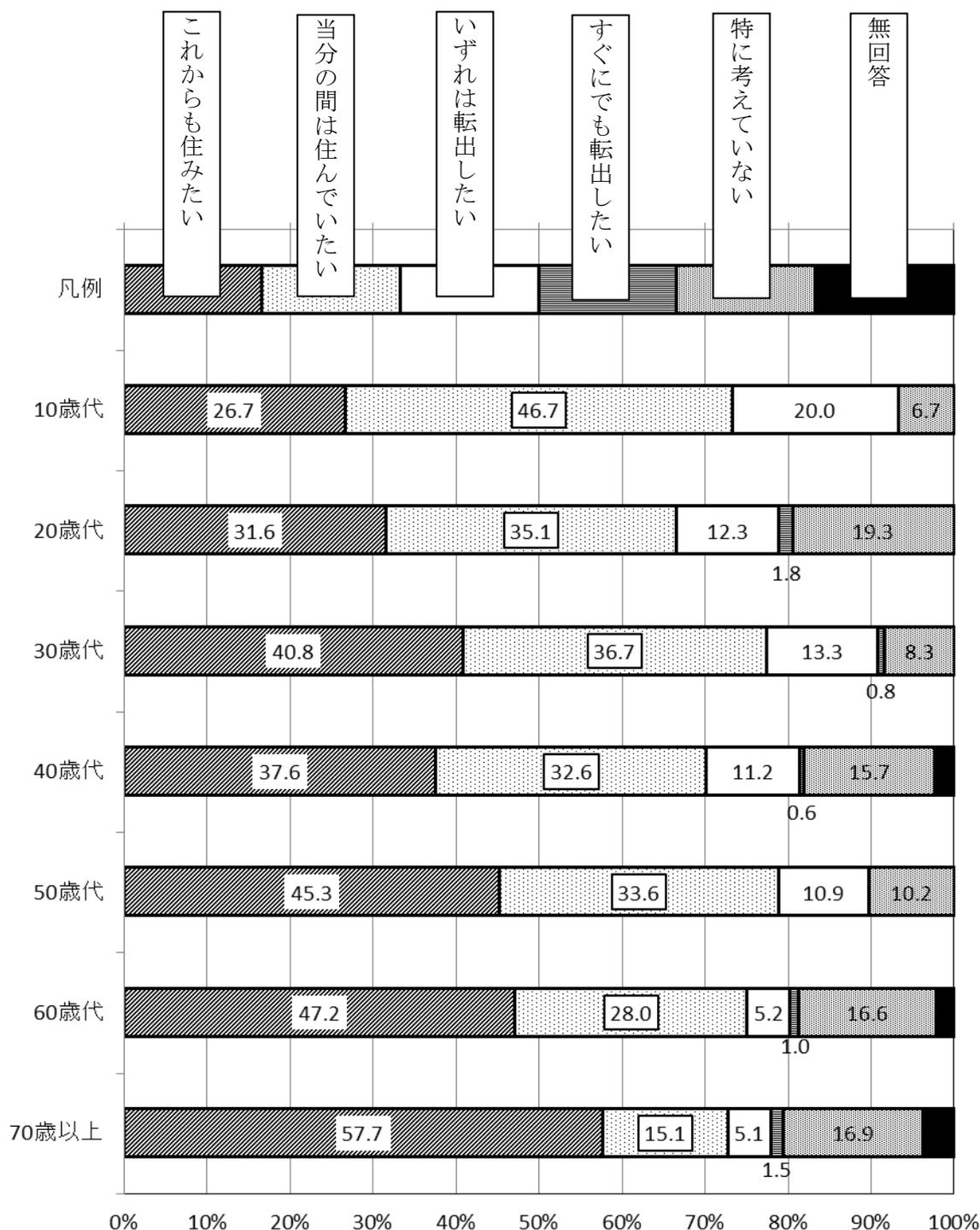
問9 あなたはこれからも向日市に住みたいと思いますか。あてはまる番号を1つ選んで、右欄にご記入ください。

1 これからも住みたい 2 当分の間は住んでいたい 3 いずれは転出したい 4 すぐにでも転出したい 5 特に考えていない	
---	--



【7割が継続的な定住意向】
 ○向日市に対する定住意向は「これからも住みたい」(46.1%)と「当分の間は住んでいたい」(27.7%)を合わせて、73.8%が継続的な定住意向を示しています。「いずれは転出したい」「すぐにでも転出したい」は併せて9.6%にとどまっています。

【年代別集計】



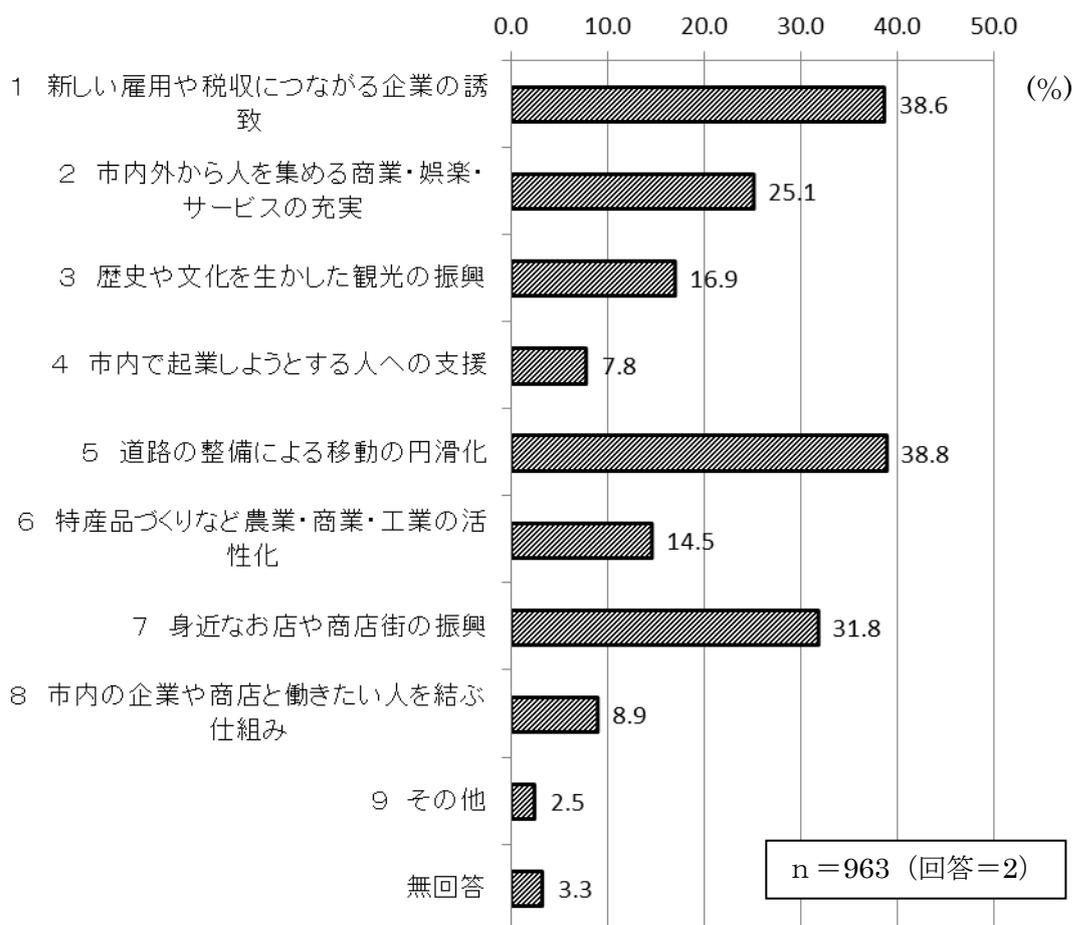
【ほぼすべての世代で7割以上が定住意向を示す】

○年代別にみると、「これからも住みたい」「当分の間は住んでいたい」を合わせた定住意向は20歳代を除くすべての世代で7割以上となっています。

○最も低い20歳代でも定住意向は66.7%に達しており、「いずれは転出したい」「すぐにも転出したい」という転出意向も14.1%にとどまっています。

問10 雇用やまちの経済を活発にしていきたいためには、どのような取組みが大切だとお考えですか。特に重視するものを2つまで選び、右欄にご記入ください。

- | | | |
|---|-------------------------|---|
| 1 | 新しい雇用や税収につながる企業の誘致 | |
| 2 | 市内外から人を集める商業・娯楽・サービスの充実 | |
| 3 | 歴史や文化を生かした観光の振興 | |
| 4 | 市内で起業しようとする人への支援 | |
| 5 | 道路の整備による移動の円滑化 | |
| 6 | 特産品づくりなど農業・商業・工業の活性化 | |
| 7 | 身近なお店や商店街の振興 | |
| 8 | 市内の企業や商店と働きたい人を結ぶ仕組み | |
| 9 | その他（具体的に |) |



【「移動の円滑化」「企業誘致」「お店・商店街振興」が上位項目】

○雇用や経済の活性化のためには、「道路の整備による移動の円滑化」(38.8%)、「新しい雇用や税収につながる企業の誘致」(38.6%)、「身近なお店や商店街の振興」(31.8%)がそれぞれ3割以上の回答を集めています。

【年代別集計】

	第1位	第2位	第3位
10歳代	市内外から人を集める商業・娯楽・サービスの充実 46.7%	新しい雇用や税収につながる企業の誘致 33.3%	歴史や文化を活かした観光の振興 26.7% 道路の整備による移動の円滑化 26.7% 身近なお店や商店街の振興 26.7%

	第1位	第2位	第3位
20歳代	市内外から人を集める商業・娯楽・サービスの充実 40.4%	道路の整備による移動の円滑化 31.6%	身近なお店や商店街の振興 31.6%

	第1位	第2位	第3位
30歳代	道路の整備による移動の円滑化 40.0%	新しい雇用や税収につながる企業の誘致 32.5%	市内外から人を集める商業・娯楽・サービスの充実 31.7% 身近なお店や商店街の振興 31.7%

	第1位	第2位	第3位
40歳代	道路の整備による移動の円滑化 38.8%	新しい雇用や税収につながる企業の誘致 37.6%	身近なお店や商店街の振興 27.5%

	第1位	第2位	第3位
50歳代	新しい雇用や税収につながる企業の誘致 43.8%	道路の整備による移動の円滑化 43.0%	身近なお店や商店街の振興 30.5%

	第1位	第2位	第3位
60歳代	新しい雇用や税収につながる企業の誘致 42.0%	道路の整備による移動の円滑化 37.3%	身近なお店や商店街の振興 29.5%

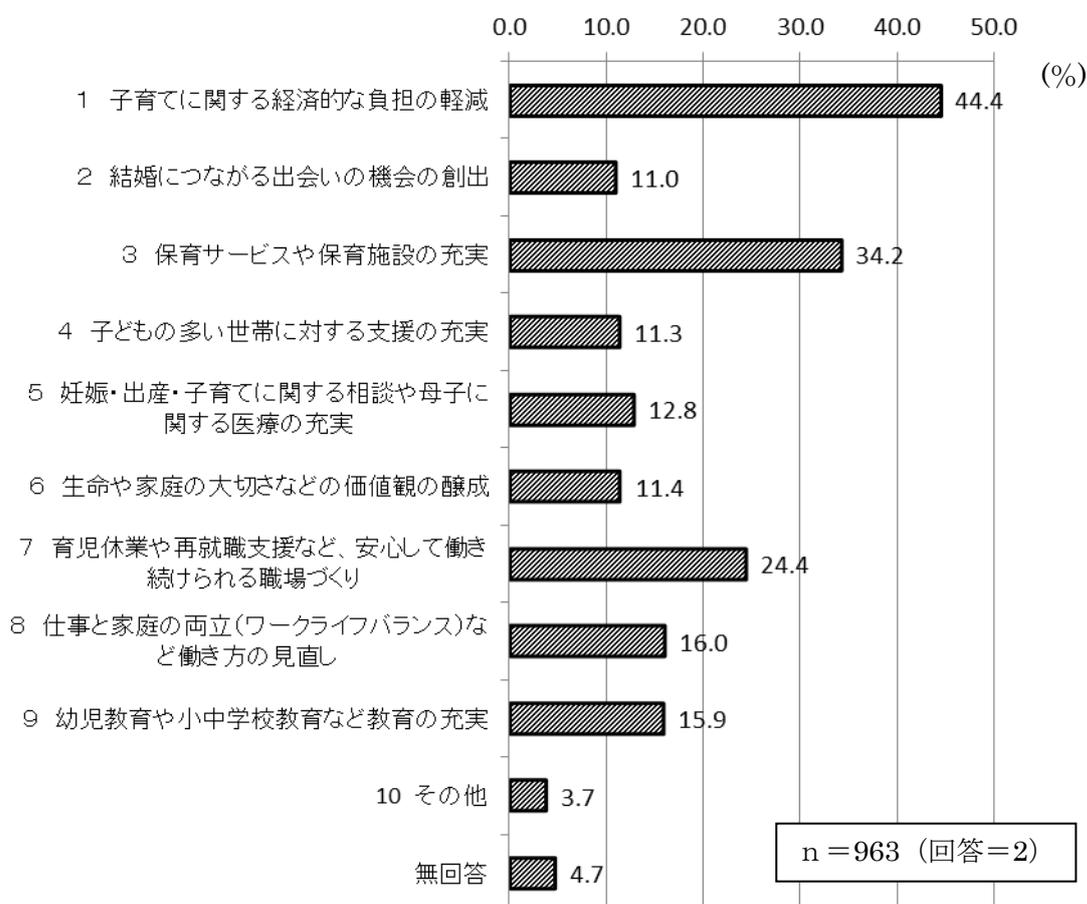
	第1位	第2位	第3位
70歳以上	新しい雇用や税収につながる企業の誘致 40.1%	道路の整備による移動の円滑化 39.7%	身近なお店や商店街の振興 37.1%

【各年代とも上位項目は同様の傾向も、第1位項目では差異】

- 年代別にみると、各年代とも全体で上位の「道路の整備による移動の円滑化」、「新しい雇用や税収につながる企業の誘致」、「身近なお店や商店街の振興」の3項目に、比較的若い世代で多く選択された「市内外から人を集める商業・娯楽・サービスの充実」を加えた項目が上位項目となっています。
- 10・20歳代で「市内外から人を集める商業・娯楽・サービスの充実」、30・40歳代で「道路の整備による移動の円滑化」、50歳以上で「新しい雇用や税収につながる企業の誘致」がそれぞれ第1位となっています。

問 1 1 少子化に歯止めをかけるため、向日市では特にどんな取組みに力を入れるべきだとお考えですか。特に大切と思われるものを2つ選び、右欄にご記入ください。

- | | |
|---------------------------------|---|
| 1 子育てに関する経済的な負担の軽減 | |
| 2 結婚につながる出会いの機会の創出 | |
| 3 保育サービスや保育施設の充実 | |
| 4 子どもの多い世帯に対する支援の充実 | |
| 5 妊娠・出産・子育てに関する相談や母子に関する医療の充実 | |
| 6 生命や家庭の大切さなどの価値観の醸成 | |
| 7 育児休業や再就職支援など、安心して働き続けられる職場づくり | |
| 8 仕事と家庭の両立（ワークライフバランス）など働き方の見直し | |
| 9 幼児教育や小中学校教育など教育の充実 | |
| 10 その他（具体的に | ） |



【子育ての経済的な負担の軽減、保育サービスや環境の向上に多くの回答】

- 少子化対策として力を入れることとしては、「子育てに関する経済的な負担の軽減」を選択する回答者が多く、44.4%に達しています。
- 「保育サービスや保育施設の充実」(34.2%)、「育児休業や再就職支援など、安心して働き続けられる職場づくり」(24.4%) など、仕事と育児の両立に関することも多くの回答を集めています。

【年代別集計】

	第1位	第2位		
10歳代	子育てに関する経済的な負担の軽減 53.3%	保育サービスや保育施設の充実 26.7%	子どもの多い世帯に対する支援の充実 26.7%	妊娠・出産・子育てに関する相談や母子に関する医療の充実 26.7%

	第1位	第2位	第3位
20歳代	子育てに関する経済的な負担の軽減 56.1%	育児休業や再就職支援など、安心して働き続けられる職場づくり 35.1%	保育サービスや保育施設の充実 28.1%

	第1位	第2位	第3位
30歳代	子育てに関する経済的な負担の軽減 63.3%	保育サービスや保育施設の充実 35.1%	育児休業や再就職支援など、安心して働き続けられる職場づくり 28.1%

	第1位	第2位	第3位
40歳代	子育てに関する経済的な負担の軽減 49.4%	保育サービスや保育施設の充実 33.1%	幼児教育や小中学校教育など教育の充実 22.5%

	第1位	第2位	第3位
50歳代	保育サービスや保育施設の充実 46.9%	子育てに関する経済的な負担の軽減 35.2%	育児休業や再就職支援など、安心して働き続けられる職場づくり 32.0%

	第1位	第2位	第3位
60歳代	保育サービスや保育施設の充実 39.4%	子育てに関する経済的な負担の軽減 32.1%	育児休業や再就職支援など、安心して働き続けられる職場づくり 24.4%

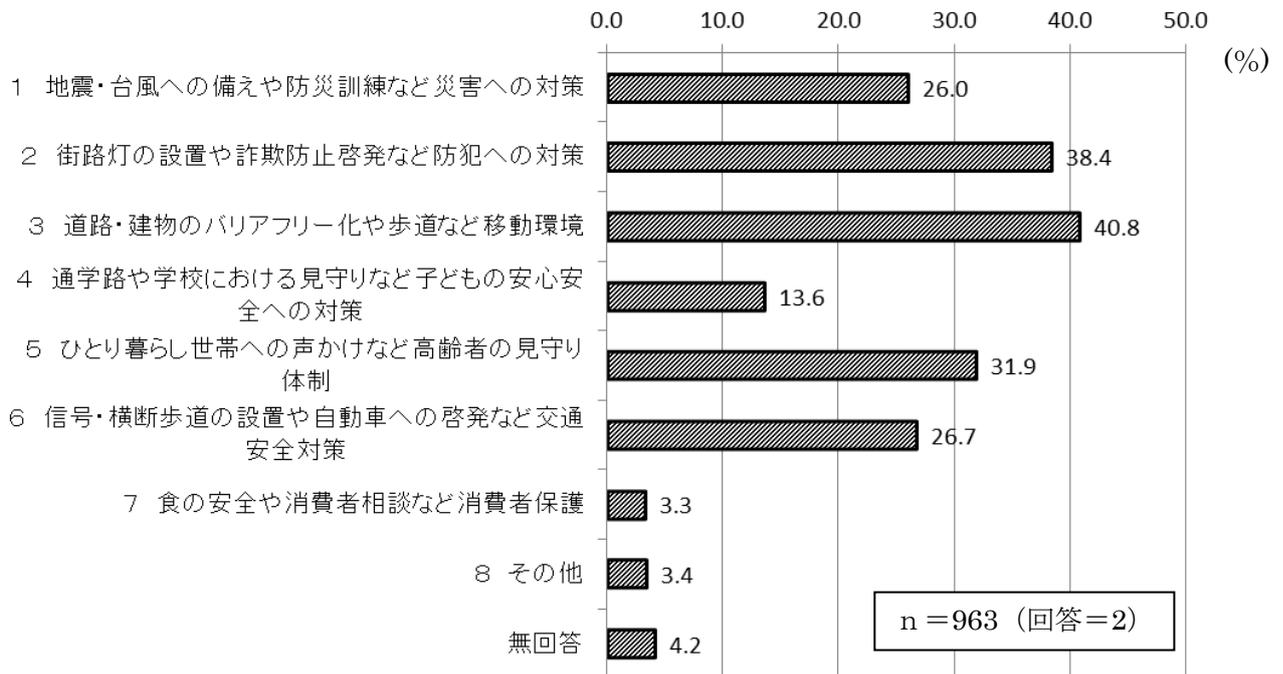
	第1位	第2位	第3位
70歳以上	子育てに関する経済的な負担の軽減 43.0%	保育サービスや保育施設の充実 26.8%	育児休業や再就職支援など、安心して働き続けられる職場づくり 23.5%

【年代別にみても、概ね全体と同様の傾向】

○年代別にみると、10～40歳代及び70歳以上においては、「子育てに関する経済的な負担の軽減」が第1位で「保育サービスや保育施設の充実」が第2位（20歳代除く）、50～60歳代ではその第1位と第2位が逆転していますが、各年代ともこの2項目が重視され、これに続く「育児休業や再就職支援など、安心して働き続けられる職場づくり」を合わせて、概ね全体と年代別で同様の傾向を示しています。

問 1 2 あなたが暮らしている地域の安心・安全について、不安に思うことはありますか。特に不安に思うことを2つまで選び、右欄にご記入ください。

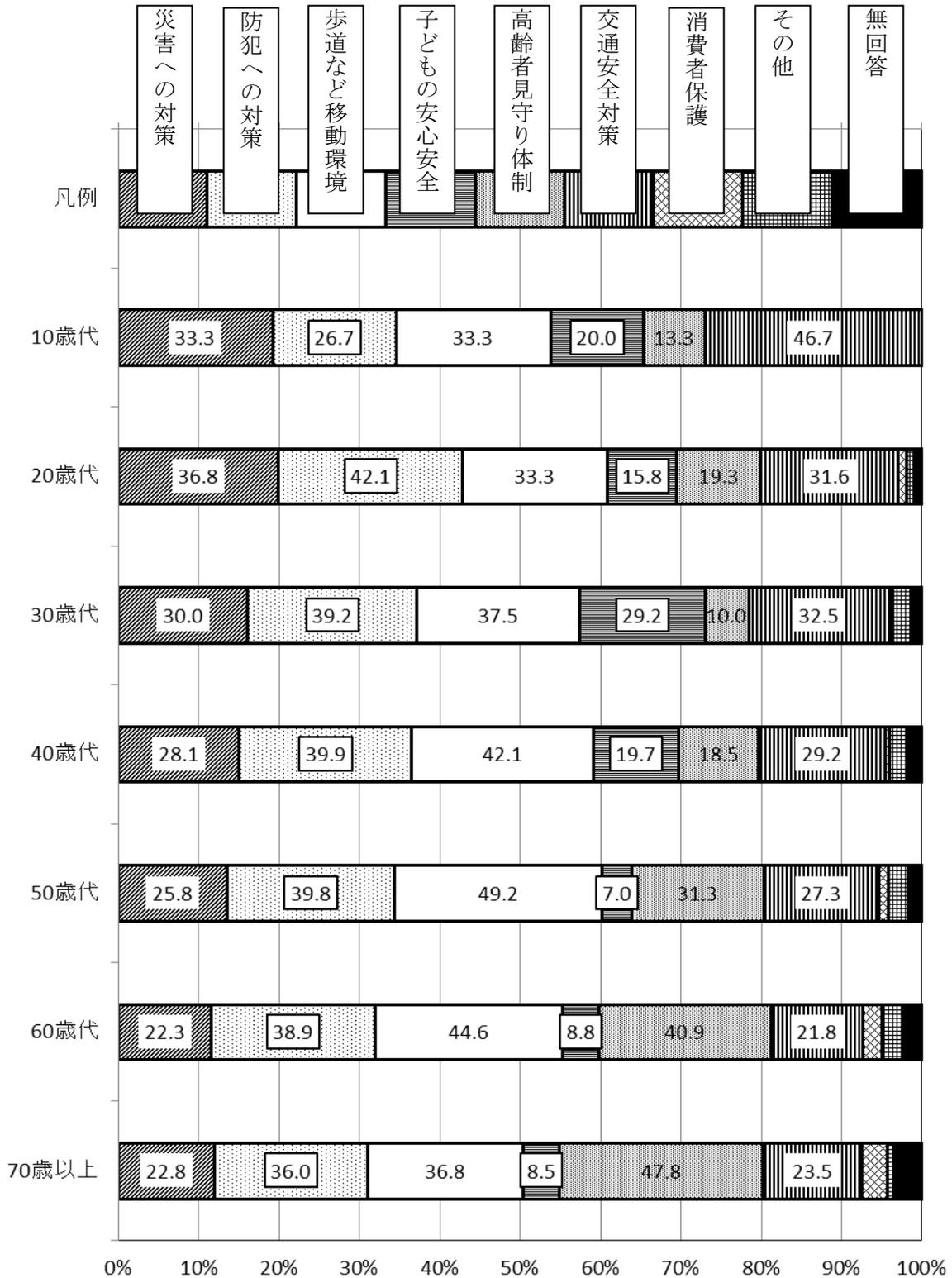
1 地震・台風への備えや防災訓練など災害への対策	
2 街路灯の設置や詐欺防止啓発など防犯への対策	
3 道路・建物のバリアフリー化や歩道など移動環境	
4 通学路や学校における見守りなど子どもの安心安全への対策	
5 ひとり暮らし世帯への声かけなど高齢者の見守り体制	
6 信号・横断歩道の設置や自動車への啓発など交通安全対策	
7 食の安全や消費者相談など消費者保護	
8 その他（具体的に)	



【多様な分野への関心】

○「道路・建物のバリアフリー化や歩道など移動環境」の40.8%をはじめ、「街路灯の設置や詐欺防止啓発など防犯への対策」(38.4%)、「ひとり暮らし世帯への声かけなど高齢者の見守り体制」(31.9%)の3項目が3割以上、さらには「交通安全対策」や「災害対策」も25%を超えており、安全・安心に関する多様な分野への関心を示す結果となりました。

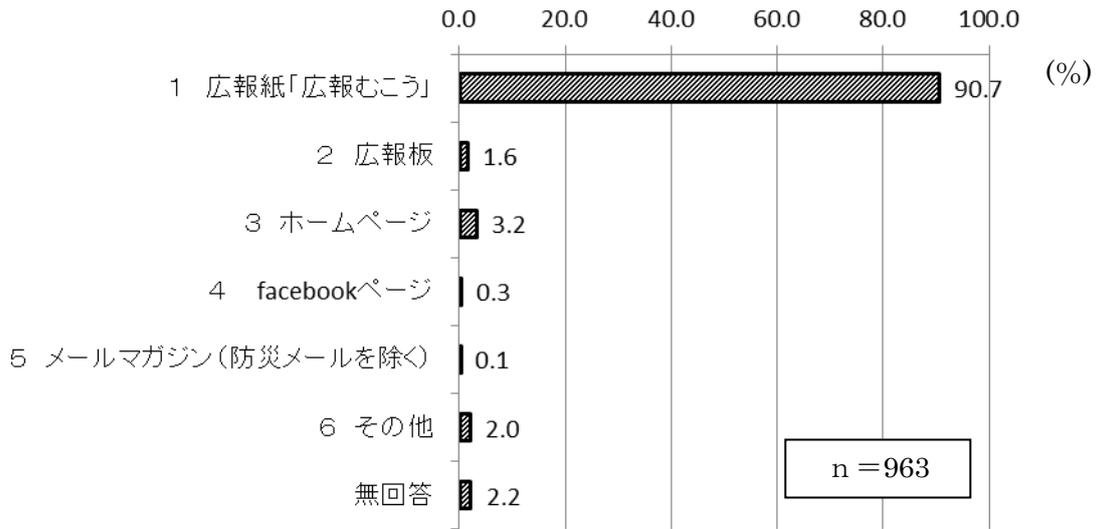
【年代別集計】



【ライフステージに応じて関心を持つ安心・安全の分野も変化】
 ○不安に思うことの第1位を年代別にみると、10歳代では「信号・横断歩道の設置や自動車への啓発など交通安全対策」、20～30歳代では「街路灯の設置や詐欺防止啓発など防犯への対策」、40～60歳代では「道路・建物のバリアフリー化や歩道など移動環境」、そして70歳以上では「ひとり暮らし世帯への声かけなど高齢者の見守り体制」と、年代（ライフステージ）によって関心をもつ分野が変化しています。

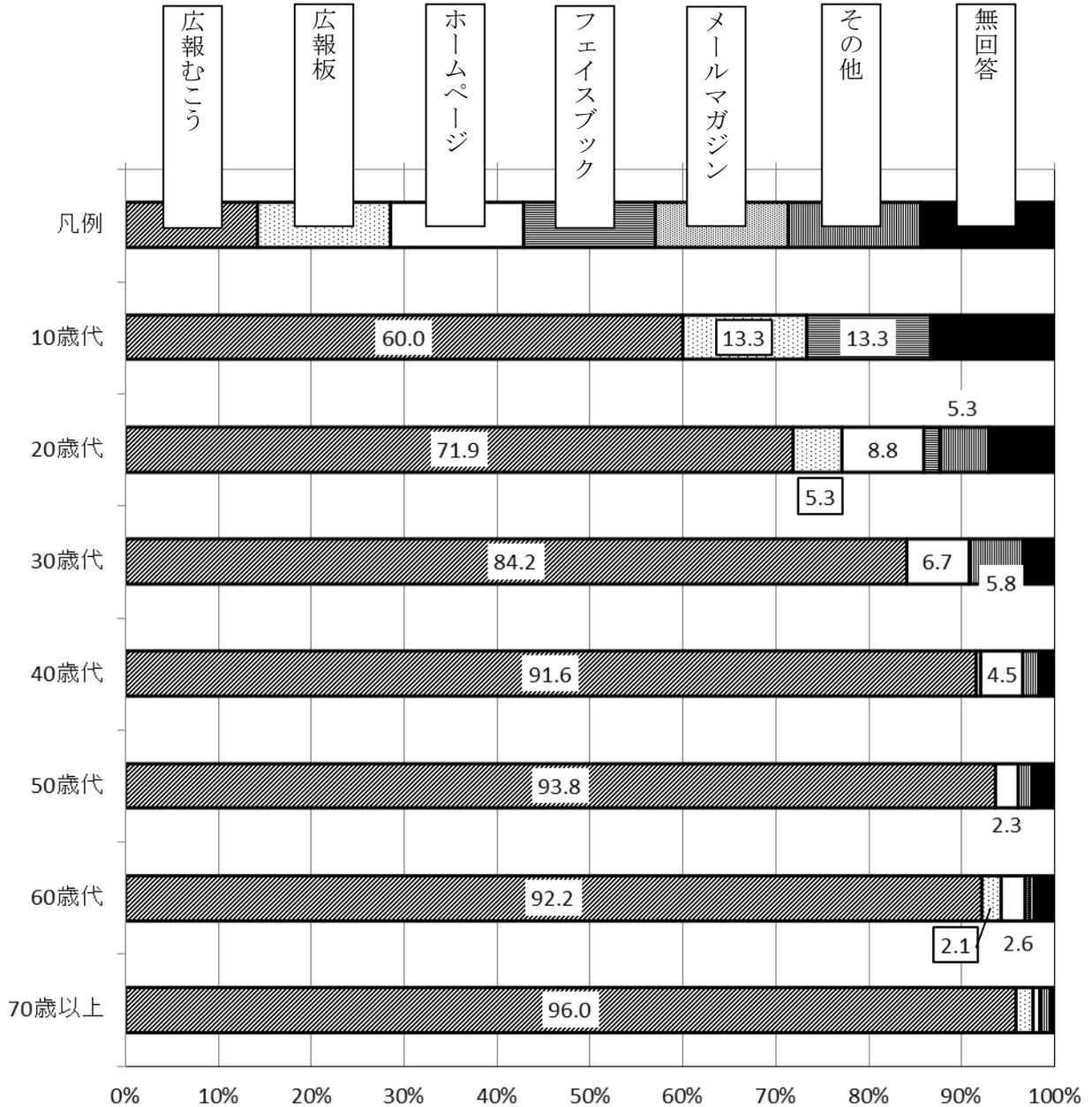
問13 市の広報媒体について、日頃もっともよくご覧になるものを1つ選び、右欄にご記入ください。

- | | |
|---------------------|--|
| 1 広報紙「広報むこう」 | |
| 2 広報板 | |
| 3 ホームページ | |
| 4 facebook ページ | |
| 5 メールマガジン（防災メールを除く） | |
| 6 その他（具体的に | |



【日頃よくみる広報手段は「広報むこう」が圧倒的】
 ○日頃よくみる市の広報媒体としては「広報むこう」が圧倒的で、90.7%となっています。

【年代別集計】

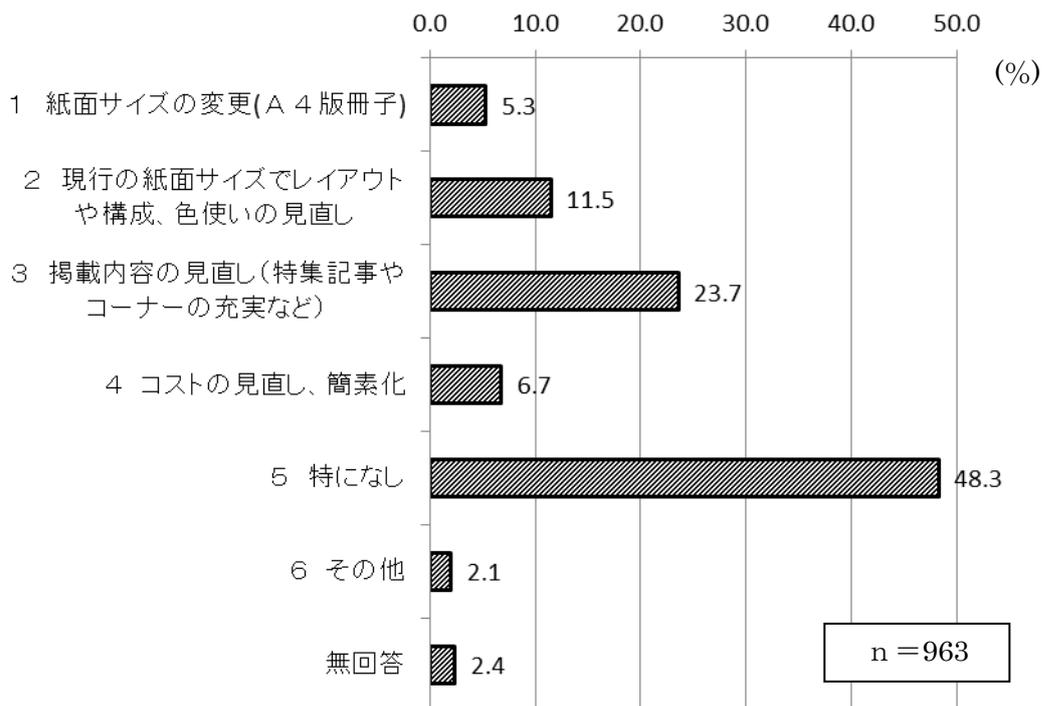


【各年代で広報に大きな需要。若い年代で facebook 等の利用も】

- 年代別にみても、広報むこうを選択する回答が各年代とも多く、この傾向は年齢が高い層ほど強くなっています。
- 若い層では、10歳代で広報板や facebook、20歳代や30歳代ではホームページなどの回答もわずかにみられます。

問14 本市の広報紙について、より良くするために最も重要と思われるものを1つ選び、右欄にご記入ください。

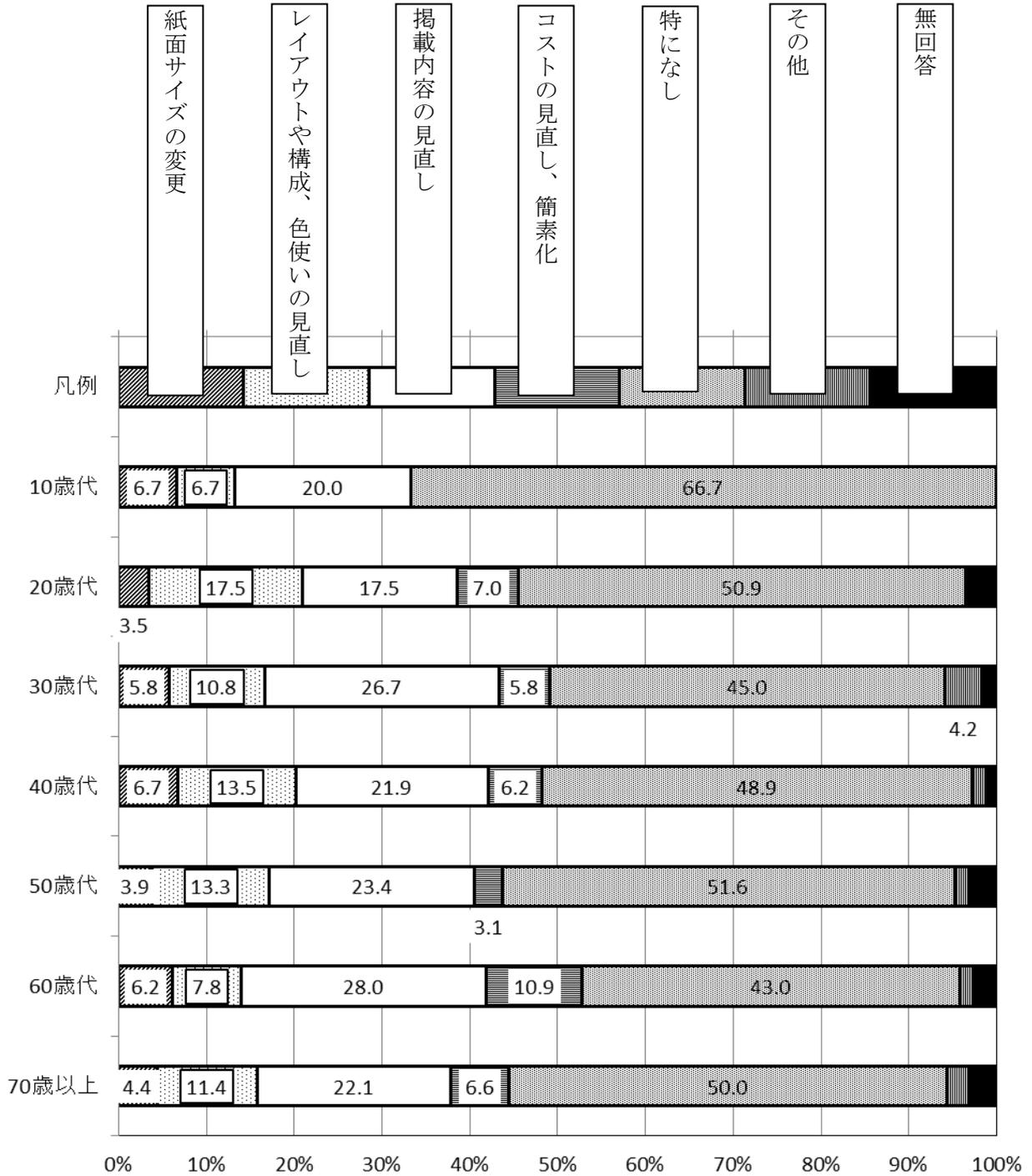
- | | |
|-----------------------------|--|
| 1 紙面サイズの変更 (A4版冊子) | |
| 2 現行の紙面サイズでレイアウトや構成、色使いの見直し | |
| 3 掲載内容の見直し (特集記事やコーナーの充実など) | |
| 4 コストの見直し、簡素化 | |
| 5 特になし | |
| 6 その他 (具体的に) | |



【「掲載内容の見直し」を求める声も】

- 「特になし」が48.3%とほぼ半数を占めています。
- より良くするための方法としては「掲載内容の見直し (特集記事やコーナーの充実など)」が23.7%となっています。

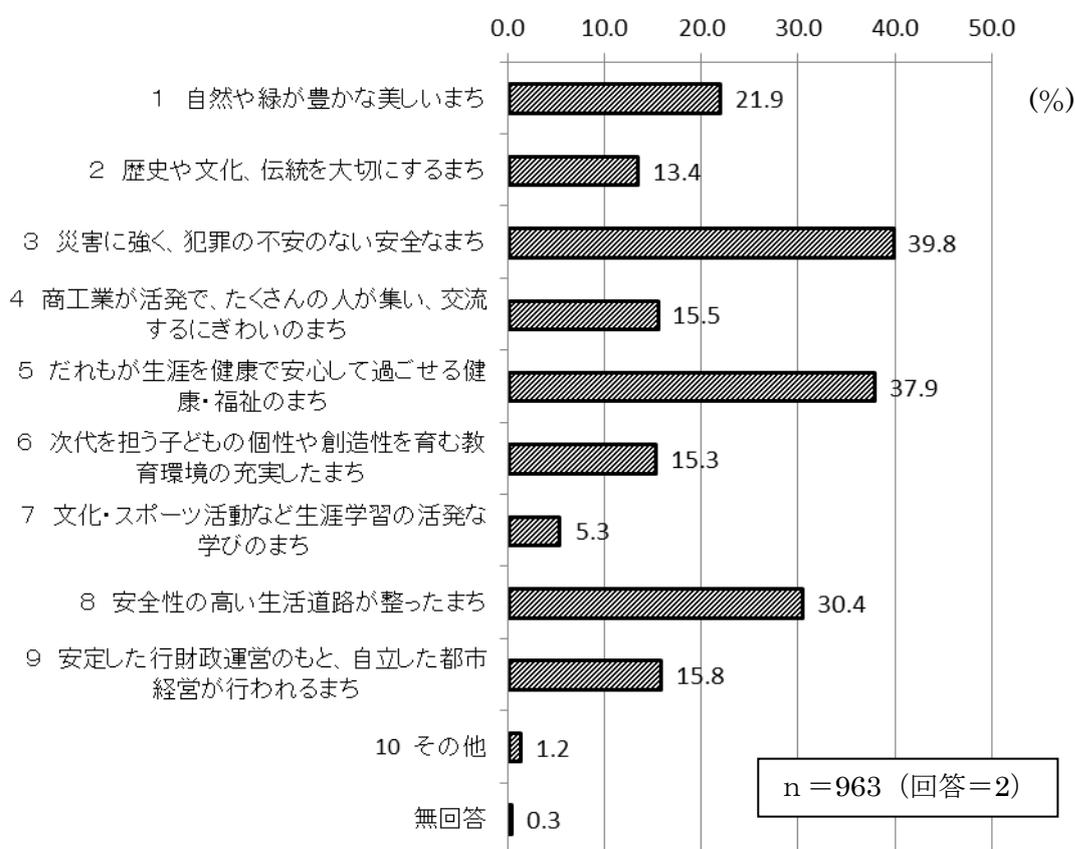
【年代別集計】



【各年代とも半数は「特になし」。60歳代等で掲載内容見直しにニーズ】
 ○年代別にみると、10歳代の66.7%をはじめ、各年代とも「特になし」の回答が最も多くなっています。
 ○30歳代や60歳代では「特になし」の比率が全体に比べてやや低くなっている一方、「掲載内容の見直し（特集記事やコーナーの充実など）」を選択する回答者が30%弱とやや多くなっています。

問15 今後、向日市がどんなまちであってほしいとお考えですか。特にあてはまるものを2つまで選び、右欄にご記入ください。

- | | |
|---------------------------------|---|
| 1 自然や緑が豊かな美しいまち | |
| 2 歴史や文化、伝統を大切にするまち | |
| 3 災害に強く、犯罪の不安のない安全なまち | |
| 4 商工業が活発で、たくさんの人が集い、交流するにぎわいのまち | |
| 5 だれもが生涯を健康で安心して過ごせる健康・福祉のまち | |
| 6 次代を担う子どもの個性や創造性を育む教育環境の充実したまち | |
| 7 文化・スポーツ活動など生涯学習の活発な学びのまち | |
| 8 安全性の高い生活道路が整ったまち | |
| 9 安定した行財政運営のもと、自立した都市経営が行われるまち | |
| 10 その他（具体的に |) |



【「安心」「安全」「健康」に多くの回答】

○上位の回答としては、「災害に強く、犯罪の不安のない安全なまち」が39.8%が第1位で、「だれもが生涯を健康で安心して過ごせる健康・福祉のまち」(37.9%)、「安全性の高い生活道路が整ったまち」(30.4%)と続いており、誰にとっても身近な事柄である安心・安全・健康に関する項目が多くの回答を集めています。

【年代別集計】

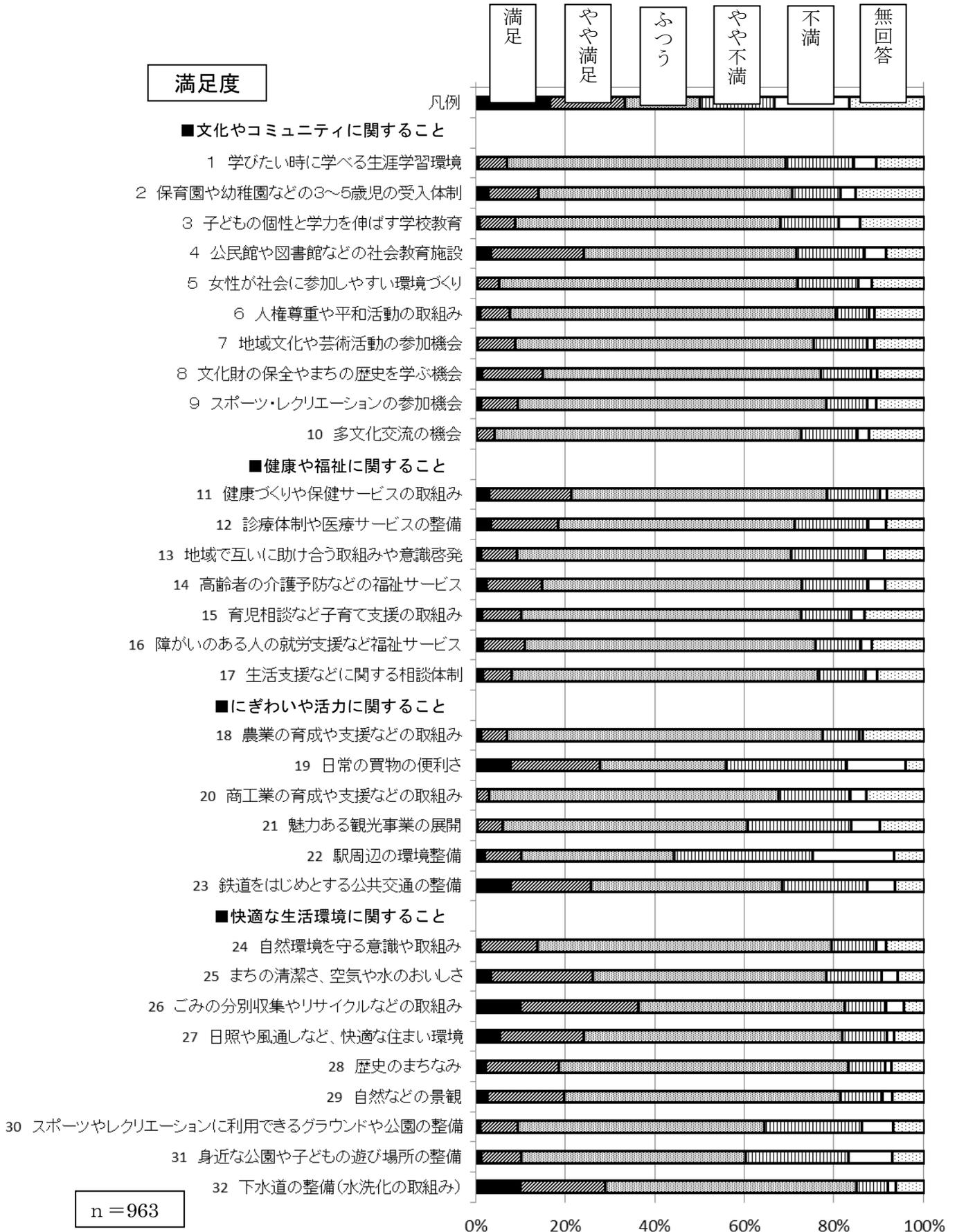
	第1位		第3位
10歳代	だれもが生涯を健康で安心して過ごせる健康・福祉のまち 33.3%	安全性の高い生活道路が整ったまち 33.3%	災害に強く、犯罪の不安のない安全なまち 26.7% 安定した行財政運営のもと、自立した都市経営が行われるまち 26.7%
	第1位	第2位	第3位
20歳代	安全性の高い生活道路が整ったまち 38.6%	災害に強く、犯罪の不安のない安全なまち 33.3%	だれもが生涯を健康で安心して過ごせる健康・福祉のまち 28.1%
	第1位	第2位	第3位
30歳代	災害に強く、犯罪の不安のない安全なまち 49.2%	安全性の高い生活道路が整ったまち 30.8%	だれもが生涯を健康で安心して過ごせる健康・福祉のまち 27.5%
	第1位	第2位	第3位
40歳代	災害に強く、犯罪の不安のない安全なまち 44.4%	だれもが生涯を健康で安心して過ごせる健康・福祉のまち 31.5%	安全性の高い生活道路が整ったまち 30.9%
	第1位	第2位	第3位
50歳代	だれもが生涯を健康で安心して過ごせる健康・福祉のまち 43.0%	安全性の高い生活道路が整ったまち 29.7%	災害に強く、犯罪の不安のない安全なまち 28.9%
	第1位	第2位	第3位
60歳代	災害に強く、犯罪の不安のない安全なまち 42.0%	だれもが生涯を健康で安心して過ごせる健康・福祉のまち 40.9%	安全性の高い生活道路が整ったまち 30.6%
	第1位	第2位	第3位
70歳以上	だれもが生涯を健康で安心して過ごせる健康・福祉のまち 44.5%	災害に強く、犯罪の不安のない安全なまち 38.2%	安全性の高い生活道路が整ったまち 28.3%

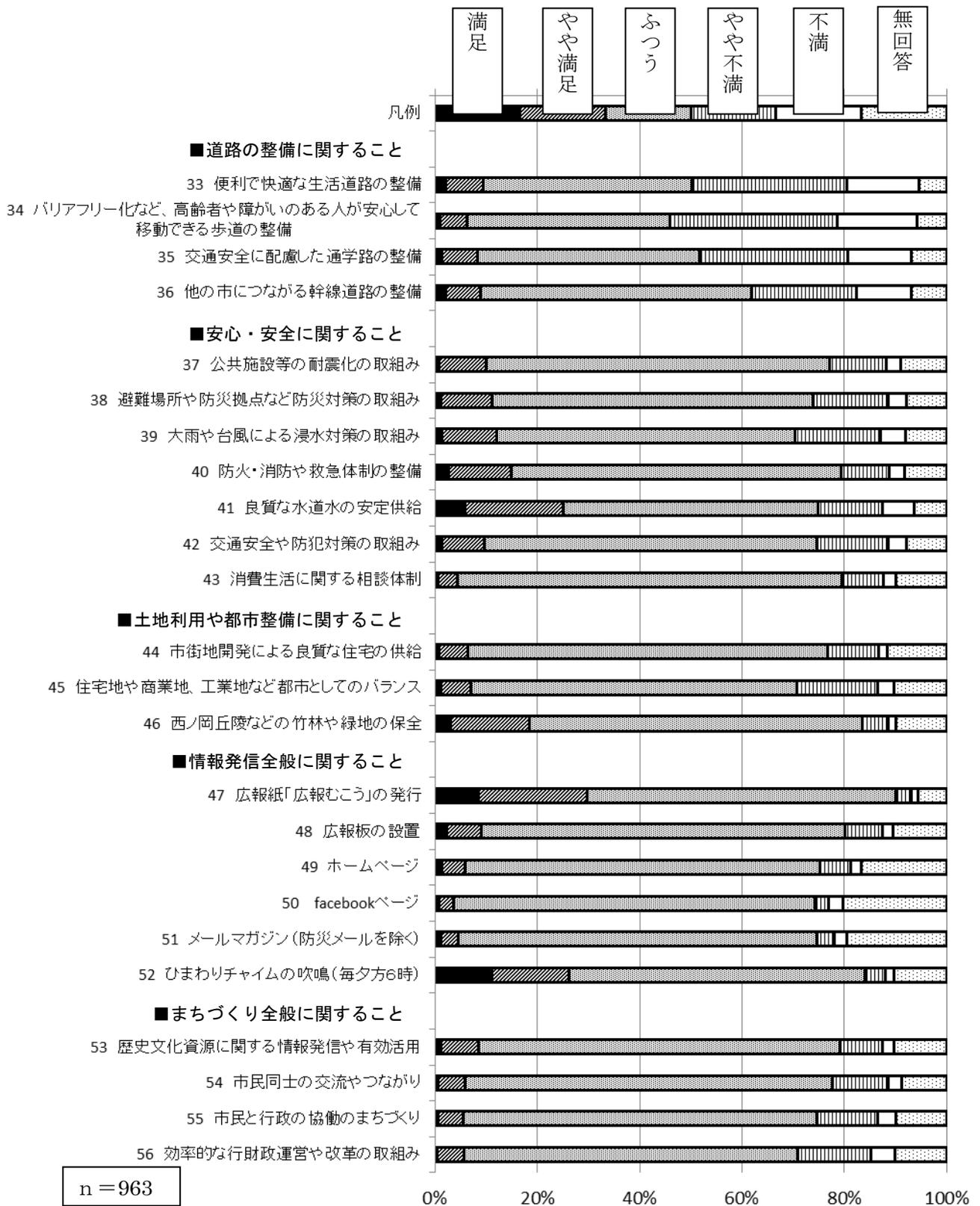
【各年代とも上位項目は同様の傾向】

○年代別にみると、順位は異なりますが、全ての年代で「災害に強く、犯罪の不安のない安全なまち」「だれもが生涯を健康で安心して過ごせる健康・福祉のまち」「安全性の高い生活道路が整ったまち」の3項目が上位を占めています。

■ 施策の満足度・重要度について

問16 あなたは、まちの住みごちや行政の施策について、日ごろどのように感じておられますか。また、今後の重要性について、どのようにお考えですか。回答例にならって、今のお気持ちに最も近い番号を1つ選んで○印をつけてください。





【満足度上位】

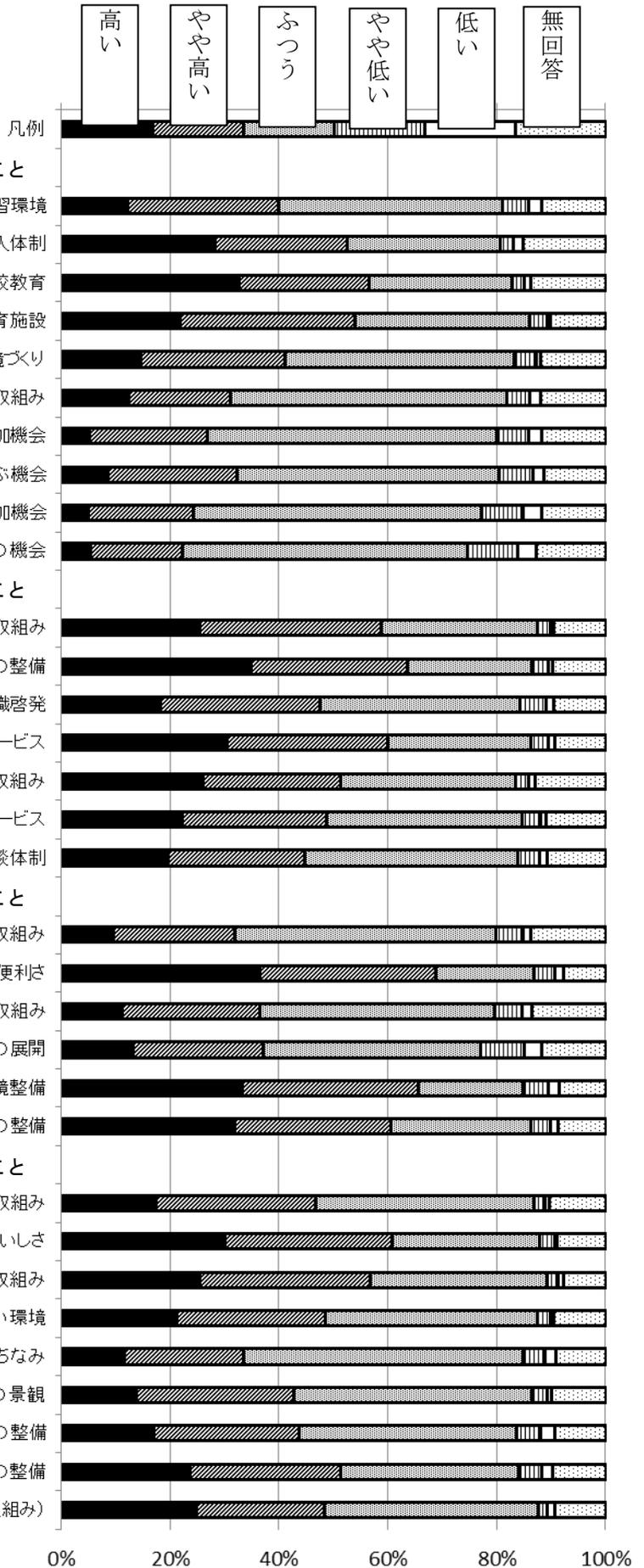
選択項目	係数ポイント
47 広報紙「広報むこう」	3. 34
52 ひまわりチャイム	3. 34
32 下水道の整備	3. 30
26 ごみ分別・リサイクル	3. 30
27 日照など快適な住まい環境	3. 18

【満足度下位】

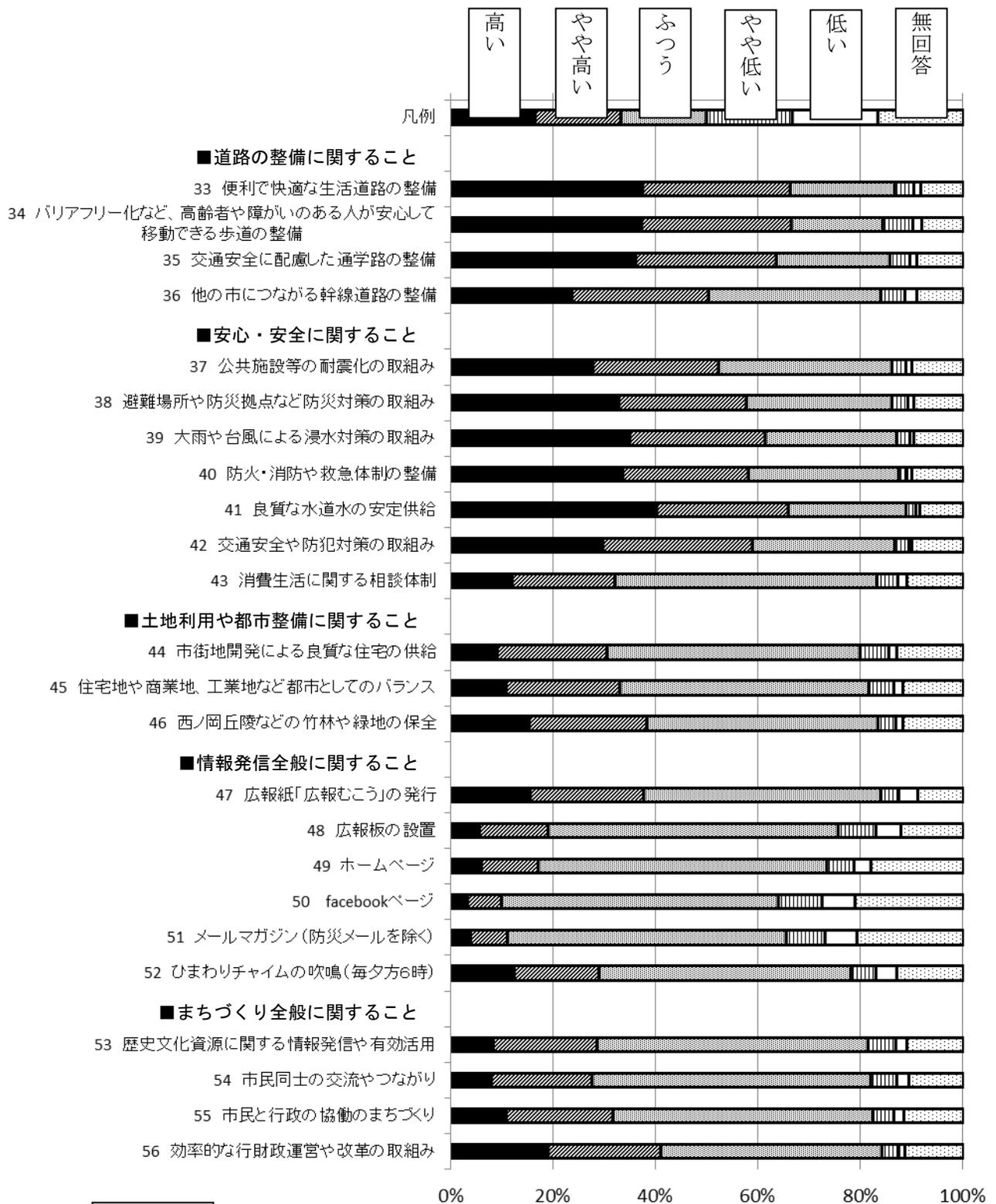
選択項目	係数ポイント
34 安心して移動できる歩道整備	2. 40
22 駅周辺の環境整備	2. 41
33 便利で快適な生活道路	2. 50
35 交通安全に配慮した通学路	2. 53
31 身近な公園・遊び場	2. 67

※)「係数ポイント」は「満足」を5点～「不満」を1点としたものの平均値。

重要度



n = 963



n = 963

【重要度上位】

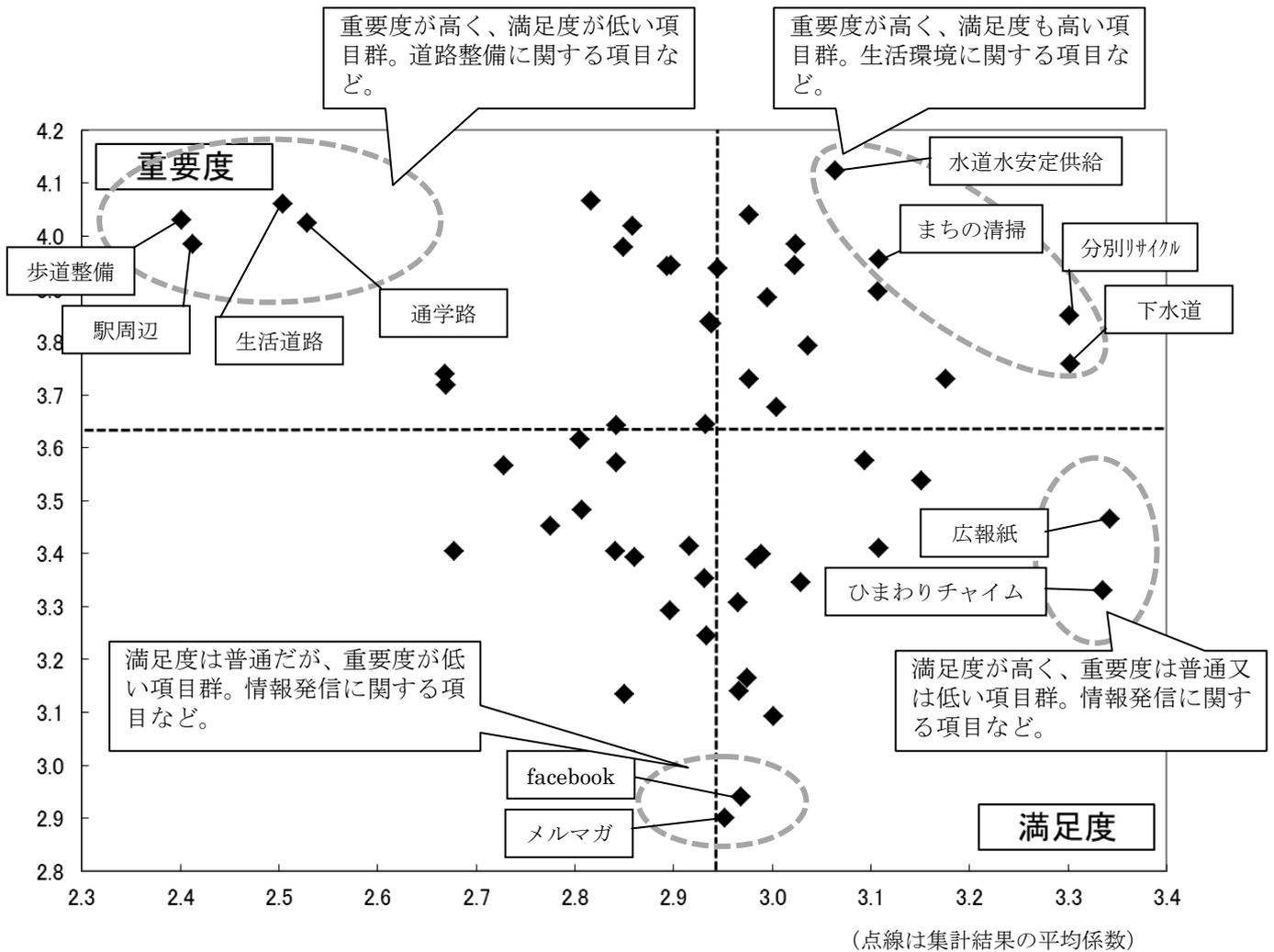
選択項目	係数ポイント
41 良質な水道水の安定供給	4. 1 2
19 日常の買物の便利さ	4. 0 7
33 便利で快適な生活道路	4. 0 6
12 診療・医療サービスの整備	4. 0 4
34 安心して移動できる歩道整備	4. 0 3

【重要度下位】

選択項目	係数ポイント
50 facebook ページ	2. 9 0
51 メールマガジン(防災メール除く)	2. 9 4
48 広報板の設置	3. 0 9
10 多文化交流の機会	3. 1 4
49 ホームページ	3. 1 4

※)「係数ポイント」は「高い」を5点～「低い」を1点としたものの平均値。

参考／係数ポイントでみる各項目の散布図



■ 満足度

【広報や住環境に良い評価、道路関連に厳しい評価】

○満足度が高い項目としては「広報紙『広報むこう』」をはじめとする広報及び下水道やリサイクルなどの住環境関連があります。一方満足度の低い項目としては、歩道整備をはじめ、道路関連の項目が多くみられます。

■ 重要度

【身近な生活環境の利便性を重視する意見が多い】

○市民が重要度を高く感じている項目としては、水道水の安定供給や道路関連の項目など、生活環境の利便性に関する項目がみられます。

参考／各調査項目 満足度・重要度の係数ポイント

■文化やコミュニティに関すること		
	満足度	重要度
1 学びたい時に学べる生涯学習環境	2.81	3.48
2 保育園や幼稚園などの3～5歳児の受入体制	3.00	3.88
3 子どもの個性と学力を伸ばす学校教育	2.85	3.98
4 公民館や図書館などの社会教育施設	3.04	3.79
5 女性が社会に参加しやすい環境づくり	2.84	3.57
6 人権尊重や平和活動の取組み	2.99	3.40
7 地域文化や芸術活動の参加機会	2.93	3.24
8 文化財の保全やまちの歴史を学ぶ機会	3.03	3.35
9 スポーツ・レクリエーションの参加機会	2.97	3.16
10 多文化交流の機会	2.85	3.13
■健康や福祉に関すること		
	満足度	重要度
11 健康づくりや保健サービスの取組み	3.11	3.89
12 診療体制や医療サービスの整備	2.98	4.04
13 地域で互いに助け合う取組みや意識啓発	2.84	3.64
14 高齢者の介護予防などの福祉サービス	2.95	3.94
15 育児相談など子育て支援の取組み	2.94	3.83
16 障がいのある人の就労支援など福祉サービス	2.98	3.73
17 生活支援などに関する相談体制	2.93	3.64
■にぎわいや活力に関すること		
	満足度	重要度
18 農業の育成や支援などの取組み	2.98	3.39
19 日常の買物の便利さ	2.82	4.07
20 商工業の育成や支援などの取組み	2.78	3.45
21 魅力ある観光事業の展開	2.68	3.40
22 駅周辺の環境整備	2.41	3.98
23 鉄道をはじめとする公共交通の整備	3.02	3.95
■快適な生活環境に関すること		
	満足度	重要度
24 自然環境を守る意識や取組み	3.00	3.68
25 まちの清潔さ、空気や水のおいしさ	3.11	3.96
26 ごみの分別収集やリサイクルなどの取組み	3.30	3.85
27 日照や風通しなど、快適な住まい環境	3.18	3.73
28 歴史のまちなみ	3.11	3.41
29 自然などの景観	3.09	3.58
30 スポーツやレクリエーションに利用できるグラウンドや公園の整備	2.73	3.57
31 身近な公園や子どもの遊び場所の整備	2.67	3.74
32 下水道の整備(水洗化の取組み)	3.30	3.76
■道路の整備に関すること		
	満足度	重要度
33 便利で快適な生活道路の整備	2.50	4.06
34 バリアフリー化など、高齢者や障がいのある人が安心して移動できる歩道の整備	2.40	4.03
35 交通安全に配慮した通学路の整備	2.53	4.03
36 他の市につながる幹線道路の整備	2.67	3.72
■安心・安全に関すること		
	満足度	重要度
37 公共施設等の耐震化の取組み	2.94	3.84
38 避難場所や防災拠点など防災対策の取組み	2.90	3.94
39 大雨や台風による浸水対策の取組み	2.86	4.02
40 防火・消防や救急体制の整備	3.02	3.98
41 良質な水道水の安定供給	3.06	4.12
42 交通安全や防犯対策の取組み	2.89	3.94
43 消費生活に関する相談体制	2.92	3.41
■土地利用や都市整備に関すること		
	満足度	重要度
44 市街地開発による良質な住宅の供給	2.93	3.35
45 住宅地や商業地、工業地など都市としてのバランス	2.84	3.41
46 西ノ岡丘陵などの竹林や緑地の保全	3.15	3.54
■情報発信全般に関わること		
	満足度	重要度
47 広報紙「広報むこう」の発行	3.34	3.47
48 広報板の設置	3.00	3.09
49 ホームページ	2.97	3.14
50 facebookページ	2.95	2.90
51 メールマガジン(防災メールを除く)	2.97	2.94
52 ひまわりチャイムの吹鳴(毎夕方6時)	3.34	3.33
■まちづくり全般に関わること		
	満足度	重要度
53 歴史文化資源に関する情報発信や有効活用	2.97	3.31
54 市民同士の交流やつながり	2.90	3.29
55 市民と行政の協働のまちづくり	2.86	3.39
56 効率的な行財政運営や改革の取組み	2.80	3.61

自由意見

●歴史を活かし、活力と魅力あるまちづくり

○歴史・文化、情報発信・PR（25件）

テーマ	意見例（カッコ内数字は特に多かった意見の合計）
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡京の府外・海外へのPR ・江戸時代の「向日町」の魅力発信を ・歴史好きの人に歴史のまちの売り出し ・歴まち認定や向日神社の国文化財登録指定を受けた全国への知名度UPと地域活性化を ・建物デザインに長岡京イメージ ・学校の社会見学で大極殿訪問 ・遺跡整備に費用かけすぎないように
観光	<ul style="list-style-type: none"> ・観光振興によるまちの活性化、観光バス用の道路整備 ・歴史を観光資源として活かせるまちに ・道路、案内板、休憩所、トイレ、食事処、レンタサイクル等による長岡京巡りを
情報発信・PR	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信が弱い（新聞など）、歴史をもっと前面に出した広報を ・KARA-1グランプリなどイベントで盛り上げを ・ふるさととして自己発信するまちに ・西日本で一番小さい市をもっとPR

○産業の活性化（88件）

テーマ	意見例
工業	<ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致で財政強化と働く場づくり
商業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・東向日イオン撤退で買物不便、代わる商業を(46) ・商店街の活性化 ・高齢者が買い物しやすい商店を
農業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・休耕地などの支援 ・道の駅など地元野菜の直販機会の充実 ・筍や竹を扱う商店の拡充

○都市基盤の整備（153件）

テーマ	意見例
道路整備	<ul style="list-style-type: none"> ・物集女街道の整備(34) ・狭小・急勾配な道路の整備(63) (高齢者や子ども・障害のある人、妊婦さんなどが安全な道路整備、バリアフリー化、生活道路・幹線道路整備等) ・自転車が安全に通行できる道路整備、電線地中化 等
駅周辺整備	<ul style="list-style-type: none"> ・東向日駅周辺整備（環境整備、駐輪場等）(11) ・西向日駅周辺整備（並木道整備、駐輪場等）(9) ・JR向日町駅周辺整備（道路、駅東口等）(6)
公園、グラウンド、広場等整備	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが遊べる公園・広場(13) ・多世代が交流できる広場、グラウンド ・ウォーキング、並木道整備
住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅地の整備、既存住宅の改善・高層化促進

○その他（18件）

テーマ	意見例
競輪場	<ul style="list-style-type: none"> ・競輪場は今後どうなるのか、公園等として活用を(11)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・洛西口駅、桂川駅によるまちの影響把握 ・適正な都市計画を

●人と暮らしに明るくやさしいまちづくり

○子育て、少子化対策（38件）

テーマ	意見例
結婚、妊娠、出産	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の出会いの場づくり ・新婚・子育て世帯支援 ・子育て応援企業、NPO等の支援
保育	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園・保育サービスの充実(16) (育休中の上の子どもを休園させる制度の改善、アレルギー対応、英語・音楽教育等) ・子どもの遊び場・機会づくり(児童館整備・充実) ・子育て相談の充実(支援センターの充実)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもがすくすく育つまち、次世代が育つまち ・保健師の育成(親の立場に立てる意識啓発)

○健康・福祉（39件）

テーマ	意見例
健康・医療	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模病院の誘致、医療施設の充実 ・気軽に相談できる健康窓口、健診方法の改善 ・軽運動による高齢者の健康づくり
高齢者	<ul style="list-style-type: none"> ・老人ホームなど高齢者施設(福祉サービス)の整備 ・高齢者が安心、安全して暮らせるまち、見守り体制づくり ・子どもと高齢者がふれあえるまち ・墓地等の相談窓口
障がいのある人	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある人への福祉の充実
地域福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・生活保護制度の適正な運用

○環境・資源循環（39件）

テーマ	意見例
廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ出しルール徹底、変更(前日出し可能に)(6) ・収集回数の増加、収集場所の増加(個人宅ごとなど) ・ごみの有料化を
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の保全(竹林、田園、畑等) ・都市化より緑化推進 ・桜並木の保全
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットのフン等のルール化(条例、罰則等) ・個人宅における自主的な環境整備(個人植樹等) ・空き家、ごみ屋敷対策 ・高架下の騒音対策

○防災・消防救急・防犯・交通安全（56件）

テーマ	意見例
防災	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水・水害対策の強化(寺戸、物集女等)(6) ・避難場所の確保・強化 ・災害時連絡体制の強化(市民への周知、呑龍トンネル情報のインターネット提供強化等) ・防災訓練、防災マップ充実
消防救急	<ul style="list-style-type: none"> ・休日・夜間救急体制の強化(受け入れられなかった) ・AEDマップの作成・配布 ・消防団の活動PR(消防団員の確保)
防犯	<ul style="list-style-type: none"> ・外灯の設置(西向日駅周辺、トンネル内、その他危険場所へのLED照明)(7) ・警察によるパトロール強化

	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯カメラの増強 ・学校・保育所防犯、図書館トイレを明るく
交通安全	<ul style="list-style-type: none"> ・交通マナーの向上（児童・生徒の登下校、子ども・年配者への自転車マナーの指導）(7) ・路上駐車解消（市民体育館周辺等） ・信号の設置 ・暴走族・バイクなどの騒音対策

○公共交通（４５件）

テーマ	意見例
新たな公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ・小型巡回バス・コミュニティバスの運行を（商業施設、公共施設、市役所、駅等）(20) ・巡回バスは不要・反対(2) ・商業施設・公共施設（市役所、図書館）へのシャトルバス
バス交通	<ul style="list-style-type: none"> ・既存バスの充実（本数の増加、路線の拡充、ベンチ設置などバス停の充実、バス停箇所数の増加等）(10)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・市内交通空白地の解消 ・高齢者に対する交通手段確保

○上下水道（２５件）

テーマ	意見例
上水道	<ul style="list-style-type: none"> ・水道料金が高く、見直しを。(18) ・水質の向上を（美味しくなく、白濁することがある、におうときがある） ・水道管の計画的な更新
下水道	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道料金が低い

○学校教育（２０件）

テーマ	意見例
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の資質向上（子どもの意見を聞く、無関心にならない、少人数学級など）
教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校区選択性の導入 ・学校トイレの改善（美化、水洗化、男女別） ・中高生の勉強場所の確保 ・いじめ対策 ・市民プールの学校活用 ・教育相談体制の強化（スクールカウンセラー配置等）
給食	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校給食の実施(5)

○生涯学習・スポーツ（２４件）

テーマ	意見例
生涯学習	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館施設・サービスの充実（敷地、蔵書、図書館施設数、トイレ整備、読み聞かせ場所）(7) ・納税者向け学習・スポーツプログラム（土日、夜間等） ・コミュニティセンター・公民館の利便性向上
文化	<ul style="list-style-type: none"> ・文化的催し物の実施
スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・練習場所の確保 ・グラウンドの整備 ・ゆめパレアの美化 ・施設利用料金の抑制（市民と市民以外の区別等）

●信頼と協働で市民の声が届くまちづくり

○市民参加、市民協働（14件）

テーマ	意見例
コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・土着的・排他的な意識が強く、昔ながらの住民の意見が強い ・コミュニティ活動の拠点づくり ・市民会館の充実（美化、ホールの整備） ・町内会加入のための施策
市民参加・参画	<ul style="list-style-type: none"> ・市民と行政の両輪でまちづくり ・参加のきっかけづくり、祭りの開催 ・市民意見を市長に伝え、反映する機会の充実

○行財政運営、議会（53件）

テーマ	意見例
行政運営	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所位置の検討（高齢者には遠い、東向日周辺・イオン跡地等への移転、窓口など一部機能の支所化）（8） ・開庁時間の拡大 ・政策の順位づけ ・工事の無駄の削減
職員	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の意識改革（市民目線、笑顔の対応） ・電話対応の改善（3コールでとる） ・市民の中に入って意見交換
広域行政	<ul style="list-style-type: none"> ・広域連携による行政運営の効率化を（一部事務組合の活用、乙訓や京都市との合併の検討）
財政運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税でまちのPR ・低コストの体質づくり ・民間の力の活用
広報	<ul style="list-style-type: none"> ・広報の縮小（広報紙は希望者のみ、月2回は多い） ・若者に対する情報発信
議会	<ul style="list-style-type: none"> ・議員数が多い（削減を）（5） ・投票率の向上 ・選挙看板の削減

○その他（38件）

テーマ	意見例
まちづくり、市長、行政への期待・激励	<ul style="list-style-type: none"> ・しがらみを捨てはっきりものが言える若い市長に期待 ・期待するまちの将来像（一人でも安心、にぎやか、国際化、気持ちよく暮らせる、独自性のあるまち、住みよいまち 等） ・まちづくりに頑張ってもらいたい、ずっと住み続けたい
イベント、キャラクター	<ul style="list-style-type: none"> ・新たなイベント（激甘商店街 等） ・カラッキーについて ・商品券について（平等な入手の仕組み 等）
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの地図がほしい ・アンケートについて（知らないので答えられない、結果を広報してほしい）（10）

【都市基盤、産業等に多くの意見】

○回収した全アンケート963件に対し、435件（45.1%）で自由意見欄への記載がありました。

○特に都市基盤（153件）、産業（88件）等への意見が多くなっています。特に都市基盤では物集女街道をはじめとする道路整備に対する意見が、産業では東向日駅周辺におせるイオンの撤退に関する意見が多くみられました。

（1件で複数の意見記述があり、分割すると676件の意見となっています。）

向日市転入・転出に関するアンケート 結果報告

向日市

目次

■ 調査の概要

調査の概要	1
-------	---

■ 向日市転入アンケートについて

問1 転入元	2
問2 居住歴	2
問3 家族構成	3
問4 年齢	3
問5 転入先（地区）	4
問6 情報収集	4
問7 転出理由	5
問8 向日市を選んだ理由	6
自由意見（転入アンケート）	7

■ 向日市転出アンケートについて

問1 転出先	8
問2 居住歴	8
問3 家族構成	9
問4 年齢	9
問5 転出元（地区）	10
問6 転出先の自治体を選んだ理由	11
問7 転出理由	12
問8 向日市の良かった点、不満な点	13
自由意見（転出アンケート）	15

向日市転入・転出アンケート 結果報告

■ 調査の概要

1 調査目的

本市では、現在、新たな市の最上位計画であるふるさと向日市創生計画の策定に取り組んでいます。本アンケートは、市民の皆様の転入・転出のきっかけなどを把握し、今後の市政運営やまちづくりに活用するために実施しました。

2 調査方法

調査名称	向日市転入・転出アンケート
対象者	向日市に転入届又は転出届を提出した者
回収数	転入者 71 件、転出者 71 件
実施期間	平成 27 年 9 月 17 日から 10 月 16 日まで
調査方法	市民課窓口において依頼・回収

3 分析についての注意点

- ・比率は全て百分率（％）で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しているため、合計値が 100%にならない場合があります。
- ・「2 つ以上を選択回答」の設問については、百分率の合計が 100%を超える場合があります。
- ・図中で「n」は回答者数を示しています。

4 調査項目

■向日市転入アンケート

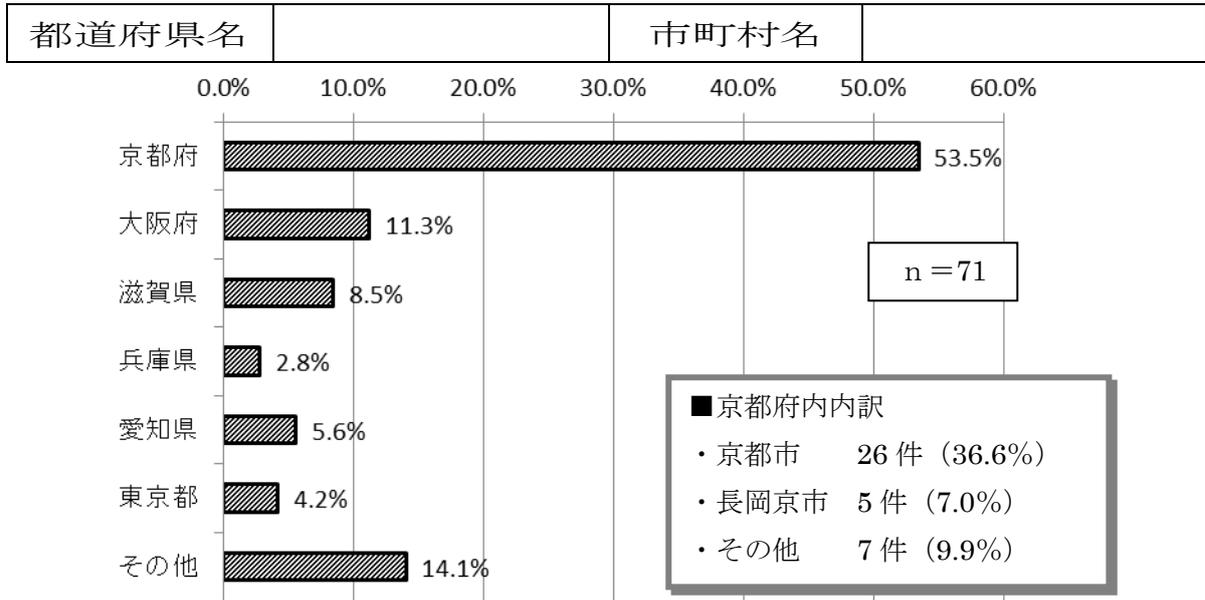
回答者属性	○転入元、居住歴、家族構成、年齢、転入先
情報収集	○どのように向日市の情報を収集したか
転入出理由	○前に住んでいた自治体からの転出理由 ○転入先として向日市を選んだ理由
自由意見	自由記述

■向日市転出アンケート

回答者属性	○転出先、居住歴、家族構成、年齢、転出元
転入出理由	○転出先の自治体を選んだ理由 ○向日市から転出する理由
良かった点、不満な点	○向日市の良かった点、不満な点
自由意見	自由記述

向日市転入に関するアンケートについて

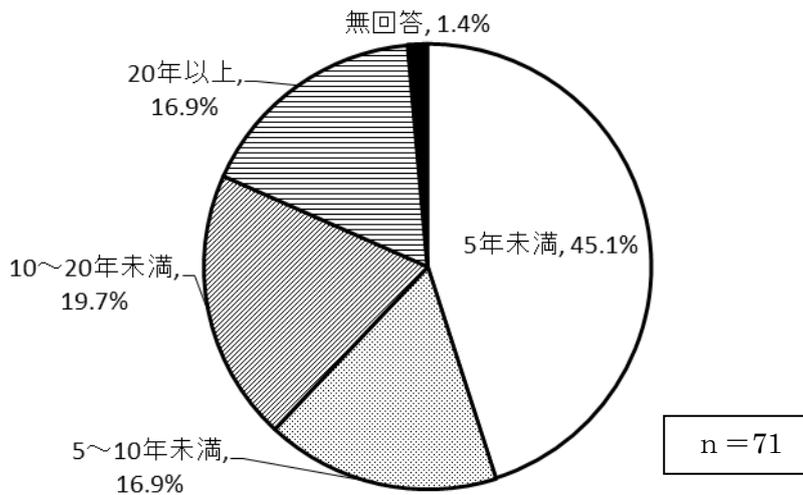
問1 転入前のお住まい（自治体）はどちらですか。



【半数以上が京都府内からの転入。京都市からが36.6%】
 ○向日市に転入してきた人の以前の居住地としては、半数以上を京都府内が占め、特に京都市からの転入が36.6%と最大になっています。

問2 転入前の自治体での居住歴について、あてはまる番号1つに○をつけてください。

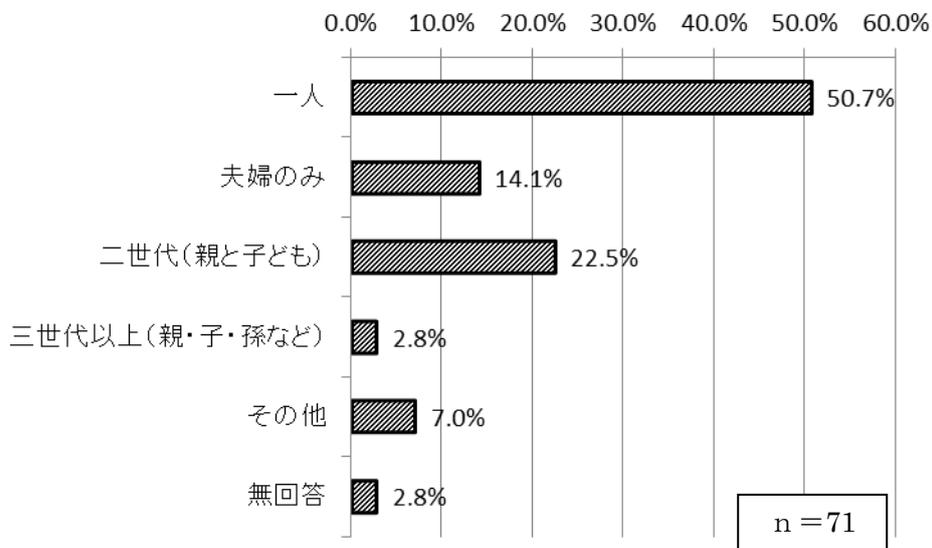
1 5年未満	3 10～20年未満
2 5～10年未満	4 20年以上



【居住歴が比較的短い層の転入が多い】
 ○半数近くが以前の居住地での居住歴が5年未満の人で、短期間で転入出を繰り返す人が多くなっています。しかし、居住歴が長い層の転入（10～20年未満、20年以上）もそれぞれ15～20%を占めています。

問3 転入される家族構成について、あてはまる番号1つに○をつけてください。

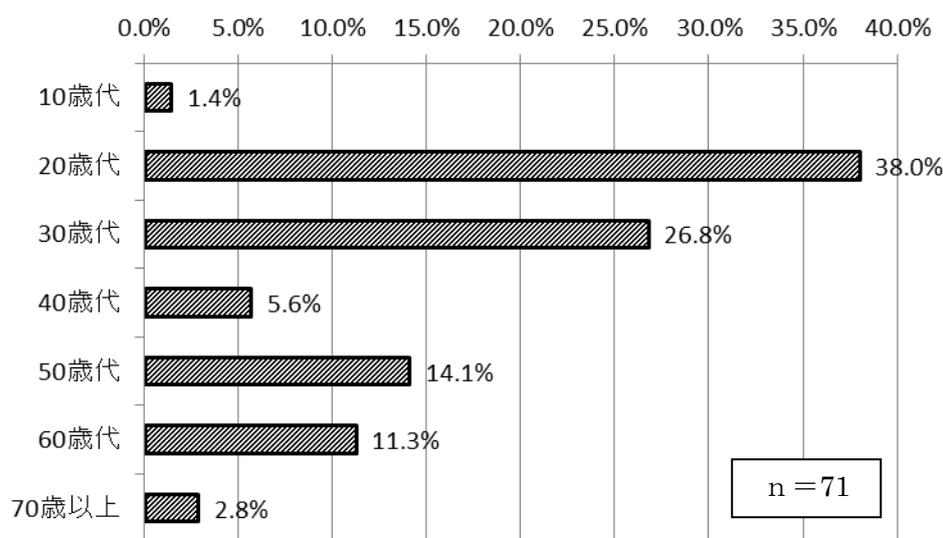
- | | |
|---------------|------------------|
| 1 一人 | 4 三世代以上（親・子・孫など） |
| 2 夫婦のみ | 5 その他 |
| 3 二世世代（親と子ども） | （具体的に) |



【単身での転入が約半数】
 ○転入してきた世帯の家族構成は1人が多く、単身での転入がほぼ半数を占めています。

問4 転入される世帯主の方の年齢について、あてはまる番号1つに○をつけてください。

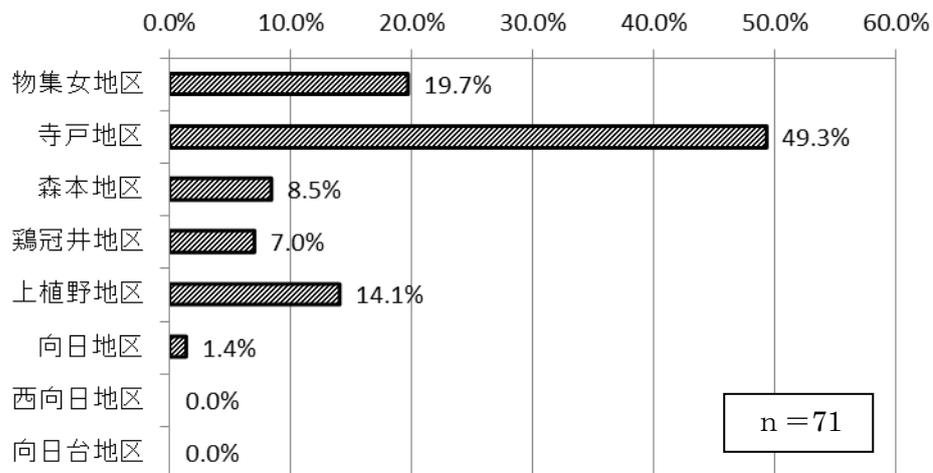
- | | | | |
|--------|--------|--------|---------|
| 1 10歳代 | 3 30歳代 | 5 50歳代 | 7 70歳以上 |
| 2 20歳代 | 4 40歳代 | 6 60歳代 | |



【世帯主が20～30歳代の転入が6割超】
 ○世帯主の年齢としては20～30歳代の転入が64.8%を占め、転入時の中心的な年齢層となっています。

問5 転入後（向日市）のお住まいについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。

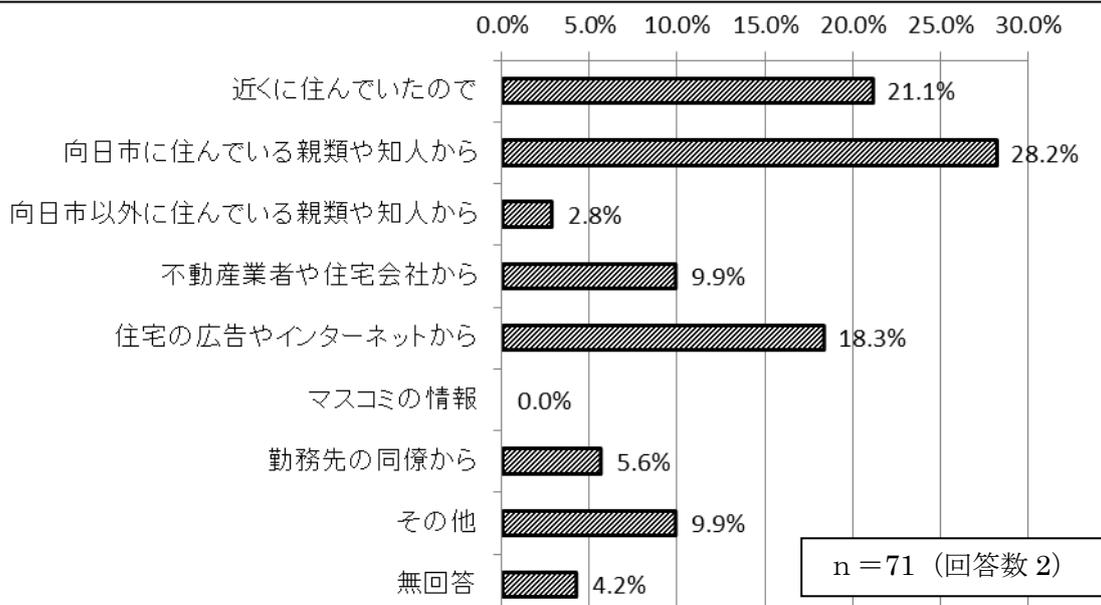
1 物集女地区	4 鶏冠井地区	7 西向日地区
2 寺戸地区	5 上植野地区	8 向日台地区
3 森本地区	6 向日地区	9 わからない



【寺戸地区への転入がほぼ半数】
 ○寺戸地区への転入がほぼ半数（49.3%）を占めています。以下、物集女地区、上植野地区への転入が続いています。

問6 転入前、どのように向日市の情報を集めましたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

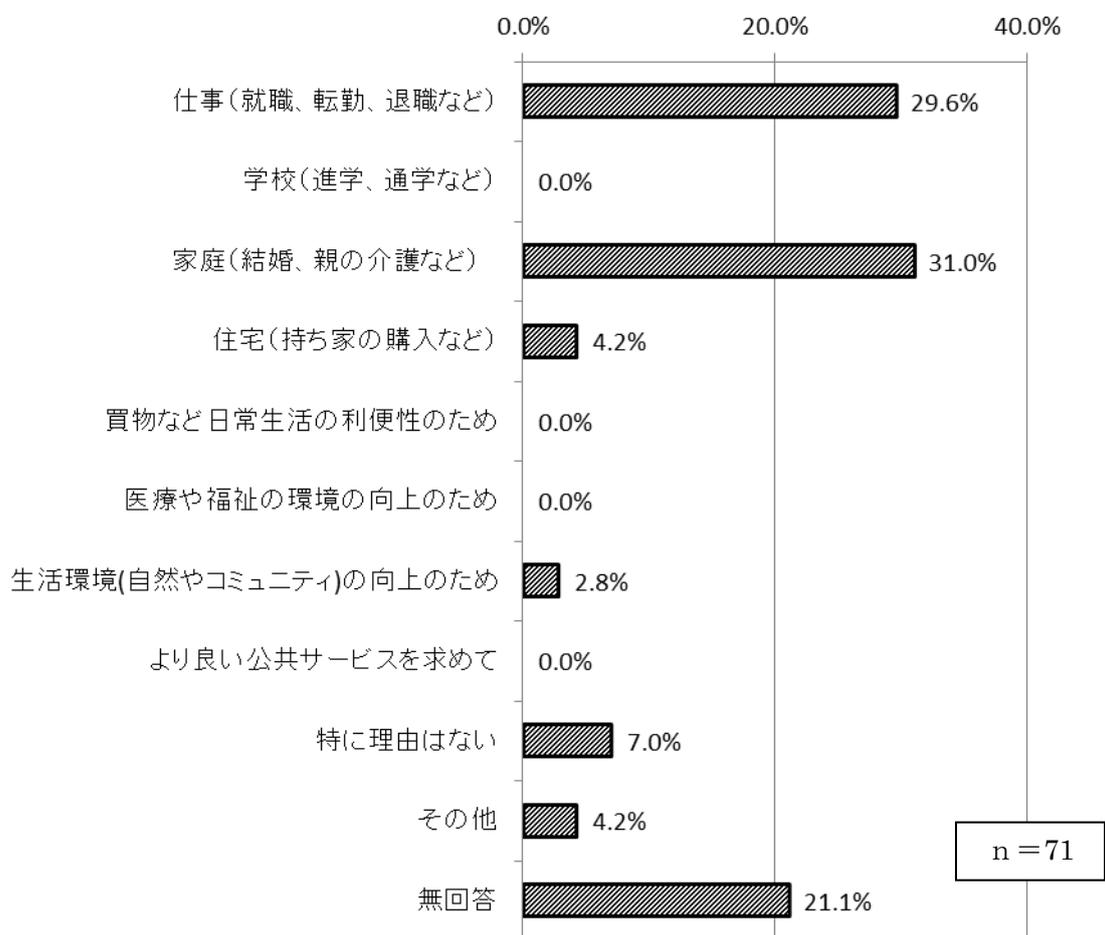
1 近くに住んでいた	5 住宅の広告やインターネットから
2 向日市に住んでいる親類や知人から	6 マスコミの情報
3 向日市以外に住んでいる親類や知人から	7 勤務先の同僚から
4 不動産業者や住宅会社から	8 その他
	(具体的に)



【情報は向日市に住んでいる人から】
 ○転入前に向日市の情報を集める方法としては、向日市に住んでいる親類や知人からが28.2%と最も多くなっています。

問7 前に住んでいた自治体から転出された理由について、最も大きなもの1つに○をつけてください。

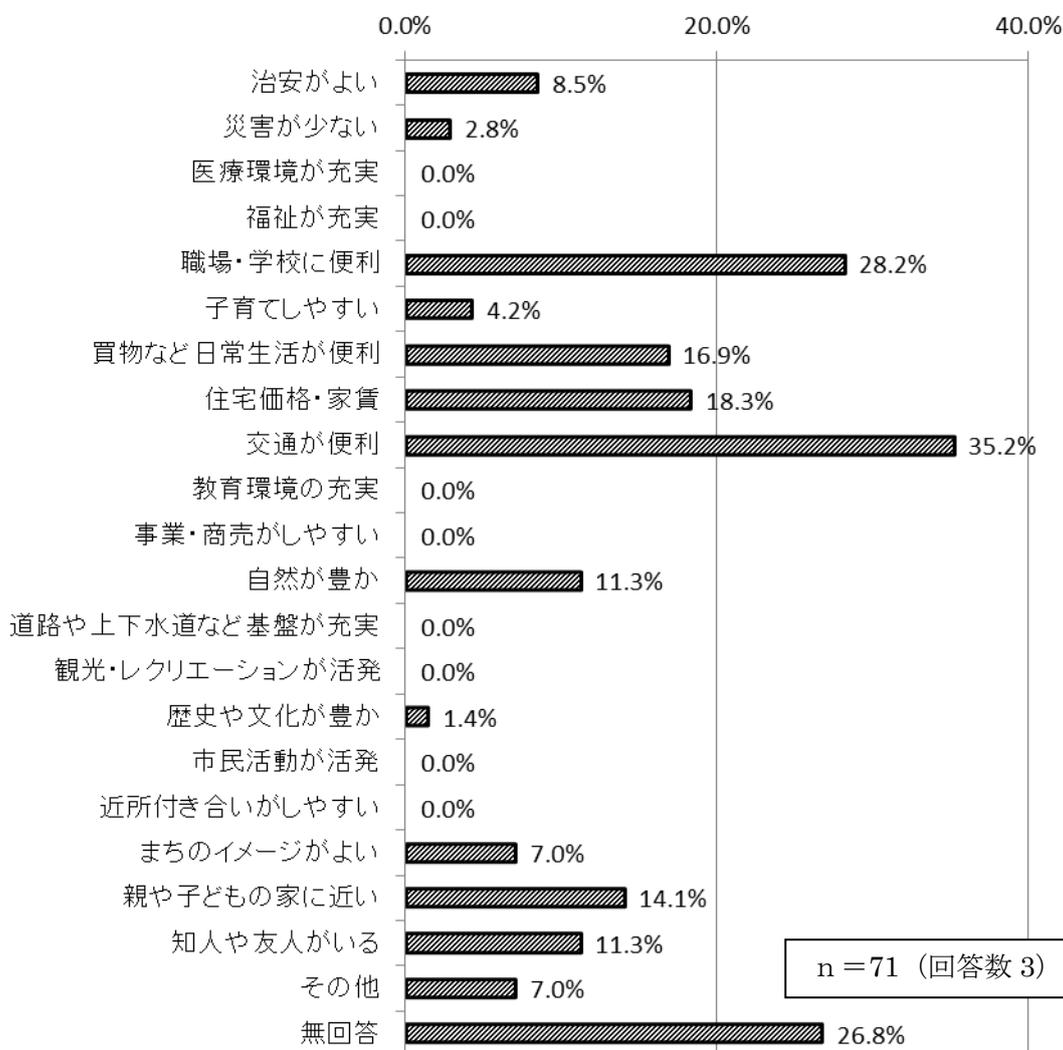
- 1 仕事（就職、転勤、退職など）
- 2 学校（進学、通学など）
- 3 家庭（結婚、親の介護など）
- 4 住宅（持ち家の購入など）
- 5 買物など日常生活の利便性のため
- 6 医療や福祉の環境の向上のため
- 7 生活環境（自然やコミュニティなど）の向上のため
- 8 より良い公共サービスを求めて
（具体的に)
- 9 特に理由はない
- 10 その他
（具体的に)



【家庭、仕事が二大理由に】
 ○以前の居住地からの転出理由としては、家庭（結婚、親の介護など）が 31.1%、仕事（就職、転勤、退職など）が 29.6%と、合わせて 60.6%を占めています。

問8 転入先として、向日市を選ばれた理由について、主なものを3つまで選んで、右欄にご記入ください。

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1 治安がよい | 12 自然が豊か |
| 2 災害が少ない | 13 道路や上下水道など基盤が充実 |
| 3 医療環境が充実 | 14 観光・レクリエーションが活発 |
| 4 福祉が充実 | 15 歴史や文化が豊か |
| 5 職場・学校に便利 | 16 市民活動が活発 |
| 6 子育てしやすい | 17 近所付き合いがしやすい |
| 7 買物など日常生活が便利 | 18 まちのイメージがよい |
| 8 住宅価格・家賃 | 19 親や子どもの家に近い |
| 9 交通が便利 | 20 知人や友人がいる |
| 10 教育環境の充実 | 21 その他 |
| 11 事業・商売がしやすい | (具体的に) |



【利便性を重視】

○転入先として向日市を選んだ理由としては、「交通が便利」の35.2%を筆頭に、「職場・学校に便利」「買物など日常生活が便利」と、利便性を評価する意見が多くなっています。

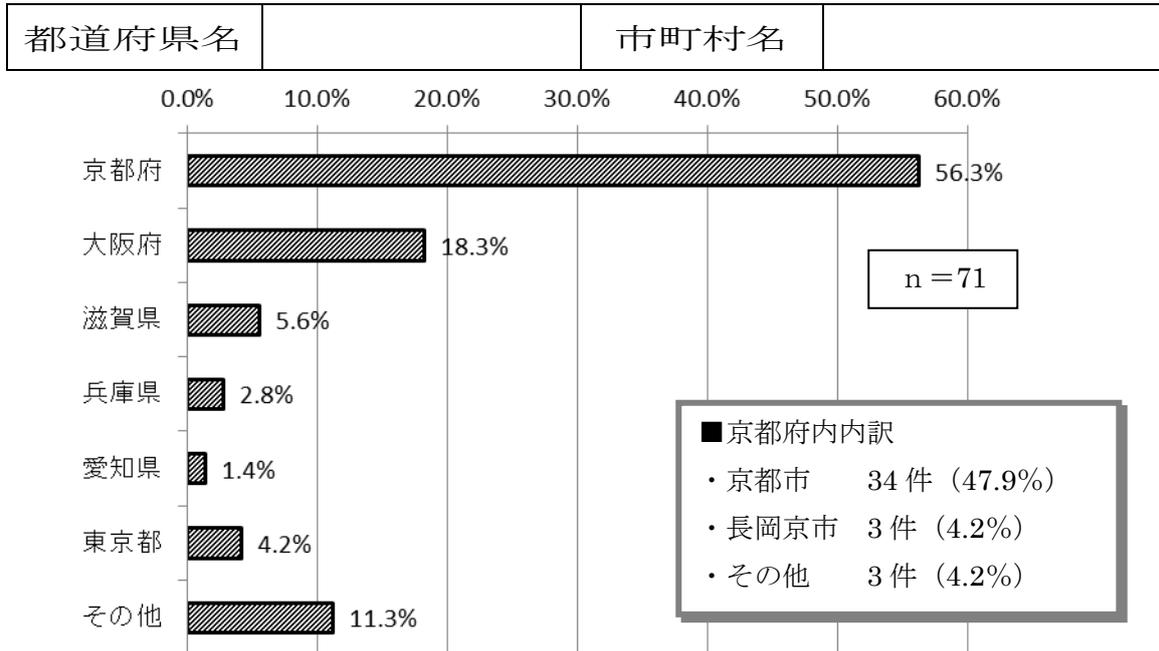
○これ以外では住宅価格・家賃が第3位で18.3%となっています。

【自由意見（転入アンケート）】

テーマ	意見
まちのPR	・からっきーがんばれ！
商業	・レンタルビデオ店、古書店など、娯楽施設の充実。 ・商店街や個人店などがもっとまちづくりに協力し、地域活性化につなげてほしい。
道路整備	・道路が狭いので整備してもらえるとうれしい。
都市整備	・駅前競争が激しいが、発展の余地がある。
公共交通	・市バスで、京都市にも行きたい。 ・新しくできたバスの本数を増やして欲しい(せめて1時間に1本)。 向日市役所や駅から体育館に向かうルートは良いが、そこから長岡京に向かわずに駅方面に戻るルートを要望する。
学校教育	・中学給食の実施。 ・京都市のように学資制度があれば嬉しい。
上水道	・水道代が高く、低価格にしてほしい。
子育て	・子どもの環境などがよくなればいいなと思う。
行財政	・桂川駅や洛西口駅周辺に市役所に来なくても手続きができる場所があれば嬉しい。

向日市転出に関するアンケートについて

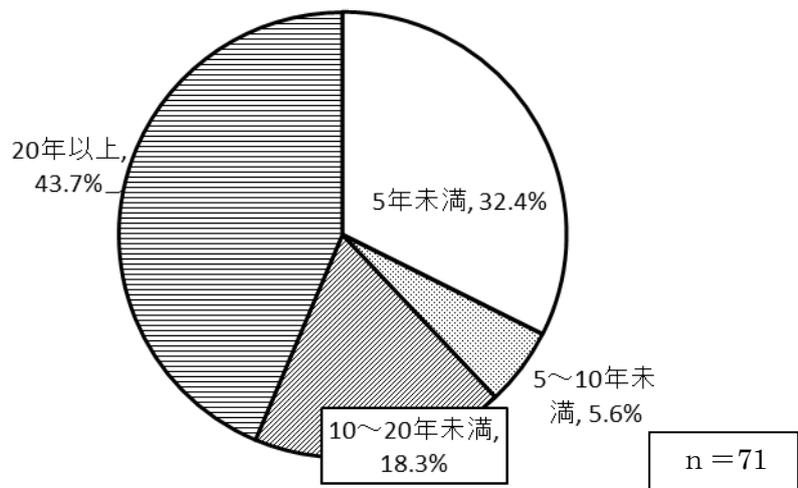
問1 転出先のお住まい（自治体）はどちらですか。



【半数以上が京都府内への転出。京都市が47.9%】
 ○向日市からの転出先としては、半数以上を京都府内が占め、特に京都市への転出が47.9%とほぼ半数を占めています。

問2 向日市での居住歴について、あてはまる番号1つに○をつけてください。

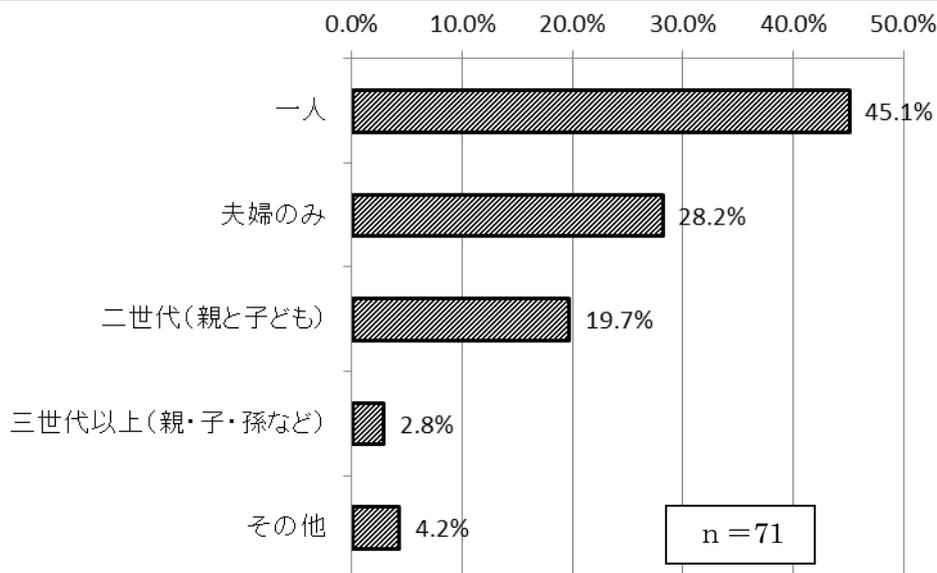
1 5年未満	3 10～20年未満
2 5～10年未満	4 20年以上



【居住歴が比較的長い層からの転出が多い】
 ○居住歴20年以上の人で回答の43.7%を占めています。

問3 転出先での家族構成について、あてはまる番号1つに○をつけてください。

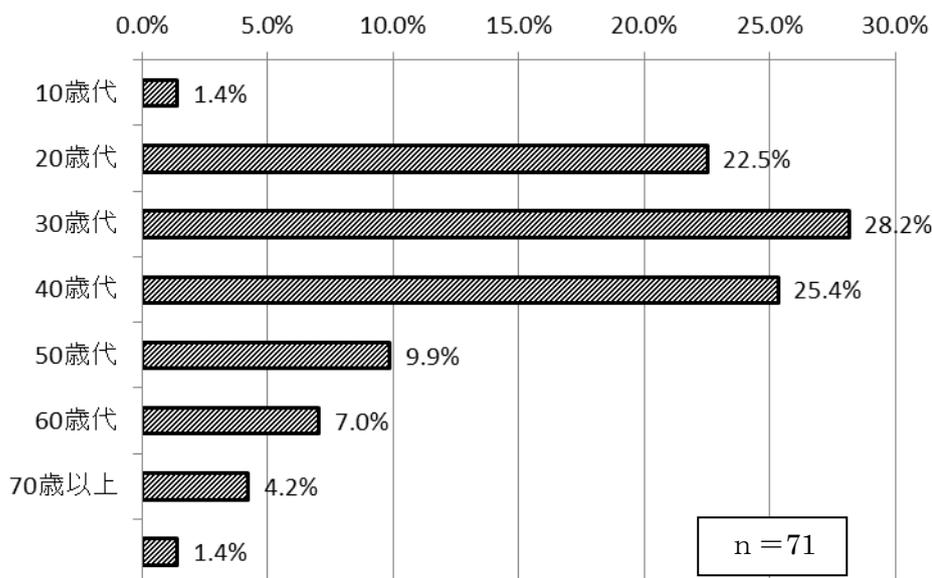
- | | |
|--------------|------------------|
| 1 一人 | 4 三世代以上（親・子・孫など） |
| 2 夫婦のみ | 5 その他 |
| 3 二世代（親と子ども） | （具体的に) |



【単身での転出が約半数】
 ○転出先での家族構成は1人が多く、単身での転出がほぼ半数を占めています。

問4 転出される世帯主の方の年齢について、あてはまる番号1つに○をつけてください。

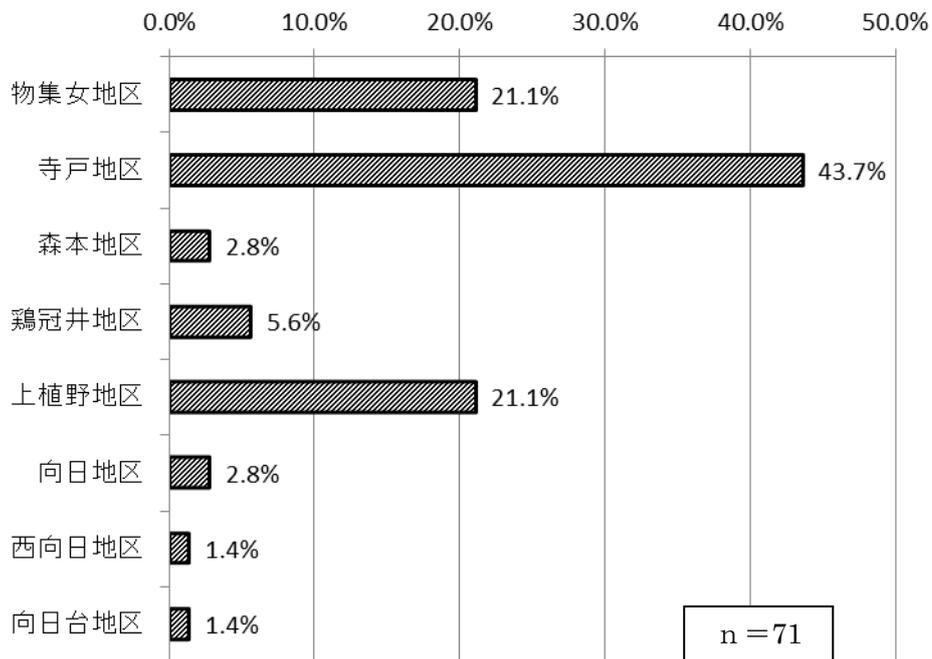
- | | | | |
|--------|--------|--------|---------|
| 1 10歳代 | 3 30歳代 | 5 50歳代 | 7 70歳以上 |
| 2 20歳代 | 4 40歳代 | 6 60歳代 | |



【世帯主が20～40歳代の転出が4分の3】
 ○向日市から転出する世帯の世帯主の年齢は30歳代を中心に、20～40歳代で76.1%を占め、転出時の中心的な年齢層となっています。

問5 向日市でのお住まいについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。

1 物集女地区	4 鶏冠井地区	7 西向日地区
2 寺戸地区	5 上植野地区	8 向日台地区
3 森本地区	6 向日地区	9 わからない



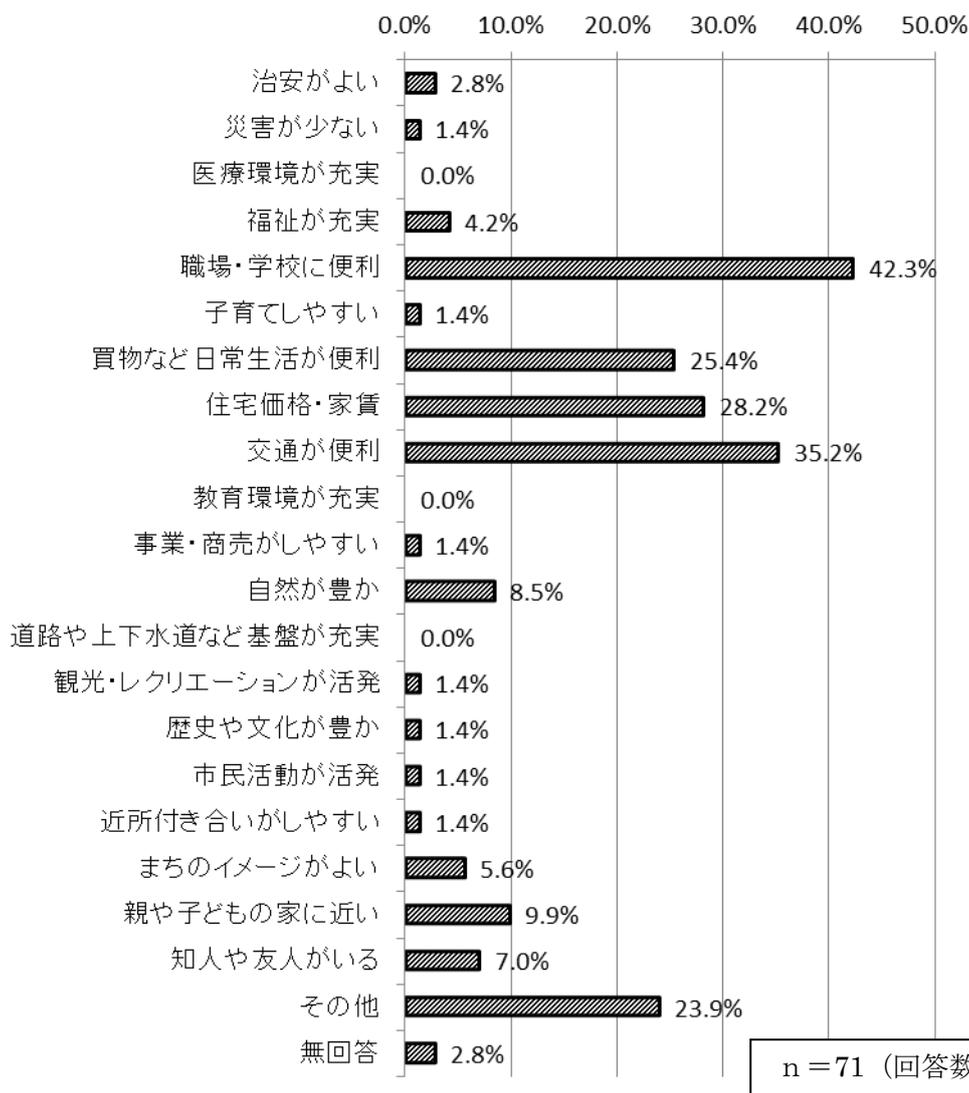
【人口規模の大きな寺戸地区からの転出がほぼ半数】

○転出前の向日市内での居住地としては、もともと人口規模の大きな寺戸地区からの転出が半数近くを占めています。

○以下、物集女地区と上植野地区が同数で続いています。

問6 転出先の自治体を選んだ理由について、3つまで選んで右欄にご記入ください。

1 治安がよい	12 自然が豊か
2 災害が少ない	13 道路や上下水道など基盤が充実
3 医療環境が充実	14 観光・レクリエーションが活発
4 福祉が充実	15 歴史や文化が豊か
5 職場・学校に便利	16 市民活動が活発
6 子育てしやすい	17 近所付き合いがしやすい
7 買物など日常生活が便利	18 まちのイメージがよい
8 住宅価格・家賃	19 親や子どもの家に近い
9 交通が便利	20 知人や友人がいる
10 教育環境が充実	21 その他
11 事業・商売がしやすい	(具体的に)

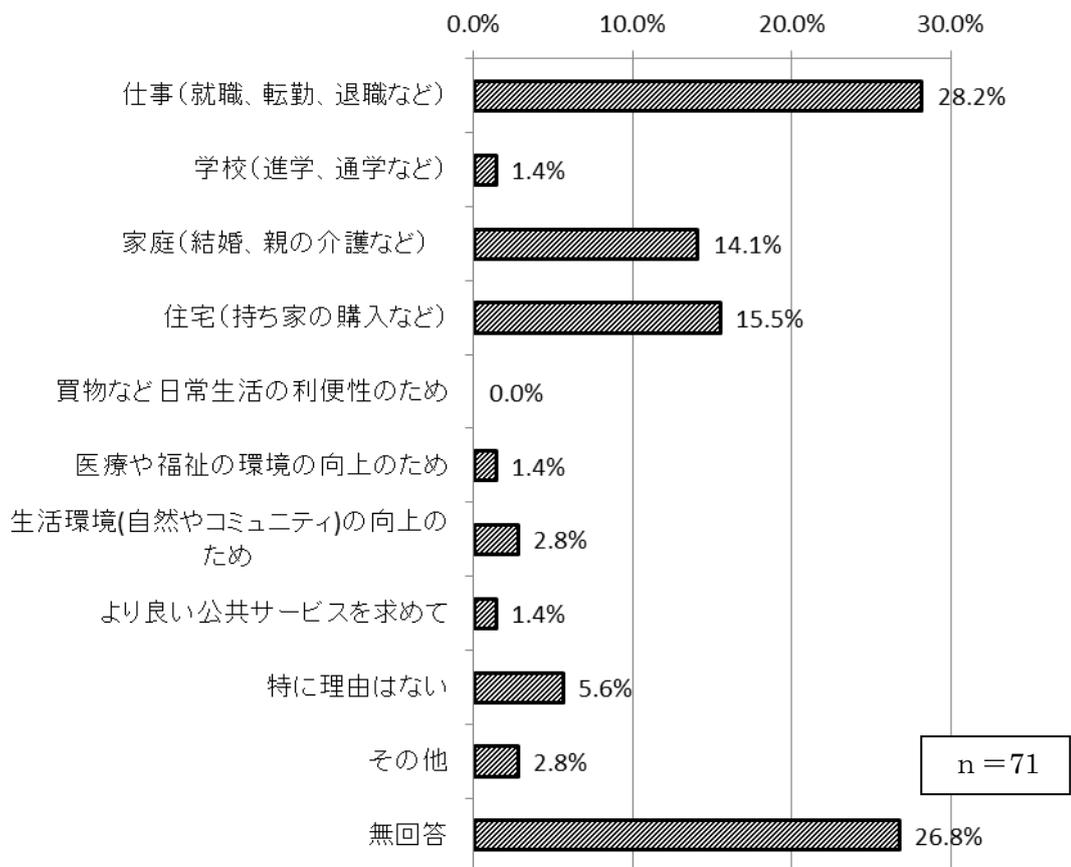


【転出先の自治体でも利便性を重視】

○向日市からの転出先の自治体を選んだ理由としては、「職場・学校に便利」(42.3%)を筆頭に、「交通が便利」「買物など日常生活が便利」と利便性を評価する回答や、「住宅価格・家賃」が多く、転入先として向日市を選んだ理由とほぼ同様の傾向を示しています。

問7 向日市から転出される理由について、最も大きなもの1つに○をつけてください。

- | | | |
|----|-----------------------|---|
| 1 | 仕事（就職、転勤、退職など） | |
| 2 | 学校（進学、通学など） | |
| 3 | 家庭（結婚、親の介護など） | |
| 4 | 住宅（持ち家の購入など） | |
| 5 | 買物など日常生活の利便性のため | |
| 6 | 医療や福祉の環境の向上のため | |
| 7 | 生活環境(自然やコミュニティ)の向上のため | |
| 8 | より良い公共サービスを求めて（具体的に | ） |
| 9 | 特に理由はない | |
| 10 | その他（具体的に | ） |



【仕事約3割。住宅、家庭が続く】
 ○向日市からの転出理由としては、仕事（就職、転勤、退職など）が 28.2%と最も高く、住宅（持ち家の購入など）、家庭（結婚、親の介護など）が続き、他の回答を大きく上回っています。

問8 向日市で生活されていて良かった点、不満な点について、それぞれ3つまで選んで右欄にご記入ください。

1 自然環境	良かった
2 まちなみや住環境	
3 通勤・通学の利便性（通勤・通学先は 1 市内 2 市外）	
4 市内の雇用環境	
5 買物など日常生活の利便性	
6 医療や福祉	
7 公共サービス	
8 住宅（広さや立地、価格・家賃）	
9 鉄道などの交通利便性	
10 子育てや教育環境	
11 近所付き合い	不満
12 治安（防犯など）	
13 災害対策	
14 まちの親しみやすさ	
15 ボランティアやNPOなどの市民活動	
16 その他（具体的に)	

【自然・住環境や利便性など、多様な点を評価】

○向日市の良かった点としては、自然環境が29.6%と最も高い評価を得ています。

○また、「鉄道などの交通利便性」の28.2%をはじめ、「買物など日常生活の利便性」「通勤・通学の利便性」など、利便性を評価する意見がこれに続きます。

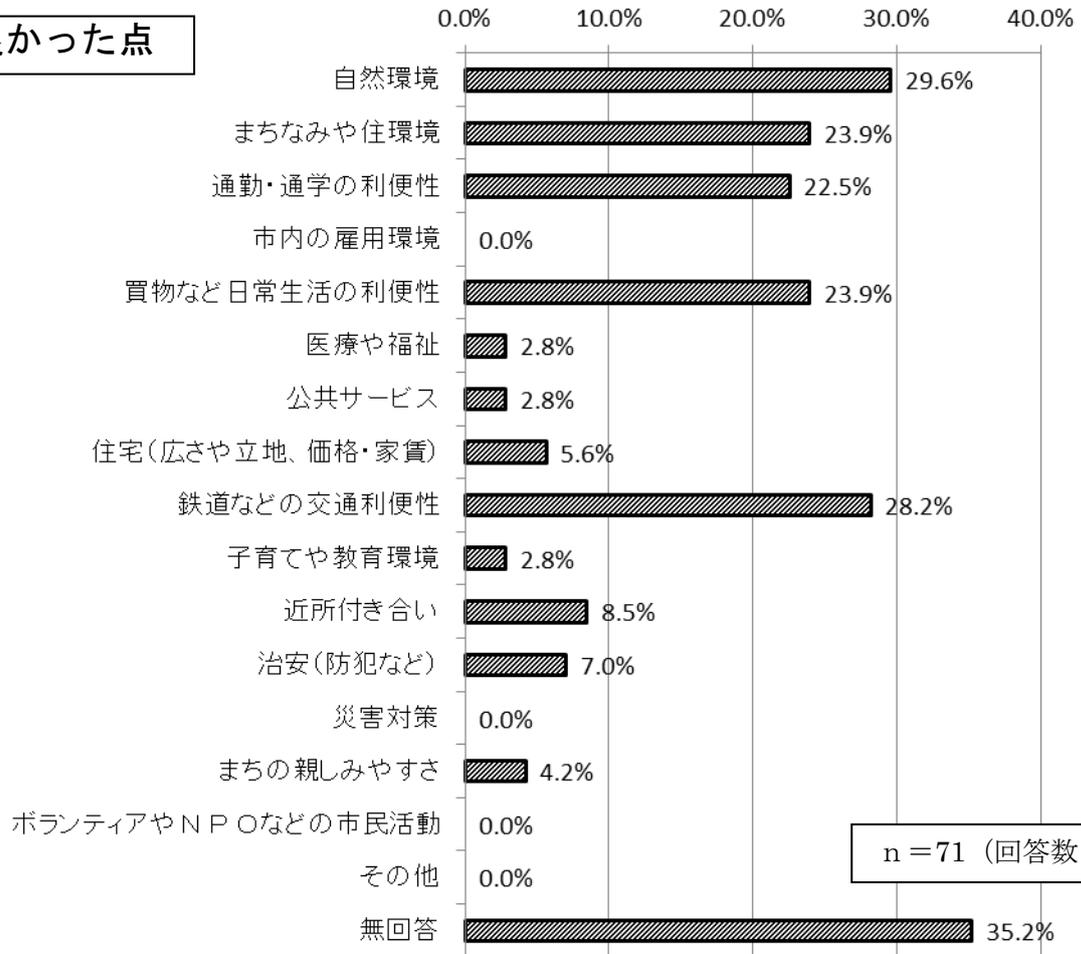
○「まちなみや住環境」も23.9%となっており、転出する人からは利便性だけでなく、自然・生活環境など、多様な住み良さが評価されています。

【治安や公共サービスにやや不満】

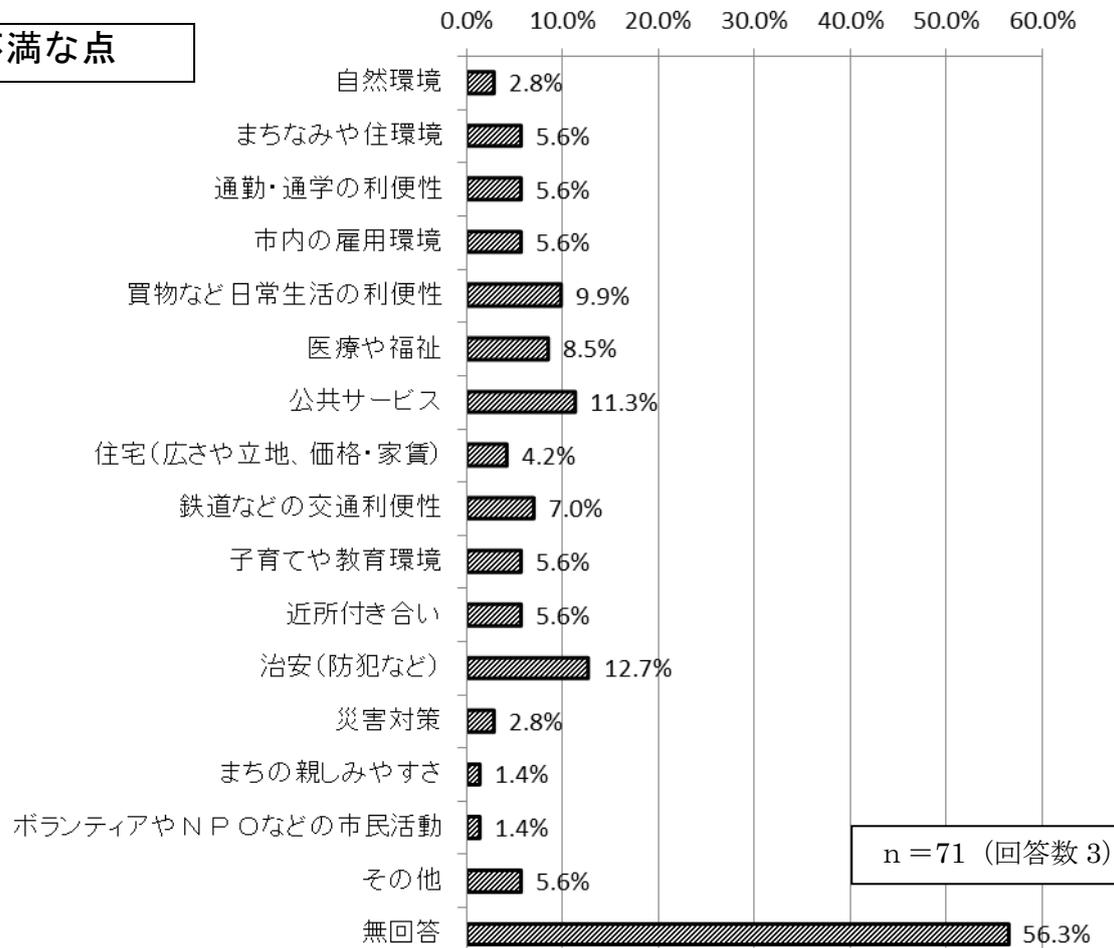
○不満だった点を尋ねたところ、56.3%が無回答でした。

○選択されたものとしては治安（防犯など）が12.7%、公共サービスが11.3%と、この2項目だけが10%を超えています。

良かった点



不満な点



【自由意見（転出アンケート）】

テーマ	意見
自然	<ul style="list-style-type: none"> ・自然が豊か。 ・自然が残っている事が良かった。
住み心地	<ul style="list-style-type: none"> ・静かで交通機関も充実していて住み心地は良かった。ただ、買物の利便性が少し悪くなった（イオンの閉店）ことが気になった。 ・新婚初の住環境、とても良かった。ありがとうございました。
道路	<ul style="list-style-type: none"> ・道路が広いと良い。 ・物集女街道の交通の便が更によくなること、町が活性化されると良いなど考えていたが、10年振りに住んでも殆ど変化がなかった。向日市の良さを外側にもっと伝えていければと思います
交通安全	<ul style="list-style-type: none"> ・親しみやすさはあるが道が狭く危ない。子育てする時は不安だと思う。
子育て環境	<ul style="list-style-type: none"> ・他の市町村に比べ自然があつて子どもも伸び伸びと元気よく育ってくれた。20年間ありがとうございました。
上水道	<ul style="list-style-type: none"> ・水道代が全国平均よりかなり高い。
行財政	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所が駅から遠い。開庁時間に行けず、出張所もなく不便。子育て環境が全くなく遠くの施設や保育園に行っていたので不便だった。 ・税金が高い。

**向日市まち・ひと・しごと
創生総合戦略（案）**

向日市

【目次】

はじめに	1
1 基本理念	2
2 基本的な考え方	2
3 計画期間	3
4 基本目標と施策の展開	4
5 基本目標ごとの具体的施策	5
基本目標 1 地域特性を活かして「しごとの場」を創る	5
基本目標 2 向日市の魅力を高め、人の流れを創る	7
基本目標 3 安心して結婚・出産・子育てできる仕組みを創る	9
基本目標 4 時代の要請に合った、安心・安全な暮らしを創る	11

はじめに

平成20年に始まったわが国の人口減少は今後、加速度的に進むことが予想され、わが国の喫緊の課題となっています。人口減少及び少子高齢化の進展は、国民所得の減少、地域活力の低下、社会保障費の増加、そして地方自治体財政の縮小など、社会経済や国民生活にとって大きな影響を及ぼすこととなります。

こうした状況に対して国は、活力ある日本社会の維持のために人口減少への対応を不可欠な課題ととらえ、①東京一極集中の是正、②若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現、③地域の特性に即した地域課題の解決、という3つの基本的視点のもと、平成26年に「まち・ひと・しごと創生法」を制定しました。

この中で、人口減少の状況は、地域によって状況や原因が異なり、地域特性に応じた処方せんが必要との考え方から、すべての都道府県及び市町村において、平成27年度中に、人口の将来展望を示す「地方人口ビジョン」及び地域の特色や地域資源を生かし、地域の活性化と人口減少対策を示す「地方版総合戦略」の策定に努めることとされています。

また、国民の希望を実現し、人口減少に歯止めをかけ、平成72年に1億人程度の人口確保を目指す「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」と、人口減少の克服及び地方創生をあわせて行うことにより、将来にわたって活力ある日本社会を維持するために平成27年から5年間の施策をまとめた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が閣議決定されました。この国の戦略では、地方の自立につながるよう、国から地方公共団体への多様な支援と「切れ目」のない施策の展開が示されています。

本市においては、桂川・洛西口新市街地に大型商業施設や企業が進出するとともに、住宅の立地が進み、今後数年間は人口増加が予想され、他のまちと異なった状況となっておりますが、長期的には、人口減少の傾向となることが予想される中、国や京都府と連携しながら、地域活性化を総合的かつ効果的に推進していくための政策を定めた「向日市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定するものです。

1 基本理念

本市は、京都・大阪の大都市圏の間に位置し、名神高速道路や国道171号が南北に縦断し、コンパクトな市域に、鉄道駅が多数ある交通利便性の高いまちです。

本市における「地方版総合戦略」である「向日市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「戦略」という。）」の策定にあたっては、この特性を活かし、住む人にも、訪れる人にも魅力を感じられるまちづくりを進め、その魅力を市内外に発信し、まちの価値を高めることにより、誰もが安心して暮らせるまちを目指すものとします。

また、国や京都府の総合戦略と整合を図りつつ、向日市のまちづくりを効果的に進めていくため、国の総合戦略が目標とする「人口減少対策」「地域経済縮小対策」に関わる施策について、国が示す「①安定した雇用を創出する、②地方への新しいひとの流れをつくる、③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる、④時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」という4つの政策パッケージを考慮した計画としてとりまとめます。

なお、戦略の策定及び実施においては、広く市民の希望を把握するため実施した、市民アンケートの結果等を十分に踏まえ、将来にわたり、活力と魅力あるふるさと向日市を創り上げていくこととします。

2 基本的な考え方

(1) 基本目標

向日市における地域活性化を総合的かつ効果的に推進していくための施策の展開を目指し、国の定める4つの政策パッケージに沿って、次の4つの基本目標を掲げ、具体的な施策の展開を図ります。

基本目標 1	地域特性を活かして「しごとの場」を創る
基本目標 2	向日市の魅力を高め、人の流れを創る
基本目標 3	安心して結婚・出産・子育てできる仕組みを創る
基本目標 4	時代の要請に合った、安心・安全な暮らしを創る

(2) 戦略の推進とPDCAサイクルによる運用

戦略の実行にあたっては、外部有識者（市民、産業界、行政機関、大学、金融機関、労働団体、言論界）による「向日市ふるさと創生計画委員会」を発展的に継続し、戦

略の進捗状況の管理・把握と効果の検証を行います。進捗状況の管理・把握にあたっては、設定したKPIを基本に、PDCAサイクルによって、戦略の柔軟な見直しを図ります。

3 計画期間

平成27年度を初年度に、平成31年度までの5年間を計画期間とします。

4 基本目標と施策の展開

4つの基本目標に沿って以下の施策を展開します。

【基本目標1】地域特性を活かして「しごとの場」を創る

- (1) 商工業の活性化
- (2) 農業の活性化

【基本目標2】向日市の魅力を高め、人の流れを創る

- (1) 観光振興の推進
- (2) まちの魅力の戦略的発信

【基本目標3】安心して結婚・出産・子育てできる仕組みを創る

- (1) 安心して産み育てる体制づくり
- (2) 子育てを支援する保育環境づくり

【基本目標4】時代の要請に合った、安心・安全な暮らしを創る

- (1) 交通ネットワークの整備
- (2) 地域消防・救急力の強化
- (3) ごみ減量化の推進
- (4) 生活習慣病予防による健康生活への支援
- (5) 地域包括ケアシステムの推進
- (6) 認知症施策の推進
- (7) 安心して暮らし続けられる共生社会の実現
- (8) 福祉のまちづくりの推進

5 基本目標ごとの具体的施策

【基本目標1】地域特性を活かして「しごとの場」を創る

＜数値目標＞

目標項目	目標数値
市内の創業件数	5年間で20件

＜基本的方向＞

桂川・洛西口新市街地に大型商業施設や企業の進出が進み、本市を取り巻く状況が大きく変わろうとする中、歴史・文化資源が豊富でコンパクトな本市の特性を活かし、商業・工業・農業の連携を図りながら、地域産業の活性化に取り組みます。

＜具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）＞

（1）商工業の活性化

歴史を活かしたまちづくりの施策と連携しながら、商工業者の育成や誘致を支援する取組を推進し、市内商工業の振興、活性化を図ります。

◆KPI

項目	目標
経営指導数	H26：900件 ⇒ H26実績比10%増

（具体的な事業）

- 事業所の要望・相談等及び進出する事業所に対応する窓口体制の整備
- 大型商業施設との差別化を図った魅力的な店づくりへの支援
- 金融支援方策の充実の検討

(2) 農業の活性化

新鮮で安心・安全な農産物を提供するために地産地消を推進するとともに、新たなブランド農産品の開発の支援や農業資源を活用した農商工の連携により、やりがいのある農業経営を支援します。

◆KPI

項目	目標
愛菜楽市出品農家数	H26 : - ⇒ H31 : 30件
特産品開発件数	H26 : - ⇒ H31 : 3件
常設販売所の設置	H26 : - ⇒ H31 : 1か所

(具体的な事業)

- 地産地消の拡大
- 耕作放棄地の防止施策や放置竹林対策の実施
- 特産品の育成・開発への支援
- 農商工の連携による市内産業の活性化

【基本目標2】向日市の魅力を高め、人の流れを創る

《数値目標》

目標項目	目標数値
観光入込客数	H26：260,000人 ⇒ H31：390,000人
観光消費額	H26：87,000千円 ⇒ H31：130,500千円

《基本的方向》

将来の人口定着には、まず本市を知ってもらうことが大切なことから、訪れたいくなる魅力を高め、来訪者の受入体制の充実を図るとともに、その魅力をより効果的に伝える戦略的な情報発信を強化します。

《具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）》

（1）観光振興の推進

本市が誇るべき歴史・文化資源を活かし、地域経済の活性化を図り、また、国内外から積極的に観光客を誘致するため、ハード・ソフト両面での総合的、多角的な観光施策を推進します。

◆KPI

項目	目標
観光振興プランの策定	H28：策定
特産品開発件数	H26：－ ⇒ H31：3件

（具体的な事業）

- 観光振興プランの策定
- 土産品等特産品の開発及び飲食店、特産品販売所の開設支援
- ホテル等の複合型宿泊施設の誘致

(2) まちの魅力の戦略的発信

ふるさと向日市に対する理解と愛着を深められるよう、歴史の事実とまちの魅力を市内外に戦略的に発信します。

◆KPI

項目	目標
向日市検定受検者数	H26 : - ⇒ H31 : 延べ5,000人 (5年間で)

(具体的な事業)

- 向日市検定の実施

【基本目標3】安心して結婚・出産・子育てできる仕組みを創る

《数値目標》

目標項目	目標数値
年間出生数	H26：411人 ⇒ H31：500人

《基本的方向》

子育て世代が、このまちに住みたいと思える保育環境や社会活動・就労で活躍できる仕組みを充実させていきます。

《具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）》

（1）安心して産み育てる体制づくり

- 安心して子どもを産み、健やかに育てることができるよう、妊娠期から継続的に支援できる環境を整備します。また、育児支援や親子の交流促進を図るなど地域ぐるみで子育てを応援します。
- すべての子どもの成長・発達に応じた専門的な支援をするため、母子保健対策を充実します。

◆KPI

項目	目標
子育てコンシェルジュによる妊婦の面接	H26：－ ⇒ H28：100%

（具体的な事業）

- 妊娠から子育てまでの切れ目ない支援体制の充実
- 配慮を必要とする子どもたちの成長・発達の支援

(2) 子育てを支援する保育環境づくり

子育て支援のための施設の整備を図るとともに、時間延長等多様な保育サービスの充実に努めます。

◆KPI

項目	目標
年間を通じた待機児童数	H26：13人 ⇒ H28：0人
保育所定員	H26：1,050人 ⇒ H28：1,199人

(具体的な事業)

- 年間を通じた待機児童の解消
- 時間延長等保育サービスの充実

【基本目標4】時代の要請に合った、安心・安全な暮らしを創る

《数値目標》

目標項目	目標数値
市民の定住意向の割合	H27：73.8% ⇒ H31：80%以上

《基本的方向》

本市はコンパクトな市域の中に多数の鉄道駅があり、広域的な交通利便性が高いまちです。こうした特色を活かし、少子高齢化社会においても地域の支え合いを基本として、だれもが安心・安全・健康な暮らしができる環境をつくります。

《具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）》

（1）交通ネットワークの整備

交通弱者の日常生活の交通手段を確保するため、市の地勢や地形にふさわしい身近な公共交通の導入を図ります。

◆KPI

項目	目標
新たな公共交通の導入	H31：運行開始

（具体的な事業）

- コミュニティバス等新たな地域公共交通手段の導入

(2) 地域消防・救急力の強化

市民一人一人の救急救命に関する知識を深めるとともに、技術の向上に努めることで、複雑・多様化する災害への対応能力の向上を図ります。

◆KPI

項目	目標
消防団員数	150人体制の維持
救急救命講習の受講者数	H26:398人 ⇒ H31:450人

(具体的な事業)

- 消防団員の確保と消防団活性化の推進
- 市民の救急対応の向上推進

(3) ごみ減量化の推進

ごみの減量化や資源再利用の取組を強化し、持続可能な循環型社会を目指します。

◆KPI

項目	目標
市民一人一日当たりごみ排出量	H26:560g/日・人 ⇒ H31:540g/日・人

(具体的な事業)

- 公共施設等における資源ごみ回収場所の拡大
- 小型家電の回収推進
- 家庭ごみの発生抑制及び事業系ごみの排出抑制

(4) 生活習慣病予防による健康生活への支援

市民が主体的に健（検）診を受け、生活習慣の改善などの健康づくりに取り組めるよう支援します。

◆KPI

項目	目標
特定健診受診率	H26：43.9% ⇒ H31：50%
特定保健指導の実施率	H26：26.9% ⇒ H31：35%
乳がん検診受診率	H26：22.4% ⇒ H31：25%

(具体的な事業)

- 特定健診等の受診率向上と生活習慣病の重症化予防
- がん検診体制の充実

(5) 地域包括ケアシステムの推進

地域全体で高齢者を支える地域包括ケアシステムの機能強化を図ります。

◆KPI

項目	目標
地域包括支援センターによる訪問回数	H26：3,319件 ⇒ H31：4,870件
各種健康・介護予防事業参加者数	H26：12,043人 ⇒ H31：12,400人
地区別地域ケア会議の開催	H26：30回 ⇒ H31：45回

(具体的な事業)

- 地域包括支援センターの機能強化
- 介護予防施策の充実

(6) 認知症施策の推進

認知症に対する市民の理解を深めるとともに、認知症高齢者を早期発見して支援につなげます。

◆KPI

項目	目標
認知症チェックサイトへのアクセス件数	H27：9,700件 ⇒ H31：12,000件
徘徊SOSネットワーク協力事業所数	H26：166箇所 ⇒ H31：220箇所

(具体的な事業)

- 認知症高齢者を支える体制づくりと早期発見の取組の推進

(7) 安心して暮らし続けられる共生社会の実現

障がいの有無にかかわらず、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる施策の充実に努めます。

◆KPI

項目	目標
手話通訳者の配置	H27：2人 ⇒ H31：3人
計画相談支援 作成率	H26：91.2% ⇒ H31：100%

(具体的な事業)

- 相談支援体制の強化
- 地域での生活を支援する福祉サービスの充実

(8) 福祉のまちづくりの推進

市民一人一人がご近所や地域で助け合い、支え合えるまちづくりを進めます。

◆KPI

項目	目標
地域の見守りネットワーク事業協定事業者数	H26 : 1事業者 ⇒ H31 : 6事業者

(具体的な事業)

- 地域ぐるみで見守り、支え合う環境づくりの推進